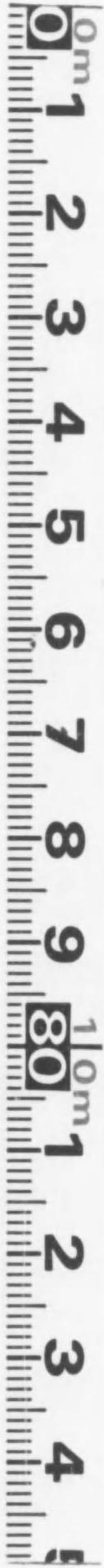
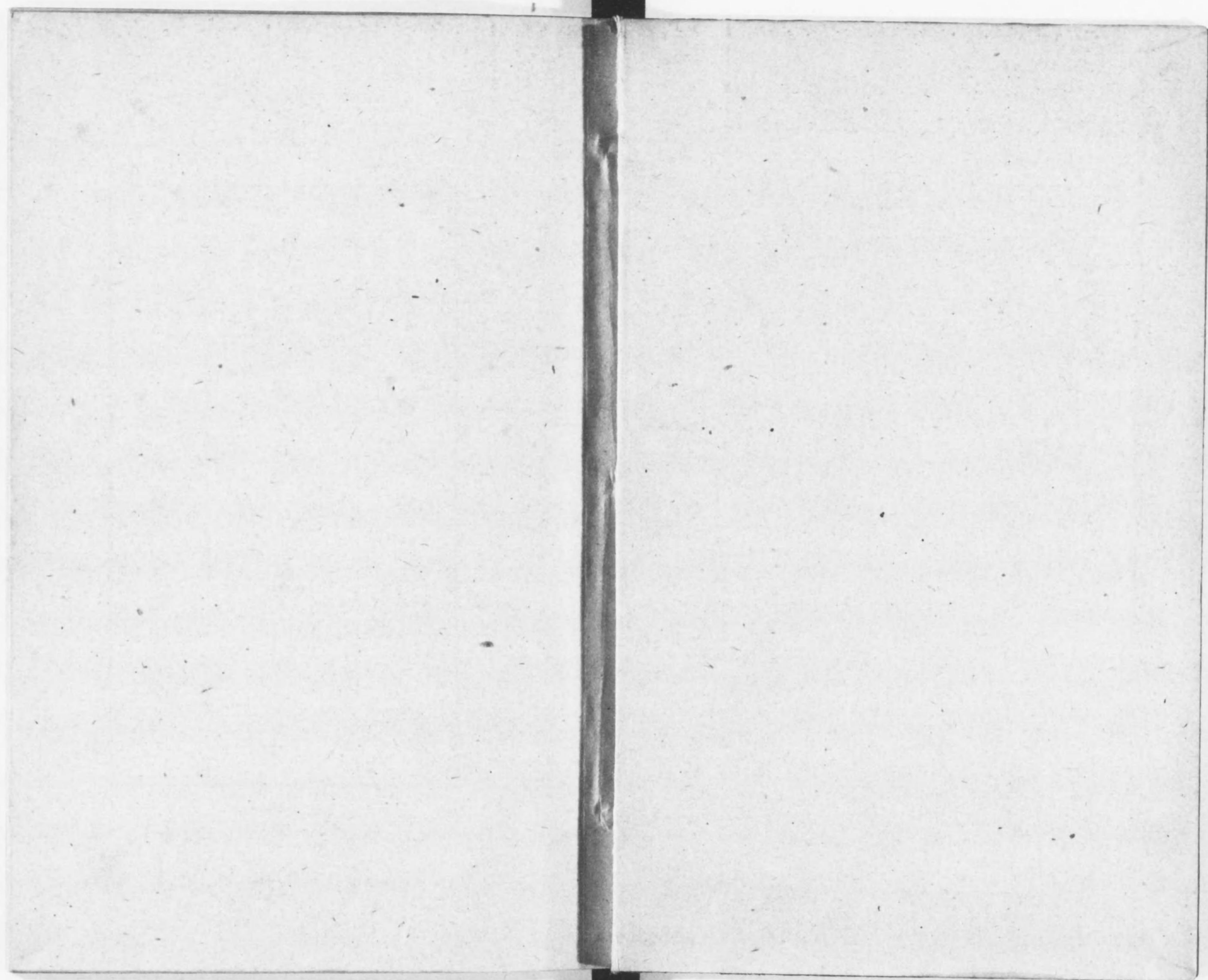


255.7-21



始





7



文學博士 澤柳政太郎著

タロツチ

帝國教育會出版部版

大正  
15. 11. 20  
内交



本書原版は廣澤定  
中氏との共著に成れ  
るものなり(発行者)

愛は事<sup>す</sup>に依<sup>り</sup>り信<sup>じ</sup>仰<sup>ぐ</sup>は  
信<sup>じ</sup>仰<sup>ぐ</sup>は事<sup>す</sup>に依<sup>り</sup>り  
知識<sup>は</sup>研<sup>究</sup>す  
事<sup>す</sup>に依<sup>り</sup>り  
善<sup>は</sup>言<sup>は</sup>はる  
依<sup>り</sup>り  
依<sup>り</sup>り

255.7-21

## 序

大正十六年は、我がベスタロッチの死後滿百年に當る。思ふに、世界各國に於て其の記念祭が行はれ、ベスタロッチに關する著作や論文も澤山に出ることであらう。實にベスタロッチは、瑞西に生れて瑞西の人であり、瑞西の一市民として死んだのであるが、今は彼は世界各國民の間に生れ變はつて居ると云つてもよい。今日の彼は一瑞西人ではない、實に死後に於ける彼の國籍は、世界各國に在ると云ふべきだと思ふ。それで我が國でも彼の百年忌を盛に營みたいものである。

私は、明治二十一年に大學を出て、直ちに教育に従事することゝなつたが、在學中彼の傳記を読んで大に感心した。何といつても七八十年も前の人であるから、彼の教育上の意見は幼稚たるを免れなからうが、教育者としての精神は、此の上なきものと思つて、私の感心したのは、主として彼の徳行の方面であつた。

かくて明治二十七八年の頃、『教育者の精神』と題する小冊を著はして公にしたが、其の一章に『ベスタロッチ…人皆ベスタロッチたるを得べし』を設けて、彼の徳行を稱へたことがある。又明治三十年に前橋中學を卒業した一秀才廣澤中といふ青年の爲に、其の學資を得る途を講ずる要が起つた。その時に色々考へて、ベスタロッチの傳記を編して出版することを思ひ立つた。即ち數ヶ月を費して作つたものが、本書である。本書は廣澤君と共著として公にしたが、私もたしかに共著の責任を盡した。實に遺憾なことには廣澤君は本書の公にされた後數年にして夭死した。

本書は私が可なりの熱を以てベスタロッチに傾倒して居る時に作つた爲めか、自分で云つては變であるが、自分の書いものゝ内では佳作であると思つて居る。唯、今日で見ると、文章體で書き、且つ漢文句調が多いので、聊か時代錯誤の感がないでもない。しかしベスタロッチの精神を描き出すことには、相當に成功して居ると今日でも思つて居る。

私は屢々本書の中にベスタロッチに採る所は其の教育の思想よりも教育者たるの精神と徳行にあることを述べて居る。本書述作の時はたしかにさう思つて居つた。然るに、西洋に於いて

は、ナトルプの如きは、ベスタロッチを研究して、其の哲學其の思想に深遠なるものゝあることを明かにした。我が國に於ても、廣島の長田教授の如き、ナトルプに繼いで更にベスタロッチを研究しつゝ、彼の思想の發表に力めて居る。かくて私の眼に映するベスタロッチは益々大を加へ愈々光を増すことゝなつた。將に其の百年忌を營まんとするに臨み、茲に三十年前の舊作を其のまゝ公にするのも亦一の供養となるであらうと信ずる。

大正十五年十一月

澤柳政太郎

## 例言

一、此の書は主としてルッセル英譯ドッグンの「ベスタロッチ」に據り編輯したるものなれども、敘述の順序、事實の取捨の如き、將た又評論の正否の如きは、編者の責を辭せざる所なりとす。

一、ベスタロッチの行實は洵に金玉の燦爛たるが如く、後世教育者の模範とすべきものならざるはなし。特に其の精神其の熱誠に至りては、世界の教育者中優に古今獨歩と稱するを得ん。然るに今や之を寫すの文字に至りては始ど瓦石に異ならず、實に生硬艱澁を極め、稿成りて編者自ら失望せり。讀者もし文字によりて意を害するなくんば則ち幸なり。

一、ベスタロッチは徳あり行あり、言ある君子なり。縦ひ讀者其の言を取らざるも、其の徳と其の行とに至りては必ず取るべしとなさん。而して編者の微意も亦實にこゝにあり。故に性行を敘するに詳かにして、言説に略せり。



一、ペスタロッチの傳記は教育者に大なる感動を與ふるを誤らざるべし。編者が毫も圈點等を施して着眼の箇所を示さざるは、讀者の各々其の感ずる所に從ひて之れを施さんことを思へばなり。

明治二十九年即ちペスタロッチ誕生百五十年の十一月前橋寓居に於て

編者誌

# ペスタロッチ目次

一	ペスタロッチを論ず	一
二	幼年	五
三	修學時代	六
四	生涯の目的	七
五	最初の教育事業	七
六	スタンツの孤兒院	八
七	ブルグドルフの公立小學校	二四
八	ブルグドルフの私立學校	三五
九	イフェルダン學校(上)其の盛運	一六〇

一〇 イフェルダン學校 (下) 其の衰運……………一七四

一一 晩生の生涯……………二二九

一二 著作……………二三〇

一三 逸事……………二七七

附 録……………二六八

—「ペスタロッチ」目次 終—

# ペスタロッチ

## 一 ペスタロッチを論ず

今茲に明治二十九年を距ること正に百五十年、佛にはルーソウの如きナポレオンの如きあり、獨にはフィヒテの如き、ゲーテの如き出で、政治界思想界及び文學界に立ちて、燦然光輝を放つ時代の當りて、山紫水明風光秀麗なる瑞西も亦教育界に一大人物を産して世界に大恩恵を給與したりき。嗚呼是れ誰ぞ、ヘンリー・ペスタロッチ即ち其の人なり。

峻樓高閣を平として雲煙模糊の間に立たば、行客は先づ仰いで其の崇と大とに驚かん。而して後、近く住きて其の結構の壯、建築の美を詳にせんと欲するならん。今それ教育史上、高く天空を摩して讀者の眼前に聳ゆる所のペスタロッチ、豈に讀者の一顧を煩はすに足らざらんや。吾人は先づ試みに之れを論ぜん。

渠は悍鷲に似て復家鳩の如く、猛獅に似て復山羊の如く、大人に似て復小兒の如く、勇は以て鬼神を欺く可く、愛は以て嬰兒を懐く可く、柔中に剛あり、剛中に柔あり、多面多角、不可思議の賦性を有し、政治問題にまれ、社會問題にまれ、將た教育問題にまれ、苟くも人類の位置を高むることに關して必要なるものならんには、凡て之れを攻究精思して餘力を遺さず、遂に教育史上頭地を抽くの効果奏することを得て、百年後の今日なほ赫々の名聲を擅にす。渠も亦偉人と謂ふべき哉。抑、渠は果して如何なる人なりし乎、其の容貌風采は如何、其の才藻學藝は如何、其の力量は如何、其の才幹は如何、其の心操は如何、將た其の本領特質は如何。曾てベスタロッチの學生にして後に有名なる歴史家となりたるフルリーミンは、親戚及び故舊のためとて、著はしたる其の幼時の回顧録中に記して曰く、

諸子試みに念一念せよ、渠の頭には粗豪にして逆立ちたる毛髪を戴き、顔には數多の痘痕を印し、且つ黄なる斑點は其の全部を蔽ひ、汚れたる鬚髯は長く尖りて芒刺の如く、極めて醜き人にてありき。又渠の頸には絶えて襟飾りを纏ひしことなく、足に着けたるは不恰好なる袴、弊れたる靴下及び巨大なる靴のみなりき。加之、其の歩みさまは正整ならず、其の眼は大にし

て輝くこともあり、或は窪み落ちて半ば閉ぢたることもあり。其の顔色は或は深き悲しみを包みたるが如く、或は平和の波を湛へたるが如し。其の語るときは忽にして緩且つ音楽的に、忽にして急且つ迅雷の如くなりき。諸子はかくて予等が曾て父と呼びたる其の人の面影を見ることを得たらん、と。

上は王公貴人より下は田夫野翁に至るまで等しく讚嘆畏敬せし偉人ベスタロッチが容貌風采の眞に斯くあるべしとは嗚呼誰か之れを期せんや。然れども容貌の美醜、風采の文野の如き、何ぞ深く論ずるに足らんや。吾人は是れより一層進みて其の才藻學藝に鑑みん。

家庭に在りて早く耳を小説に傾け、其の想像を逞うし其の觀察を恣にしたるは渠が幼年時代の事業にあらずや。其のチュウリック大學に在りてデモッセニスの演説を翻譯して名を校内に轟かしたるは、亦渠が修學時代の事業にあらずや。其の著作に従事して幾多の名説卓論を以て世人を聳動せしめたるものの中、「レヲナルドとゲルトロルド」の第一巻が以て名聲を文界に擅にしたるは、是れ渠が齡ひ而立の頃の事にあらずや。因りて憶ふ、渠が文學的天才の如き、少なくとも常人の下に立たざるべきを。然れども、文法に通ぜざる、典籍に親まざる、否、讀書せざ

るを以て人に誇りしことあるベスタロッチ其の人に取ては、此の事寧ろ意想外の成功にはあらずや。蓋し操觚の業は其の志し、所にあらざるなり。況んや其の自ら任せし所に非ざるをや。それ既に自ら任せず、假令ひ成功の聊か見るべきものありとするも、其の眞價は固より知るべきのみ、吾人の渠に取る所のもの亦何ぞこゝにあらんや。渠曾てブルグドルフの公立學校に奉職せんことを願ひしことあり。チャールス・モンナードは此の時に於ける渠を評して曰く。

此の時に於てはブルグドルフの有司は、一小學校と雖も之れをベスタロッチに委任することを敢てせざりしなるべし。此の人や後にこそ世界を動かす程の大名を揚げたれ、此の時に於ては極めて庸劣なる候補者(教員の)にすら拮抗することを得ざりしならむ。渠は萬事に短處多かりき、其の言語の濁りて不明なる、其の習字に拙劣なる、其の圖畫を全く能くせざる、將た文法を無視したる、一も長ずる所にあらず。渠は博物科中の種々なる學科を學びたれども、其の分類法又は名稱などには特に注意する所あらざりき。渠は又通常の計算には熟達したりしかど、乗算又は除算の稍々錯綜せるものに至りては大に苦しみしなるべく、又幾何問題の如きは恐らくは曾て解釋を試みしことすらあらざるべし。加之、渠が書卷を手をせざるも亦年

既に久しと云ふべし。渠は時に或は興湧き感起りて詩の小片を口吟するが如きことはありたらんも、之れを高く吟歌することは到底能くせざりしなるべし。

されば渠が學藝の程も亦以て察すべきにあらずや。若しそれ仔細に渠を觀察したらんには、目して缺點となすべきもの何ぞ限りあらん。其が人の非點を看破する能はざる、其が人を信用するの過度なる、其が舉措進退の奇矯に失して常套を脱せる、將た力量・才幹及び實用的熟練に乏しかりき等は、蓋し其の主なるものならずんばあらず。

此くの如く、容貌風采の見るべきなく、才藻學藝の取るべきなく、將た幾多の指摘すべき缺點を有する、天下廣しと雖も、蓋し渠の如く甚だしきは殆ど稀なるべし。而してこれらの諸點に於て渠に優り渠に秀で而して渠を壓倒し得べき者、世豈に其の人に乏しからんや。

然らば則ち偉人の面目那邊にある、哲人の本領那邊にある。抑々容貌風采は以て田夫野翁を欺くに足らず、學藝才藻は以て僅かに成童を服するに過ぎず。教育改革者として聲名を後代に轟かし、遺徳を後昆に傳へたる偉人ベスタロッチの人物も、若し物質的的外形的の見よりして之れ評論せんには亦たゞ此くの如きに過ぎざるなり。

然れども、其の膝下に養はれたる幾多の貧兒をして、之れを呼んで父と云はしめたるものは豈に渠にあらずや。其の事業を共にせし多數の補助者をして、如何なる事に遭ふも曾て渠に離るゝに忍びざらしめたるものも亦渠にあらずや。乃ち知る、渠は決して平々凡々を以て目すべき人物に非ざることを。況んや其の才幹力量の少且つ短なるにも係はらず、ノイホフ、スタンツ、ブルグドルフ、イフェルダン等所在に於て、千艱を凌ぎ、萬難を排し、屢々偉大の効果を奏して、人の耳目を驚かしたるが如きことに於てをや。況んやまた不朽の眞理を發見して教育史上優に一頭地を抜き、遙かに後世を靡ねくが如き概あるに於てをや。こゝに至りて誰かまた渠を目して哲人にあらず偉人にあらずと斷言するを敢てし得る者かある。因りて疑ふ、渠をして此の高尙なる地位に進ましめたるもの即ち其の本領特質なるものは果して何くにかあると。顧ふに讀者は固より之れに答ふる所以を知るなるべし。請ふ一言以て之れを蔽はん。云はく、堅硬なること石の如く玲瓏なること玉の如きの心操、即ち儒家の所謂仁、聖徒の所謂愛、佛徒の所謂慈悲心なるもの、是れ即ち彼が本領特質なり、と。蓋し抑揚あり、頓挫あり、又波瀾ある渠が畢生の事業は、其の根源を此の心操即ち貧民に對する憐愍の一念に發すればなり。他語

を以て之れを云へば、渠が事業の出立點は即ち此の一念に外ならざればなり。渠をして墮落せる小兒と接觸することを厭はざらしめたるものも此の一念なり。渠をして疾病ある小兒と同食することを辭せざらしめたるものも亦此の一念なり。或は神學家たらしめ、或は法律家たらしめ、革命家たらしめ、農學家たらしめ、新聞記者たらしめ、教育家たらしめ、困苦極めざるなく、辛酸嘗めざるなく、以て光澤あり色彩ある其の全生涯の歴史を織り成さしめたるもの、凡て此の一念の然らしむる所ならずんばあらず。若しそれ渠よりして此の一念を奪ひ去らんか、恰も是れ生きたる木偶に過ぎざるのみ、生命なき肉塊の如きのみ。要するに、貧民の不幸を憐れむの一念こそ、これ眞に渠が生命なれ、骨髓なれ、其の熱心の如き、其の忍耐の如き、其の愛情の如き、將た其の忘我の如き、苟くも美を極め善を盡し、以て人を聳動せしめたる程の諸徳も皆此の根本的一念の時に隨ひ處に應じて名を變へ形を異にしたるものに過ぎず。請ふなほ其の智徳を吟味せん。フルリーミンは又渠に就きて記して云はく（前記の引證と併せ見るべし）予は此の如く渠に就きて汝に語りしと雖も、予等は實に彼を愛したりき。然り、予等の中一人たりとも渠を愛せざる者は未だ曾てあらざりき。何となれば渠は予等の總べてを愛した

ればなり。予等は一時たりとも渠が見えずなりたる時には、何となく心細く又もの淋しく感ぜられ、頓がて再び歸りたる時には、予等の眼は渠の顔面に注ぎて須臾も離るゝこと能はざりき。予等の渠を愛するの切なる、實に此くの如きものありしなり。

其の愛情の人を動かすの大なる、概ね此の類なり。其の貧兒に父と呼ばれ、又候補者に推重せられたる所以のもの亦偶然に非ざるなり。思ふに渠の人に於ける尙ほ磁石の鐵に於けるが如きか、何ぞそれ相吸引するの爾かく甚だしきや。

渠は嘗てフェルレンベルグと親交したりき。其のフェルレンベルグに與へたる書中には、其の思想も感情も長所も短所も、殆ど傍若無人に吐露して毫も蘊む所なし。其の千七百九十三年十一月十五日、リヒテルスウキルより渠に送れる書中に云はく、

予はたゞ、薄弱なる一老翁のみ。予が智識には無量の缺點あり。且つ予が智力は比較的に小なり。然れども萬事に於て予が意志の予が利己心のために支配せられざるは、恐らくは予が唯一の特質ならんかと。

渠が忘我の徳に富みしは其の生涯の歴史明かに之れを證せり。蓋し渠が一代は殆ど忘我の痕

跡なり。渠も亦自から知るの明ありと謂ふべきなり。其の熱心の如き、其の忍耐の如き、例を擧げ證を求めなば其の煩に堪へざらんとす。然れどもこれらの事實は苟くも其の傳を繙かん者の皆能く知る所、吾人復何をか贅せん。吾人は思ふ。天下の廣き、人物の多き、目して偉となすべき者何ぞ限らん、然れども渠の如く熱心に、渠の如く忍耐に、渠の如く慈愛に、將た渠の如く忘我の徳を備ふる者、天下廣しと雖も、人物多しと雖も、果して幾人かある、渠は容貌風采の點に於て已に衆に劣れり。才藻學藝の點に於ても亦人に下れり。然れどもこれら諸徳の完全且つ偉大なるに至りては、類を絶ち群を超へて叟かに一頭地を抽んずるものと云ふべし。嗚呼ベスタロッチをしてベスタロッチたらしめたるもの蓋し這個の裡にあらんか。チャールス・モンナードは又渠を評して云はく、(前記の引證と併せ見るべし)

渠は、通常の才ある青年が二年間にして上達すべき程の普通の知識を缺きし代りに、極めて堪能なる教師すら全く知らざりし所のものをば獨り十分に之れを知れり。何ぞや、云はく、人心及び其の發達の法則・仁愛及び之れを鼓舞し且つ之れを高尙ならしむるの術即ちこれなり。渠は人の性質を直覺的に透見するに妙を得たるものの如し。而かも渠は人の性質を研究

する一事に至りては決して倦みしことなかりき。

人固より能あり不能あり。其の一事に長ずる所以は即ち其の他事に短所なる所以なり。其の觀察力の深遠なる、其の想像力の豊富なる、將た其の直覺的に主義を獲得するに敏捷なる、それ或は非凡の天才とも云ふべきか。然れども吾人は一事を知らざるべからず、渠がこゝに一長所を購はんがためには、他に之れと匹敵すべき幾多の短所をも亦之れと共に買ひしことを知らざるべからず。即ち其の長所を單に天才の結果として見んこと、吾人未だ其の可なるを知らざるなり。

此くの如きの知、此くの如きの情、是れ渠をして渠たらしめ、又渠をして不朽の名聲を擅にせしめたる所以なるなからんや。此くの如きは固より天稟に基づく所多かるべく、境遇に關する所も亦固より少なからざるべし。然れども之れを鼓舞し、之れを激勵し、以て完全なる發達を遂げしめたるもの、云はゞこれら諸徳の動機となるものに至りては、吾人は斷じて其の偉大なる心操、所謂同胞に對する憐愍の一念即ち是れなりと絶叫せずんばあらざるなり。是れ豈に獨り吾人の私評ならんや。ベスタロッチ自身も亦實に正しき自己の判斷者なりき。請ふ渠が晩年の

著「鵠の歌」に依り、如何に渠が自身に就きて語れるかを見よ。

予は予が同胞に對する切なる同情と愛念とを以て溢れたる心操の外には一も氣力を有せざるなり。予は力量なく、才幹なく、而して又實際的熟練なるものなきなり。從來の制度・習慣・懶惰・利己及び予に勝りて狡智ある人の情慾は、是れ予が徹頭徹尾反對して措かざる所なり、予は恰も成人の者と争ふ所の小兒の如く然り。と。

其の自から任じて自から負ふの所、之れを想見すべきにあらずや。乃ち知る、才智は其の生命とする所にあらず、學業亦其の骨髓とする所にあらず、渠の渠たる所以のものは實に是れ貧民に寄するの同情一片、即ち吾人が所謂堅硬なること石の如く、玲瓏なること玉の如きの心操に存することを。即ち其の本領特質もこゝに至りて亦たゞ知るべきのみ。

此くの如くにして、渠の事業は其の心操の大磐石の上に築かれたり。然れども失敗と困難との大波瀾は時に之れを動搖して、渠をして其の立脚點より失脚せしめんとせり。此の時に當りて能く渠を保護して平安ならしめたるものは、實に其の宗教上の大信念に存せしなり。渠曾てノイホフに於ける慈善事業に失敗せしことあり。此の時に渠は自ら嘆息して云はく

基督は其の身と其の教へとを以て、他人の善のために吾人が所有する凡ての物のみならず、我が身をも其の犠牲に供すべきことを教へ、且つ吾人が既に所有せる何物と雖も、是れ決して絶對的に吾人に附與されたるものにはあらず、たゞ吾人をして慈善の行爲に於て懇篤に之れを使用せしめんがため、神より吾人に委託されたるものなることを示し給へり。と。

渠が失望と困苦とに遭遇して、よく之れを和らげ且つ之れを慰めたるは、往々此の類なりき。其の事に當るに及んで、一敗を経る毎に勇氣一倍し來るの概ありし所以のもの抑々亦原因なくんばあらず。世固より儒名にして墨行なる者多し。然らば何ぞ墨名にして儒行なる者あるを怪まんや。ベスタロッチは基督の獨斷を信ぜざりし人なり。特に其の人類原罪の説の如きは、其の教育上の根本的眞理と相撞着するものあるを以て寧ろ之れに反對したるもの如し。然れども渠の如くに基督教徒らしき者、世上果して幾人かある。渠は蓋し所謂墨名にして儒行の者の類乎。渠は實によく基督の精神骨髓を曉りしなり。噫、世の儒名にして墨行なるの徒、否、自ら宗教徒と稱して却りて名利を是れ競ふの輩、豈此の無名の大宗教家に對して忤怩たらざるなきか。然れども渠は宗教家として吾人の面前に立つ者にあらず。吾人の渠を待つも亦宜しく然るべ

し。吾人はたゞ醇乎たる教育家として渠を待ち且つ迎へんことを欲す。然れば則ち其の教育家としての眞價は如何、其の學説は如何、及び其の教育史上に於ける地位は如何、是れ吾人の切に知らんと欲する所なり。

顧ふに以上述ぶる所を味ひたらん者は、また以てほど其の教育家としての眞價を了得することを得べきなり。故に吾人は此の點に於ては敢て言ふ所あらざるべし。若しそれ其の學説に至りては請ふ之れを一言せん。而して其の教育史上に於ける地位の如きも亦不完全ながら自然に認識することを得べきのみ。吾人は既にベスタロッチが事業の出立點は、幾多の生黎を其の貧苦と墮落との境遇より救ふの方法を探究するにあることを知れり。渠は早くも、貧民が渠等自らを助くるの能力と之れを欲するの意志とあるにあらざるよりは、決して之れをなし得べからざるものなることを看破したり。即ち道徳及び智力の缺乏にして存在する限りは、渠等の物質的缺乏も亦決して消滅せざるべきを看破したり。他語を以て之れを云はゞ「眞の救治は即ち教育に外ならず」との一語に約せらるゝなり。こゝに於て乎。渠は極めて幼き小兒に就きて人の性質を研究し、以て貧苦のために甚だしく墮落せる家族すら、なほ能力・情操・趣味及び才能を含



ベスタロッチ

一四

有する種子とも云ふべきものあること、及び此の種子を自然的に發達せしむれば、以て社會が要する所のあらゆる智力・道德及び體力の三需要を満たしむることを得べきを發見せり。

渠は又當時に於ける通常の教育が、小兒に於けるこれら元素の使用に依りて發達せしめ、且つあらゆる小兒の最上能力を勵まさんがために、これらの元素に注意することをなさず、却りて小兒の前に知識・觀念及び他人の感情を置き、以て小兒をして、之れに依りて其の習慣を支配し且つ之れを其の記憶の中に固着せしめんと企つるの外、更に一事をもなすことなく、かるがゆゑに最も貴重すべき能力は不活動の中に萎靡して振はず、教育と云ふもたゞ他より借りたる觀念の堆積の下に個人性を壓伏するの外、何の役をもなさざることを見たり。

當時の教育の方針とせし所は外より内に進むにあれども、ベスタロッチは内より外に及ぼすの方針を取れり。

ベスタロッチが小兒の教育を植物の發達と比較したることは深く眞理を穿てるものにして、智力・徳力・體力の機關的發達の意見を含有するものとす。而して此の意見こそ、實にベスタロッチをして既往の人に超え、嶄然頭角を露さしめたるものなれ。

之れを要するに、ベスタロッチは思想の人なると同時に又活動の人なりしなり。ルソーの如きは則ち然らず渠を目して思想の人と云ふ、固より不可なきなり。稱して活動の人と云はんは則ち未だし。是れ渠の自然主義が一極端に偏して而して又後進ベスタロッチの折衷する所となりたる所以なり。然れどもルソーが立言の功の如きも未だ俄かに没すべからざるものなきにあらず。獨りベスタロッチに至りては、其の立德・立言の功、今日と雖も、なほ炳焉として世に光あり。而かも吾人の其の言を取らずして、其の徳を取る所以のものは、其の本領特質の誠に彼にあらずして此にあればなり。

噫、世の教育者たるものベスタロッチに負ふ所果して幾何ぞ。

その智を恃み能に誇るの輩、及び之れに反して其の不足と缺乏とに自棄するの徒よ、ベスタロッチの生涯の歴史は果して汝に何事かを告ぐる。

## 二 幼 年

梅檀は二葉より異香を放つ。偉人傑士の幼時、亦豈に自ら群に抜くものなからんや。然れども、

ベスタロッチを

一五



其の拔群なるものに至りては、萬人を通じて一樣なる能はざるものあり。即ち才識を以て衆に抜く者あり、智謀を以て倫に絶する者あり、或は德行を以て著はれ、或は勇氣を以て勝り、或は又平凡なるが如くにして、却りて卓抜なる者なきにあらず。人の生涯の源頭なる幼時に於て其の軒輊を定め、其の優劣を判するは、また容易の業にあらざるなり。吾人はベスタロッチの幼時に鑑みて亦此の感なくんばあらず。渠が幼時に方りてや、學藝の以て儕輩を凌ぐに足るものあるにあらず、智謀の以て衆人を壓するに足るものあるにあらず、平々凡々、一も取るべきものなきが如く爾かりき。然れども、熟々、其の幼時を精察洞觀したらんには、渠が他日、貧者の好同伴として、人道の保護者として、將た教育の改革者として、鬱乎、天を蓋ふの大樹となり、以て地上幾多の生靈を蔭ひて、腐敗・墮落・不義・壓制の酷熱より免れしめたるの結果、遂に萬世不朽の名聲を贏得せし所以のもの、また素養の自ら淵源あるを看取し得ん。噫、此の一偉人は、知らず、是れ誰が家の寧馨兒ぞ、又如何なる家庭に在りて、如何なる境遇に接したる者ぞ。請ふ、吾人をして先づ其の幼時を語らしめよ。

紀元千五百六十七年、アントニー・ベスタロッチは、亡命の一新教徒としてチエベンナより、

其の妻マデリン・ミューラルトは、ロカルノより、共に異安心の故を以て追放せられて、チュウリック市街に遁れぬ。アンドリユー・ベスタロッチは、即ち其の後裔にして、又此の傳の主人公たるヘンリー・ベスタロッチの祖父なりとす。

アンドリユーの子、ジョン・バプチストは、チュウリックに於ける生計裕かなる外科醫にして、眼科醫を以て名聲大に揚がる。チュウリック湖畔、山水明媚なる一村落、リヒタース・スウィルに一女子あり、スザンナ・ホッツと名づく。有名なる、ドクトル、ホッツの妹にして、又千七百九十九年にシエーニスにて戦死したる、ホッツ將軍の姪なりとす。ジョン・バプチスト之れと婚してヘンリー・ベスタロッチを生む。

ヘンリー・ベスタロッチは、實に千七百四十六年正月十二日を以て、チュウリックに生れたり。即ち獨逸の大詩人ゲーテに先だつこと三年、佛國の思想家ルーソーに後るゝこと三十四年なりき。其の幼時の家庭と境遇とは、少なからざる影響を渠が性情の上に及ぼしたりき。

ヘンリー・ベスタロッチの五歳の時、父は病を以て、寡婦と二男一女と及び極めて少許の財産とを残して永眠せり。長子バプチストは夭折し、次女バーバラはライブシッタの一商人と結婚

しけるが、ベスタロッチは之れを愛敬すること殊に甚だしく、バーバラも亦渠と生涯の間交通を怠らざりき。母は才能ある一婦人にして賢母の譽れ高かりしが、父の死後は、一意専心、其の子女の教育に心身を委ねてまた他を顧みざりき。其の寡婦となりてより以來、なほチユウリツクに居住したる所以のものは、蓋し其の遺子教育上に大便利あるを以てなり。然れども、若し彼女にして忠實なる一下婢の熱心なる補助あるにあらざりせば或は恐る、其の遂に寡婦として遺子教育の義務を全うすること能はざりしを。ベスタロッチ後年自ら其の幼時の教育に就いて記して云はく、

予が母は、凡ての快樂を犠牲に供して、以て其の力を三子の教育に致せり。卑賤なる年若き下婢は、能く予が母を補佐して此の献身的義務を全ふせしめぬ。予は今なほ此の人を忘るゝ能はず。彼女の我が家に來りて未だ數月ならざるに、予が父は早くも彼女が世に稀れる忠實ものにして又非常に機敏なるものなるを看破せり。予が父は其の病益々革るや、赤貧洗ふが如くにして家に餘財多からざれば、坐ろに死後のことを思ひ續けて苦悶措く能はず。乃ち下婢ベベリーを病床近く召し寄せ、托するに後事を以てして云はく、「ベベリーよ、請ふ決して

予が妻を見棄つること勿れ。予今死なば、彼女は遂に如何なる憂き目をや見るらん、予が兒女も亦誰が手に落ちて末は如何なる悲境にか沈まん。思ふに汝が補助あるにあらざれば、予が妻は到底其の子女を保持する能はざるべし」と。熱誠眞摯なるベベリーは、太く此の語に感激して献身的精神を鼓舞したりき。彼女は予が父に語りて云はく、「主君、百歳の後と雖も、妾何ぞ夫人に背きたてまつるべき。妾不敏と雖も、夫人にして妾を要し給はゞ、妾は死に至るまで夫人と共にあらんことを欲す」と。父は此の語を聞いて大に慰むる所ありしにや、溫容面に溢れ、喜悅の眼は輝きぬ。而して呼吸は程なく絶え入りぬ。

果せるかなベベリーは其の言を食まず。死に至るまで予が母を輔佐したりき。而してよく困苦窮乏、殆ど想像すべからざる境遇の下に、二男一女の教養に身を委ぬる予が母を輔佐したりき。其の全く無教育なる一女子なるにも係はらず、事に臨みて敏捷にして且つ精緻なるには殆ど驚嘆せざる者なかりき。

且つ彼女の信實なると、其が動作の如何にも謹嚴なるとは、蓋し其の敬神と信仰の念の然らしむる所なり。如何なる苦痛の事と雖も、一たび約束したることならんには、彼女は決して

て果さずして止みしことあらざりき。

寡婦としての予が母の位置が、嚴密なる節約を要せしことは勿論ながら、斯かる主人の下にありて、バベリーが如何なる困難に遭遇せしかは、殆ど想像すべからざる程の事なりき。野菜若しくは果實を買ふに當りて、僅かに五厘か一錢を利せんがためには、農夫が早く家に歸らんことを欲して、荷物を賣り盡くすに急なる機を察せんとて、彼女は二回若しくは三回までも市場に往きたりと云ふ。曾にこれらの事のみならず、斯かる節約は萬般の事どもに適用せられたり。然らずんば、予が母の纖弱き腕にては到底、二男一女の教養に給するに足らざりしなり。予等若し故なくして外出せんとすることあらんか、バベリーは予等を押し留めて云はんとす、何故、用もなきに外出し、無益に衣類や靴を消磨し給ふぞ。御身が母は無一物にて暮らし給ふを知らずや、過ぎつる數月間は一步も戸外に踏み出で給はず、一錢一厘たりとも徒には消費し給はず、斯かる苦辛と節約とは皆是れ御身が教育のためなるを知り給はずや。然れども彼女自身、予等のために誠實を盡せしこと及び其の間斷なき献身的辛勞に至りては、未だ曾て一言半句も之れを口に洩せしことあらざりき。其の精神の高尙なる以て推知すべきなり。家内に於

ける節約はかくの如くに嚴密なりと雖も、決して我が家從來の慣例の之がために亂さるゝ等のことあらざりき。施物・賑恤、新年の贈物に充てられたる金額は、予等が平生の入費に比して頗る巨額に達せり。斯かる臨時の入費は予が母及びバベリーを苦しめしこと、固より大なりきと雖も、渠等は毫も之れに辟易せしことなく、斷々乎として之れを支辨したりき、予が兄弟及び予自身も凡て美しき嘔衣を所持したり、然れども予等は叨りに之れを着けず且つ之れを久しく保たしめんがために、家に歸るや否や、予等は直ちに之れを脱ぎ捨てたり。若し予が母が來客を待する折りなどには、予等の一房は直ちに接客室に使用せられぬ。と。

斯かる節約の中にも、子供等はなほ小許の金を貯ふることを得たりき。一日、ヘンリー・ペスタロッチは、其の衣囊に數錢を藏するを得けるが、其の家の近傍なる菓子屋の窓に善き菓子を見たり。幼さな心の無邪氣なる、之れを求むるの念禁する能はず。乃ち之れを買はんとて其の舗に往く。舗はシュルテスと呼ぶ人の所有に係れり。中に一人の少女あり、アンナ・シュルテスと呼ぶ。ペスタロッチより長すること七歳。舗を守りて店頭にありしが、ペスタロッチの菓子を買はんとするや、かの少女は押し止めて云はく、願はくば其の金を保ちて他日有用の資に供し給へ、

と。誰か圖らむ、此の一片の忠告を渠に與へし一少女こそ、他日ベスタロッチ夫人となりて、終生其の清節を全うせし希世の良妻ならんとは。實に是れ天緣奇偶と云ふべし。

要するに、ベスタロッチの保育せられし家庭は、頗る健全なるものなりき。何となれば愛情と平和と熱誠とは絶えず此の家に宿りたればなり。其の經濟は甚だ嚴密なりきと雖も、而かも亦寛大なるを失はざりしなり。兒童に對しては滿腔の愛情を吐露し、事業に對しては熱心の極、我あることを忘れ、寛裕にして且つ嚴密に、平和にして且つ活潑なりし後年のベスタロッチは、即ちかくの如き家庭に成長せり、若しそれ渠が往年の一幼童なることを憶ひては、吾人は此の家庭にして此の人ありとの讃辭を呈せざらんと欲するも得べからざるなり。

渠は幼より終日戸内に籠居し、身體的活動の如きは其の關する所にあらずき。思想は實に渠が唯一の朋友たりしなり。その小説及び物語の類に至りては、渠が熱心に耳を傾けし所なり。而して一たび之れを聞くに及んでは一語も忘却せしことなく、且つ千思萬考、或は自ら身を小説中の主人公の位置に置き、或は又書中の人物を種々なる境遇の下に置き、以て思を潛め、想を凝らしたるが如きは、自ら尋常の讀書家に異なる所あるにあらずや、然れども長所は直ちに

短所なり。渠が終日想像にのみ忙がはしかりし所以は、實に是れ生活の實際より愈々益々遠ざかりたる所以なりき。

ベスタロッチが幼時の教育は、凡ての緊要なる部分に於て、特に愛情の發達の點に於て最も完全なるものなりき。然れども其の缺點とも云ふべきは、生れて戸外に出でず、常に婦人の手に養はれ、同時代の少年と交はることをせず、又戸外の遊戯に加はることをせず、且つ幼にして早く父を失ひたるが故に、其の感化を被ること能はざりしこと等なり。是れ渠が生涯を通じて、臆病にして鹵莽に、虚弱にして多感なりし所以なるなからんや。後年、其の盟友となりたるニ―デレル、曾て渠を評して曰く、ベスタロッチは、男子の如くにして又婦人の如くなり、と。噫、家庭の感化、豈にそれ輕忽に附すべけんや。

ベスタロッチが幼時の生活は、實に源を心情と想像との中に發したりと云ふべし。渠が思想は事物の關係を會得するに敏捷なりきと雖も、之れに耽ること甚だしかりしを以て、遂に渠をして放念・不注意ならしめ、且つ形式禮儀に無頓着ならしめたるのみならず、又日常生活の物質的要件にも顧慮せざらしむるに至りたりき。渠が後年、幾多の失望に遭遇せし所以の禍根は、既

に此の時に胚胎せしものと云ふべきなり。

渠の小學に行くに及んで、其の心情と想像とは、漸くにして著はれ初めぬ。渠は屢々機敏を以て賞せられしと雖も、日常の學課に至りては其の成績甚だ悪しく、特に習字と綴字との二科に於ては、受持教師をして其の無能なるに驚かしたる程なりき。然れども渠が性質の善良にして親切なる、よく其の同輩の愛好する所となりき。然れども、渠等は時には其の善人なるを利として屢々渠を嘲弄することありき。ベスタロッチは、此の時期に關して自ら記して曰く、

他の子供等ならんには、殆ど泣き止まざるほど苦しみたらん失敗も、予に於ては何の感じもあらざりしなり。予が望みしこと又は恐れしことが如何に重大なりしとするも、其の事の予一身に關する限りは、其の事一たび過ぎ去りて一二日を経過したらんには、恰かも曾てあらざりしかの如くに忘却し了るに至りぬ。予は幼時よりして衆人の翫弄物となりき。空想をのみ養ひし予が教育は、予をして衆人の能くする所を能くせざらしめ、衆人の樂しむ所を樂しまざらしめたりき。予が學友なる小童は、予をして彼等が自ら行くことを欲せざる所に行かしめけるが、予は乃ち其の命のまゝに行きにき。一言以て之れを蔽へば、予は渠等が要する凡てを仕遂

げたりき。一日チュウリックに地震ありし時、教師も生徒も、一時に周章狼狽して二階より下れり。而かも誰れ一人として再び二階に行き帽子又は書籍を携へ出すを敢てする者あらざりき。然るにたゞ一人往きて之れを携へ來りし者は實に予なりき。予は此くの如くなりしにも係はらず、予が交友と予の交情は依然として、毫も温きを加へざりしなり。予は此くの如くに辛苦艱難したれば、ために聊か得る所なきにあらざりしかど、日常の學科に至りては、予の渠等に及ばざること皆に數等のみならず。

他の小童よりも予は些細の事のために自ら苦しめり。然れども、予は之れを意に介せざりき。予は予が力の全く及ばざる事をも能くすべしと思へり。予は予が母の家及び予が學校の窓よりして浮世を推量せり。而して人間の通常の生活は全く予には知られざりしなり。予は恰かも別世界に生活するものの如くなりき。と。

以て渠が學校生活の狀況一斑を知るべきなり。九歳の時より、渠は毎年夏期に當り祖父アンドンリユーに招かれて、渠と共にチュウリックを距る約三英里の寒村ヘングに數週間を費せり。小學生徒としてのベスタロッチが、愉快なる休日を費せしは實に此の村なり。其の初めて天然の風

物に接し、田野の作業を愛することを知りしも亦此の村なり。其の初めて、八十有餘歳の全生涯を擧げて、之れを貧民の犠牲に供せんと一大道念を獲得したるもまた此の村なり。噫大慈善家ベスタロッツを瞑想する者、誰かまた此の邊陲の荒村ヘングの名を聯想せざらんや。

此の時に當りて、此の地方の農夫は既に農工を結合し初めぬ。然れども、なほ未だ工場又は製造所の設立せらるゝものあらず、たゞ家々戸々、僅かに手をもて紡績事業を営みしは眞に事實なりき。

ベスタロッツの祖父、アンドリユー・ベスタロッツは、實に此の村の牧師なりき。蓋し牧師の職たるや固より崇高なり。然れども其の崇高なる所以は即ち其の困難なる所以にぞある。其の義務は廣大にして無邊なり。渠は其の周圍を繞る所の物質的・智力的及び道德的の缺乏に對して永久の戦闘を続けざるべからず。其の銳意熱心に盡力するにも係はらず、周圍の陋態は依然として改まらざるを見るに及んでは、千練百磨を累ねたる鐵の如き信念を有する者に非ざるより、焉んぞよく落膽より免るゝを得んや。ベスタロッツの祖父アンドリユーは、眞摯なる信念ある人にして、其の全力を職務のために傾注したる人なりき。ベスタロッツは、父の感化に接する能は

ざりし代りに、大に祖父の素朴活潑熱心なるに鼓舞せられたりき。渠は後年に至りて、居常自ら語りて云はく、小兒をして天帝の恐るべきを知らしめんには、眞正なる基督教徒を渠に聞見せしむるより善きはなし、と。渠が此の言ある所以のもの豈に偶然ならんや。

祖父アンドリユーの日々、教會所領の學校・貧民・病人等を巡訪するや、幼きベスタロッツは、常に祖父の手に引かれて伴はれぬ。渠は、かくて偶然にも初めて、人世の眞態を審にし、貧民の痛苦の如何に大なるものなるかを了解することを得たりき。こゝに於て乎、貧民に惠賜するの同情は、始めて幼な心に湧き出でたり。爾來渠が腦裡を充たせしものは何ぞ。如何にして貧民の痛苦を救済すべきかの問題即ち是れなりき。

渠は祖父の慈善的獻身的なる活潑の動作に勵まされたり。因つて思へらく、我は牧師となりて祖父の如くに貧者を救済せん、と。牧師の職は、端なく此の幼童の理想となれり。乃ち神學の研究は其の所修學課と定まりぬ。

世の學に志す者固より多し。功名のためにする者、利達のためにする者は、吾人多く之れあるを聞く。其の利害を外にし、榮辱を顧みず、廉潔無垢の情操を以て學に志す者に至りては、



吾人の寡聞なる、未だ多く之れを聞かざるなり。吾人のベスタロッチに取る所のもの、豈に鮮少ならんや。吾人は思ふ、ベスタロッチをしてベスタロッチたらしめたる所以のものは、其の志望の高尙純潔なるに在りて存す、と。

幼年のベスタロッチは、實に以上記する所の如し。知らず、後年のベスタロッチは果して如何其の幼時の道念は果して生涯を一貫したりや否や。社會的生活のベスタロッチは家庭的生活のベスタロッチと、如何に同じくして又如何に異なる所ありしか。請ふ後段の諸章を見よ。

### 三 修學時代

烏鬼匆々、歲月人を待たず。曾ては頑是なき、一乳臭兒なりし渠も、今や家庭の貝殻を破り來りて、將に光彩陸離波瀾重疊たる新生涯を始めんとす。渠は高等なる教育を受けんが爲めに、チュウリツク大學に入れり。然るに時勢は一轉して雲蒸龍變、萬丈の波瀾を捲き起し來りて、急行疾呼するものに似たり。此の時に當りて、渠何ぞ。悠々閑々冷靜沈着、以て首を湘素の間に俯するを得んや。渠が滿腔の熱血は、汪乎として澎湃し來れり。それたゞ、澎湃し來れり。

焉んぞよく堤防を破壊し、斷岸を崩解せずして而して止むものならんや。乃ち奮然として起てり。起ちて年少氣鋭の士に結びて、旗鼓堂々、或は人心の腐蝕を憤り、或は世道の廢頹を慨して縱橫論難、叱咤風を生ずるの所は、宛然是れ燕趙悲歌の士乎。公明正大、讜言直論、有司の虐政を痛罵し、正義の湮滅を憤慨して、寧ろ玉と碎けんとするに至りては、渠は豈、我が邦幕末に於けるの吉田松陰なる乎。吁、前には同輩の兒童が翻弄嘲笑にさへ反抗するを敢てせざりし渠をして、今や忽ち燕趙悲歌の士たらしめ、又忽ち吉田松陰の輩たらしめたる所以のものは何ぞ、時勢英雄を作る乎。英雄時勢を作る乎。教育改革の使命を帯びて天より來れるベスタロッチをして、其の天職以外に爆裂彈的の進行路を歩むの止むを得ざるに至らしめたる所以のものは、渠が寧ろ深謀遠慮に乏しき、先天的血性漢なるの然らしめたる所なりと云ふと雖も、抑々また風雲險惡なる時勢の渠を激勵鼓舞して、こゝに至らしめたるに因らざるなきを得んや。前世紀の中年に及んではチュウリツク高等教育は、頗る長足の進歩を呈せり。而して其の名聲四隣に噴々たりし所以のものは、實に其の高尙にして獨創的なりしに在り。而して熱心銳意、自然主義を唱導して、當時を噪がしたる、ウアルフの哲理は、儼然として、當時、チュウリツクの學者

社會を睥睨し、以て一代の思想界を支配せり。而して氏が哲理の種子は、如何なる成果を現象の上に結びたるか。素朴の風俗、日耳曼文學の再興及び政治上の自由に對する時人の執着こそ、是れ實にウルフが哲理に賜にして、而してベスタロッチをして、空しく政治上の事に奔走せしめて、以て眞職業即ち教育改革の大事業に従事するの機會を遷延せしめたるのも、亦此の賜に外ならざるなり。この時に當りて、チュウリック大學は神學・醫學及び法律の三科の設ありて、滿十五才の少年は之れに入ることを得るの制なりき。而して此所に教鞭を揮へる者を誰とかなす。神學に於ては、教授チンメルマン、希臘語・希伯來語に於ては、教授ブライチンガー、歴史・政治に於ては、教授ポドマーの三氏にして、みな是れ當代錚々の名士なりとす。而してこれら諸名士の下に養はれたる學生等が、社會に立ちて一種異彩あるの事業を企てたるは全く渠等が熱血を漚いで擲擧掖導したる感孚力に因らずんばあらず。請ふ三氏が性行の一斑を敘して、以て其の偶然ならざる所以を説かん。

剛毅・眞學、且つ宗教心に富むと雖も、毫も局量偏少の疵なく、極めて敏活に、極めて寛仁に、又極めて沈着にして、よく眞理の味方となり、人類の同胞となり、而して一たび、チュウリック

大學に来るや、かの古風の教育法の如く、形式に泥まず、嚴酷に失せず、以て師弟間の交誼を厚うしたる者はチンメルマン其の人なり。此の人やベスタロッチの大學に入りたりし頃は、他に、轉任して既に在らず。されど、其の遺風は其の後を襲ぎたる講師にすら及びきと謂ふ。

常に希臘文學を以て他邦國民の智識の源泉なりと論じ、且つ此の精神を以て、熱心に之れを生徒に授け、渠等をして容易に之れを理解し且つ之れを咀嚼するを得しめたるのみならず、更に之れに伴ふ幾多有益なる訓戒を與へ、加之、生徒を提撕すること慈母の赤子に於けるが如く、生徒の之れを視ること、また愛兒の嚴父に於けるが如くなりしものは、ブライチンガー其の人なり。

チュウリックに居ること殆ど五十年、英才卓識の士は皆、其の養成する所とす、其の生徒を教ふるに當りては、言必ず瑞西の歴史と制度とに關し、以て學生をして正義と自由との念を起さしめ、時に或は慾望を制限す可しと教へ、家庭の快樂を賞讃す可しと説くかと思へば、或は當代の風俗及び社會組織が日に解體腐敗しつゝあるを看破し、之れを挽回して古への敦厚朴素の風に復するに務むべきは、學生の責任なることを論ずるものは、是れ即ちポドマー其の人なり。

吁、是れ、ベスタロッチの時代に於けるチュウリック大學の盛觀なり。而して顧みてチュウリック市街を望めば則ち如何。

詩人クロップストック、其の著「救世主」を世に公にせし後、チュウリックに來りて、ポドマーを訪ふ。ポドマーは蓋し「救世主」の眞價を評隲せし第一の人なりき。其の後、ウァイランド來り、クライストまた來りて、チュウリックの一小市街は今や時ならぬ陽春の花をぞ咲かせける。爾來、大家碩學の此所に來り遊ぶ者、日に愈々多きを加へたるの結果、遂にチュウリックをして文學活動の中心たらしむるに至れり。クライスト、書をグライムに寄せて云はく、

チュウリックは世界に於て有數の市街の一に位す可きものなり。獨り其の位置の莊嚴なるが爲めにのみ然るにあらず、又、人物の淵藪を以て云はんか、ベルリンの大なる、なほ學者文人を有すること僅かに三四輩に過ぎず。チュウリック小なりと雖も、其の之れを有すること二三十名の多きに上れり。と。

是れに因りて之れを観るに、文學の源泉、人物の淵藪は、當時、實にチュウリックに在りしを見る可きなり。

吁、大學の光景、既に爾り。チュウリックの學界、既に爾り。而して一代を貫透通徹する、精神氣魄もまた既に爾りとせば、其の學生に及ぼしたる影響感化の如きも亦豈に大に見る可きもの無からんや。獨りベスタロッチのみにあらず、當時の學生は概して富を賤み奢を斥け、更に凡ての物質的娛樂を放擲して、たゞ精神的快樂をこれ事とし、直進徑行、正義と眞理とを追求して毫も飽かさざりしが如きは、豈に其の著しきものにあらざる無き乎。特にベスタロッチと渠が二三の友儕との如きは、數夜の久しきに彌りて、着衣のまま露地に臥したることさへありたりと云ふ。ベスタロッチ、後年、チュウリック大學に於ける、渠が修學に關して記せることあり。曰く

チュウリックに於ける教育の精神は頗る科學的なりきと雖も、又同時に學生をして塵世の外に超然たらしめ、以て之れを空想世界に導き去りたるものなることを忘る可からず。予等學生間にて俊秀の譽れありしラベーターと雖も亦是れ純粹なる空想家たりしことを免れず。予等は確乎として信ずらく、予等の欲する所のは、偏に獨立・自由・善行・獻身及び愛國に在るのみ。富貴と榮譽との如きは、吾人の關り知る所にあらずと。嗟呼何ぞ意氣の壯なる。蓋し予等は富貴の賤む可く、名譽の望むに足らざる、尊敬の求むるに價ひせざることを學びたれば

なり。されど、望む所を遂ぐるに必要な實際的智識は之れを缺けり。而して予等は又思へらく、中流人士が必要と認むる資格なくとも、若し適度と節約とを守りたらんには、何事も爲し遂ぐるを得べしと。詳言すれば、獨立を望むと云ひ、家庭の清福を祈ると云ふも、是れ其の相當なる位置に達するにあらざれば、到底、遂げ得可きの事ならざるべきも、予等はこれを意とせずして、空拳以て容易に之れを得べしと信ぜり。是れ亦故あり、曾て我が邦固有の美德として我が邦人の誇耀せる、古瑞西人の氣概、素朴の風習及び威嚴と眞實との如きは、當時、地を拂ふて將に湮滅に歸せんとするの狀勢なりしかば、予等は反動の勢に制せられて、遂にこゝに至りしに過ぎざるなり、と。

舉世滔々として精神的の一極端に偏向す、固より甚だ慶す可きの兆にあらずと雖も、當時社會の風潮をして果してベスタロッチの言の如くならしめば、一世の木鐸を以て自ら任じ、社會の改良を以て自ら處る者、また焉ぞ濁世の波を揚げて之れと浮沈するの時ならんや。吾人は其の偏向の奇矯に失したるを諄らすして、寧ろ其の氣骨稜々たるを多とせずんばあらざるなり。其の天性に於て、精神的偏向の健兒たるベスタロッチは、時維れ一千七百六十年、詩人クロッ

プストックが其の友なるポドマーの寓を辭してより以來七八年、即ち精神的偏向のチュウリッタ大學に冲天の勢を占めたるの時を以てチュウリッタ大學に入れり。吁、是れなほ火に投ずるに火を以てし、油に灑ぐに油を以てするの類の如き乎。さもあらばあれ、吾人はこゝに聊か教場以内に於ける渠に就いて記する所無かる可からず。渠が小學にて受けたる初等なる學科は、之れを如何にするも到底此の高尙なる大學科の豫備となすに至らざりしなり。然れども此の高尙なる精神的の學問は、感情熾盛なる渠が性質に適當したるを以て、其の才力の發達は實に驚くに堪へたり。前章既に記したる如く、渠は小學に於ては凡庸なる一童子なりしが、チュウリッタ大學に入りて後は、一躍して俊秀なる一學生となり、其のデモッセニスの演説を翻譯して名聲を大學内に轟かしたるは、實に渠が年齢、未だ成童を越えざるの時なりとす。

渠は先に牧師たらんことを企てしが故に、身を神學に委ねたり、されど其の卒業の後、渠は其の辯舌の訥にして到底説教する能はざることを知りしかば、轉じて法律の研究に移れり。聞説く、渠が説教試験に當りて壇上何事かを辯じ出すや、聽衆は可笑さに堪へざりけん。哄笑絶倒禁する能はざりしが故に、渠も止むを得ず説教を中止したることありたりとぞ。然れども

渠をして神學を斷念せしめたる所以のものは、獨り其の口辯の訥なるが爲めのみにあらずして、渠が思想の夙に他の方向を指しつゝありしに因らずんばあらざるなり。なほこゝに一の記す可きものあり。

渠が不正と壓制とを蛇蝎視したるは、今に始めぬことにはあれど、渠一日助教師某の或る不正の舉動あるを見るや、毅然として之れに迫り、論難詰責、一步も假さず、全級の生徒をして爲めに其の膽を寒からしめたりと云ふ。其の後、又匿名の書を草して之れを教育係に呈し、以て當時教育界に蟠まれる積弊を訶發して、端なく有司の憤怒を買ひ、遂に其の糺弾する所となるや、其の所説の眞なることは之れを證し得たりと雖も、爲めに嚴刑重罰を以て威嚇せられ、止むを得ずヘングに遁れて祖父の寓に潛みたりと云ふ。吾人は又、教場以外の渠に就いて少しく記する所なかる可からず。渠は、かくてヘングに遁れたり。其の間、何事をか聞き得たる。チュウリック市の官吏が、ヘングの農夫に重税を課し、或は商利を壟斷し、或は渠等に市民權を拒みたるなど、暴戾恣睢、至らざる所なく、農夫は之れが壓抑に堪へ兼ねて憤怒咨嗟の聲道路に喧しかりき。ベスタロッチは之れを聞いて烈火の如くに怒れり、渠は又、屢々叔父ホッツをリソ

ヒタースウアルに訪ひしに、又もや其の住民が、ヘングの農夫と同様の嘆聲を漏らすことを聞きたり。渠が血性多感なる、農夫貧民の痛苦に呻吟すること、かくの如きを知りては、豈に同情萬斛の涙を灑がずして止む者ならんや。況んやこれら農夫貧民はベスタロッチが田舎に還遊するに當りてや、滿腔の喜悅を以て渠を好遇款待せし者なるに於てをや。渠が予若し成人せば、誓つて貧民を援く可し。渠等もまた市民と同等なる權利を有すべしと絶叫したるは、正にこの時になりしなり。渠は田舎に還りては、此くの如く同情の涙に咽び、大學に住きては、ポドマーが、熱血を灑いで邦家百年の大計を揣摩論議するを聞けり。是れベスタロッチをして益々多血感の狂漢たらしめんとするものに似ざる乎。かくてポドマーの學生中には、チュウリックに一大改革を斷行するに銳意熱心なる少壯血氣の士を出せり。而してベスタロッチは、正に其の一員として嶄然頭角を露はしたりき。然れども渠等が一致團結したる所以のものは、抑々また他に一大原因なくんばあらず。蓋し前世紀の中年に於ける、瑞西の縣都は、概して其の田舎の地方をば、市街に隸屬せしめたり。而して此の市街たるや、特權ある二三勢家の支配の下に立ち、其の政治も概して溫和にして且つ親切なりしかば、人民は之れが參政權を有せざるも敢て不都合

とてはあらざりしなり。獨りチュウリックに於ては則ち然らず。十三の商業組合は全市の商工業の利益を壟斷して、大に人民を苦しめたり、狀勢既に此くの如くなりしかば、よしポドマーが議論の學生を鼓舞せること無しとするも、誰か之れに憤慨せざる者のある可きや。然るに、チュウリックの學生等は、たゞさへ有司の壓制に激昂し、自由を翹望して止まざること、此くの如くなるに、かてゝ加へて、一大事件は突如として湧出し、端なく、幾多の鞭撻を渠等に加へて、今や將に萬丈の氣焰を吐かしめんとす。是れ他なし、多年有司の壓制に苦しみたる、ジエネバ人民の蠢起したること即ち是れなり。チュウリックの學生輩、此の報を得て豈に默然坐視するに忍びんや、渠等は意氣軒昂、腕を撫して嘆じて行く、時到れり、機熟せり、と、將に其の平生の宿憤を爆然迸發せしめて、以てジエネバ人民の二の舞ひを演ずるに至らんとす。千七百三十八年、佛國及びチュウリックと、ベルンの二縣とはジエネバ政府の哀訴に依り、其の政府と人民との間に立ちて中裁の勞を取り、其の結果として、ジエネバ人民は有司の施設に關して、抗議と禁止との二權を得るに至りて、事僅かに鎮まりき。然るに又もや、千七百六十二年、ジエネバ政府は佛國々會の輩に倣ひて、「エミール」及び「社會民約論」の著者なるルーソーを責罰しけるに、

人民は誠心を推してルーソーに加擔し、政府に抗して其の不法にして且つ不正なる所置を撤回せしめんとしけるに、何ぞ圖らん、此の正當の請願は忽ちに棄却せられたらんとは。事ここに至りてチュウリックの學生たる者、豈に拱手緘黙するに堪へんや。果せる哉、チュウリックに於ける自由派の青年は深くジエネバ人民に同情を表し、斷然袂を投じて起てり。起ちて一大十字軍を企て、旗鼓堂々、以て常時陸梁跋扈を極めたる、虐政と不正とに對して大打撃を試みたり。渠等は市の長官に對して大に請ふ所ありしが、事、其の容るゝ所となり、不正官吏は免職せられ、以て幾分かの改革を遂ぐることを得たり。市の長官等は、今や將に青年社會に滔々として瀾漫し來らんとする精神氣魄の頗る畏る可きものなることを覺知し、少壯輩の言動を非とし、之れを罰するに二日若しくは三日の禁錮を以てせり、其の氣焰の盛んなりしこと今なほ想見するに堪へたり。

千七百六十五年、學生等は、「メモリアル」と題する週刊地方新聞を發刊せり。此の新聞たるや、其の目的とする所は單に風教上にありたれば、政治上の事は固より其の論議する能はざりし所なり。其の主筆はラベーターとフュツスリーなり、而して、ベスタロッチは主なる寄書家の

一人にして、時に年、僅かに十九歳。左に掲ぐるものは、當時渠が寄書の一節なるが、以て其の青年時代に於ける思想の一斑を窺ふに足らん。

人あり。云ふ、國家に重要な位置を占めざる青年輩が、其の國政に容喙し、或は之れを品評するが如きは、共に是れ其の本分に背けるものと謂はざる可からず、と。それ然る乎、然らざるか、予之れを知らずと雖も、予はただ予の抱負と希望とを有するを知るのみ。自ら有する希望と抱負とを吐露するに於て、誰かよく之を非難し又之れを禁止することを敢てする者ぞ。故に予は予が欲する所を述べ又之れを公にせざる可からず。若しそれ予を嘲笑する者あらば、予はたゞ、其の爲すがまゝに一任せんのみ。渠若し心あらば、他日或は予が眞意を了解するの時もやあらん。

晨霜烈日、凜乎として犯す可からず。

予は、かの尊大自ら處り、人の公共の爲めに勤勉する者あるも、冷然として之れを看過し以て得たりとなすの人あるを知る。然れども予はかくの如くにして恬然たる程の大度量を有せざるなり。否、却つて有せざりしを喜ぶなり。予は我が同胞なる賤民が、勤勉正直を以て

労働するにも拘はらず、なほ且つ之れを輕侮する者あるを惡むなり、と。

翻弄一番、貧民の爲めに氣焰を吐くこと幾十丈

予は二三の有志家の出づるありて、何人にも分り易き簡單なる教育書を著はさんことを望み、更に慈善家ありて、之れが印刷費を負擔し、以て之れを無代價にて世人に頒布せられんことを希ふ。若しそれ之れを世の父母たる者に頒布するの辛勞に至りては、請ふ僧侶諸君の手を煩さん。かくして、世の父母たる者はよく正當に其の兒女を教育することを得可きなり。世の父母たる者の爲めに教育の策を立つ。好意、豈に、謝せざる可けんや。

予は人の自營自活せんことを望み、而して又同時に出精勤勉ならんことを希ふ。吾人が自由の柱石となり、而して吾人の尊敬に價ひするもの、此の種の人を措きて、豈に復他に求む可けんや。

立言、確乎として動かさること泰山の如し。

然るに、ペスタロッチが、かく筆硯に従事しつゝありし間に前に、ルーソー責罰問題より起りし紛擾の餘焰は、今やジエネバに再燃して、遂に激烈なる官民の軋轢を惹起するに至れり。其

の勢、猖獗を極めて危機益、迫らんとす、こゝに於て乎、ジエネバ政府は、再び中裁を前の一國二縣に請ふに至れり。是れ實に千七百六十六年なり。同年三月、一國二縣より來れる中裁者は、ジエネバに會せり。然るに渠等は官吏に利にして人民に不利なる中裁條件を提出したりしかば、人民何ぞ之れに服せん。其の大多數を以て一舉に之れを拒斥せり。實にこれ同年十二月十五日の事なりとす。この時に當りて人心洶々道路説を傳ふる者あり。曰く、一國二縣の中裁者は、ジエネバ人民をして其の中裁に服せしめんが爲めに、兵をジエネバに送るの計畫を爲せり、と此の報のチュウリックに達するや、市民は歡天喜地、大に之れを祝して止まざりしが、獨り愛國派の青年等は、大に之れに激昂し、是れ即ちチュウリックをして、不義者の器械たらしむるものなりとなし、手強き反對を政府に試みたり。中に神學生ミューラーなる者あり。此の舉を聞いて切齒扼腕の餘、問答體の一書を著はし、大に時の政府を諷刺したりき。渠が書中、答問者の一人なる農夫の口を借りて結論せる所は、實に左の如くなりき。

ジエネバの市民は其の欲する所の法律を作るの權利あり。何となれば、人民の自由は其の欲するがまゝに政府をさへ組織することを得ければなり。且つ彼等は以前の協定に於て政

府の處置を採用或は拒否するの權を明かにせり。今則ち人民が一國二縣の中裁を拒絶したればとて、兵力を以て之れを強ひざる可からざるの理、果して何處にかある。天下、豈に此くの如く没理的に、此くの如く不名譽に、又此くの如く愧づ可きものあらんや。今若し此くの如きの舉にしてなほ恬乎之れを助くるの政府あらんか、吾人は既に信を之れに措くの要なきなり。我は我たり。他は他たり。予は斷じて此の舉に加擔する能はざるなり、と。

眞に是れ、霹靂一聲、惰者の耳朶を劈くものと謂ふ可きなり。此の書、一たびチュウリックの長官の手に入るや、彼等は愕然として色を失し、思へらく、是れ、邦家の一大事なりと。然れども其の誰なるやは末だ判明せざりしかば、督責搜索、甚だ急なり。而してチュウリックの市民は、一致團結、以て此の著者を發見するに汲々たり。時に市民の或る者、長官に上書して左の如く云へり。

長官閣下よ、請ふ此の事に付きて冷淡に看過し給ふ勿れ。是れ獨り閣下の安全を害するのみにあらず、又國家の平安幸福を危うする者なり。抑々國家人民に禍害を流すの毒蛇は、之れを其の出生當時に撲滅するにあらずんば、後に必ず噬臍の悔いあらん。閣下等、何ぞ斷然



決意、以て此の舉に出でざる、と。

吁、愛國派の青年を視るに毒蛇を以てし、而して之れを撲滅せずんば止まざらんとす、聞くだになほ森然として毛髪を豎てしむるの事にあらずや、既にして、ミューラーの其の著者たることは、遂に發見せられしと雖も、ベスタロッチは端なく嫌疑を受け、暫時の間縲紲の身となれり。獨りベスタロッチのみならず、學生の此の事に關して、囹圄に投ぜられたる者凡て十二人、而してミューラーの著はしたる小冊子は、公衆の前にて燬き棄てられ、終身國外に追放すべき宣告を受けたり、爾來、長官等の學生に備ふる、また前日の比にあらず、渠等は學生に向つて將來を警めて曰く、若し向後再び政府に反抗するが如きことあらば、斷じて諸氏が有する市民権を剝奪せんのみ、と。更に學生を監督し、又、書生の團體組織を禁止せんが爲めに、故らに委員を設けたり。多年熱血を絞りにて民權自由を唱導し來れる青年改革家も、事ここに至りてはさながら頭上に、鐵鎚を下されるもの如し。ベスタロッチ、雄心勃勃として禁ずる能はずと雖も、豈に能く捲土重來の力あらんや、渠はこゝに至りて、政治を以て貧民の苦痛を救ひ、之れが状態を改良する能はざるものと覺知し、慨然として自ら悔い且つ嘆じて曰く

吁、我事畢れり、と。乃ち其の從來著はしたる法律書を攪りて悉く之れを火中に投じ、以て法律に意あらざることを表示せり。此の際火災を免れて今に傳はれるもの一あり。即ち一千七百六十五年の著にして「アジス」と題する一書是れなり。

吁、渠、前に神學を廢し、今又法律を棄つ。何ぞそれ變更の甚だしきや。然れども變ぜざるものたゞ一あり。即ち渠が貧民の爲めに竭さんとする一念に至りては、今なほ昔の如く、更に幾層の活潑を加へ、牢乎として抜く可からざるの概あり。ベスタロッチの傳記著者の一人は左の如く云へり。

ベスタロッチが、予は學校教員たる可きなり、と絶叫したるは、實に渠が法律を斷念したるの時にあり、と。

然れども是れ信す可きの説にあらず。何となれば、渠が教育界に身を投じたるは、其の子を設けて、之れが教育に力を盡したる時より以後の事なればなり。渠は遂に如何なる方向にか進みたる、吁、教育改革の使命を帯びて世に降誕せる渠は、今や、不思議にも、驟然として、身を農業界に投じたり。而して渠が遂に此の舉に出でたる所以のものは何ぞ。吾人請ふ之れを次

章に説かん。

吁、ベスタロッツチの青年時代は、風穩に波靜に、春光駘蕩、和氣霽然たる、平和靜謐の時代にあらずして、山嶽鳴動し、疾風砂塵を捲きて、殺氣紛々たる戰國時代なりしなり。渠が柔順なる好學生を以て終らず、其の青春時代に智徳の培養に努めずして、早く既に社會の渦流に投じて呼號したるが如き、世運の渠を驅りてこゝに至らしめたるに因ると雖も、抑々亦其の天稟に基づく所なくんばあらず。ベスタロッツチは蓋し靜平沈着以て學課に身を供するの人にあらずして、寧ろ我を忘れて世の不正と不義とに激動したる人なりしなり。渠豈に糊口の爲めに學問する者ならんや、又豈に學問の爲めに學問する者ならんや。渠はたゞ眼を經世實用の一點に注ぎ、心を利用厚生の基底に凝らして、以て貧民救助、社會改良の爲めに學問したる者、其の死學にのみ専らならざりしは、固より其の所なり。されば若し渠に過失ありしとせば、其の過失は即ち其の功績ありし所以にあらずや。若しそれ渠をして、其の正義と自由との爲めに瀝きたる心血を收めて、之れを學術攻究の爲めに耗さしめたらんには果して奈何。所謂貧民の朋友とし正義の保護者として、將た教育の改革者としての崇高偉大なる冠冕は、知らず遂に誰が地上にか落つべき。

#### 四 生涯の目的

晨に事を企て夕に之れを廢つ。中庸の行ひに非ずと雖も、人生行路の難、勢ひ亦此くの如くならざるを得ざるものあり。所謂窮すれば則ち變ず、變ずれば則ち通ず、と云ふもの即ち是れなり。ベスタロッツチ初め神學を修め次に法律に移る。而かも二者共に渠が素志に副ふものにあらずして、空しく水泡一沫に歸す。窮すと謂ふ可きなり。然るに究竟の目的、唯一の精神、即ち貧民の状態を改良せんと欲するの一念に至りては、生氣勃々禁せんと欲して禁ずる能はざるなり。乃ち他に一新生面を開きて以て其の宿昔の希望を遂行せんと欲する、亦宜べなりと謂ふ可し。而して渠が特に農業を擇んで之れに身を委せんと決したるに至りては、聊か解説する所なかる可からず。蓋し渠は農業を以て高尚純潔なる職業と思惟し、且つ貧民の状態を高むる唯一の方策なりと確信したるなり。而して渠をして、斯かる空想を抱かしめたる所以を知らんと欲せば、ベスタロッツチが法律の學修を廢する頃、如何なる風潮が當時の學者間に行はれたるかを審にせざる可からず。チュウリックのシュルテス(曾てベスタロッツチに忠告したる少女の父)は、曾てルーソーをジ

エネバに見たるとき、ルーソーが、かく説けりとして居常人に語りて曰く、農業は凡百の職業中最も善良にして且つ最も愉快なるものなり。自由ならざる國にては、人民は止むを得ず、工業家となると雖も、自由國にては農業家となるこそ善けれ、と。又千七百六十五年の秋、ボドマノは、ウインタートウルに於けるズルツェルに書を寄せて曰く、

予が學生中にて愛國心の強盛なる者は、フェツスリーなり。然れども其の友マイスは、コネル・マイスの子息にして、堪能なる農夫たらんと欲しつゝあるのみならず、既に近邊の農夫が知らざる所迄をもよく知り得たる者なるが、其の愛國心の強盛なるに至りては、フェツスリーに勝ること萬々なり。且つ予等が學生中の有爲なる輩が如何に農事に心を寄せつゝあるかは、また驚くに堪へたり。渠等の草を刈り又は雨熱に堪ゆる容などは毫も農夫と異なる所なし。たゞ惜むらくは、渠等が之れに従事するの餘りに遅かりしことなり。

渠等の中にて率先して之れに従事したる者を、ファン・ハウゼンとなす。渠は今頗る農事に熟達して人の嘆賞措かざる所となれり、と。

ズルツェルの之れに答へし書に曰く、

予がウインタートウルとチウリックの爲めに望む所のものは他にあらず。其の主なる官吏・商人及び製造家の少數のみが市街に住居し、其の他の市民は皆田舎に引移り、此所に小家を構へて農業に従事し、以て質素敦朴なる生活を営まんこと即ち是れなり。予は思ふ、農夫にして其の兒童の處置に苦しまん者は、少許の土地を渠等の爲めに購ひ之れを其の各自に供して、渠等をして自ら之れを耕し、以て獨立不羈の生活を営ましむるより善きはなし、と。予は農夫となりて、他の農夫の模範たらんと欲すれども、今や老朽用ふるに堪へざるの人となれり。是れ予の竊に遺憾とする所なり。予にして若し早年の時此の事に着手したらんには、數年ならずして良好なる位置を得んこと必せり、と。

以て當時の學者社會が、如何に重きを農業に措きたるかを見る可きなり。ベスタロッチは自ら思へらく、予は改良せる方法を以て農事に従事し、農夫をして己が方法に倣はしめ、因りて以て渠等をして、豊裕なる生活を営ましめ、更に進んで渠等の子弟をして、共和政體治下の人民として必用缺く可からざる道徳上及び知識上の教育を受けしむるに足るの資産を作らしめんことを、と。當時渠が抱きし希望は實に此くの如くなりき。

然れども更に此の際に於ける渠が胸中の眞消息を審にせんと欲せば、先づ渠がアンナ・シュルテスとの結婚に就いて記する所なかる可からず。讀者はなほ忘れざる可し。ベスタロッチが、幼時其の家に隣れる菓子店に或る物を買はんとせし時、渠に之れを賣ることを拒み、且つ一片の忠告を渠に與へし一少女ありしことを。

少女元來天稟の才あり。且つ其の受けたる教育の如き亦頗る善良なりき。其の父は、商人なりしかど文學・美術の趣味に豊かなる人なりしかば、商用を以て四方を漫遊するや、足跡天下に洽く、其の交はる所は、皆當代の名儒碩學にあらざれば則ち文人雅客のみ。是れを以て渠等も亦渠が門に訪ふことあれば、渠は之れを款待好遇して到らざる所なし。詩人クロップストックがチュウリックに來遊せし時、渠はシュルテスの家に滯留したりと云ふ。家庭既に此くの如くなりしかば、少女アンナは幼よりして早くも文學美術に興味を覚え、風流雅致の氣韻に富みき。其の長ずるに及んでは音楽に長じ詩歌を善くす。而して其の一たび發達したる想像力は、老年に至るもなほ衰へざりけん、ウアルヅウワースの作なる「ウキー、アール、セヴン」を翻案して作れる一篇の詩は實に其の老年の作なりと云ふ。

シュルテスの家に寄り集ふ學者文人も夥多あるが中に、ベスタロッチの親友にして名をブルンチュリーと呼ぶ一青年あり。渠はベスタロッチより長ずること僅かに四歳、才情共に秀で、有爲の好青年なり、加之、ベスタロッチとは意氣相投じ、主義目的をも同じうし、更に渠よりも謹慎に、老成に、又世態人情をも善く理解したれば、ベスタロッチに取りては、誠に有用なる朋友なりしなり。然れども痛ましい哉、渠は生涯不治の肺患に罹りて之れが惱ます所となり。其の餘命の長からざるは自他共に認識せし所。アンナも亦之れと交はり、文學上の好同伴として情交甚だ密なりき。アンナ其の後渠に就きて語りて曰く、

妾にして若しかの人を忘れんと欲せば、先づ妾自らを忘れざる可からず。かの人興味あり又勢力ある談話は、なほ未だ妾が耳底を去りやらず。快活にして優美、而かも又親切を加へたり、かの人は何事に限らず常に妾の相談相手となり給ひしかば、妾は貧民救助の問題に關して、かの人と語るを常とせり。或る日妾は美しき帯を探ひ求めて、之れをかの人に示しけるに、かの人は一見眉を擧めて妾に云ひ給はく、其は甚だ美しき帯にぞある。されど嬢よ、嬢が其の帯を要するは、嬢が隣人なる貧民が、僅かに數錢の金を要すると緩急輕重果して如

何ぞや。僕竊に嬢の爲めに惜む、と。妾が爾來帯及び其の他の奢侈品をば斷じて之れを用ふまじと決心することを得たるは、偏に此の忠告をかの人より受けたるに因るなり、と。以て聊かブルンチュリーの爲人を窺ふに足らんか。

千七百六十七年五月二十四日、ブルンチュリーは、ベスタロッチ及びアンナ・シュルテスの兩親友を残して、敢へなくも黄泉の客とはなりぬ。残されたる兩友が愁傷悲嘆は實に記述の外にあり。ベスタロッチはアンナが斷腸の思ひを慰めんとて、亡友ブルンチュリーを吊ふの文を草して、之れをアンナに贈る。語々悽愴、節々人を動かす。此の時アンナは深くベスタロッチが同情に感激したりき。ベスタロッチは容貌風采の點より云へば、決して婦人の一顧を煩すに足る可くもあらず。然れどもシュルテスは日頃渠の眞價を容貌以外に認めし者なり。而して今亦渠より涙痕點々たる吊詞に接す。豈に感謝の涙に咽げざるを得んや。然れども溢れたる涙は凝りて景慕の念を成しぬ。嗚呼。女性の男性に對する景慕心、豈に久しく其が形を變ぜずして止まんや。景慕の念は更に變じて戀愛の情となれり。

かくて、二人は借老の契を約せり。爾來渠等は音信を通することを怠らず、千七百六十七年

の夏より同九年の秋、即ち其の結婚の時に至るの間、相互の間に往復したる書信は、總計五百を以て數ふるに至れり。内ベスタロッチよりするもの三百通、アンナの渠に贈れるもの二百通。ベスタロッチが農業に従事するの意志如何。又アンナが未來の良人たる渠を鼓舞せしこと如何。總べてこれらの書信に依りて其の眞相を窺ふを得べし。左に引くものは則ち其の一なり。

妾は貴君が市街の生活を以て妾等が理想上の教育に不適當なりとし給ふを見て歡喜の至りに堪へざるなり。妾が伏せ屋は敗徳と害惡との中心とも云ふ可き市街よりは遙かに遠かるを要す。何となれば妾が御國に盡さん爲めには、喧鬧なる市街よりも閑靜なる田舎を可とすればなり。妾の田舎に在らん時、若し貧窮の人にして將來有爲の兒童を有する者あらんには、妾は手づから之れを教育し、以て純良なる國民たらしめんことを希ふ。渠はかくて自營自活して幸福なる生涯を送ることを得可し。渠若し世に立つの後、正々堂々の行爲に出で、世の所謂俗物の忌憚に觸れて窮阨に陥ることあらんか。妾が窮乏せざる限りは、妾は渠を妾の家に收養して長く不自由を感じせざらしむるを得可し。妾が如何ばかり渠が品性の高尚なるを尊敬するかを渠に知らしめんが爲めに、妾が飲むべき牛乳を渠に與へて自らは水を以て甘んず可し。

あゝ我が愛する人よ、若しそれ果してかくあらんには、貴君は今たゞ水のみを飲む妾を見給ふも、決して不満には思はざる可し。貧民を助けんが爲め可及的の節約をなすに躊躇せざるは、固と是れ妾等が素志にあらずや、と。

何ぞそれ義侠の精神を以て熱中するの甚だしきや。シュルテスも亦是れ一個の女丈夫なる哉。而してベスタロッチが農業を以て愛國的慈善事業の基礎を作るに熱中しつゝありしことも亦以て窺ひ見る可きにあらずや。

然りと雖も、渠が其の友ラベーターの紹介を得て、遙々伯林近傍のキルヒベルグを指して往き、土地に有名なる農業者チップリーを訪ひて其の門に入り、潜心苦學漸くにして業を了るや、直ちにチウユリックに歸りて地をアーゴーに於けるパーフェルドと稱する平原の西部なるレットンに擇び、二千三百ポンドの金を以て十五エークルの地を此處に購へり。其の耕作に従事するに當りては、或は身を氣候の激變に曝らし、或はミューリゲンに在る渠の居宅とレットンに於ける耕作地との間三四哩の遠きを隔つるにも拘はらず、之れを往復すること日に數回。加ふるに失敗困厄屢々、渠に襲ひ來るも勇氣愈々加はり、遂に刀折れ矢盡き而して又爲す能はざるの域

に沈淪するに至りて始めて止む。勞せりと云はん乎。努めたりと云はん乎。吾人はたゞ其の勇氣と忍耐とに驚嘆するの外なきなり。

斯かる際にベスタロッチとアンナとが合葬の式は擧げられたり。初めアンナの父母はベスタロッチが粗暴過激にして且つ世態人情に疎きの故を以て、渠に愛娘が一生を委するの甚だ危険なることを恐れたれば、容易に渠等兩人の請を許す可くも見えざりき。然れども其の友人ラベーター、フッズリー、ボッツ及び其の他の人々の周旋に由りて事僅かに諾ふを得たり。かくて、アンナは父母の許を離るゝの悲しきが中にも深くベスタロッチに信を措き、ピアノと少許の手道具とを擁して、獨り悄然として己が家を出で、ベスタロッチに嫁げり。實に千七百六十九年九月三十日なり。ベスタロッチ時に年二十三、アンナは正に三十歳なりき。後久しからずして、アンナの両親は渠等の結婚に満足なるの意を表したりしかば、節約に忍び艱難に堪へ、身を貧民の爲めに捧げて敢て悔いざるベスタロッチも、父子の恩愛にや忍びざりけん、如何にもして相當の財産を作り、以てアンナの両親を安心せしめんものを、と、渠が頭腦は今や恩愛の二字を以て充たされたり。恩愛渠か渠恩愛か、其の間殆ど髪を容れざる程なりき。乃ち渠が百倍の勇氣を鼓し

て農事に心力を罄せし所以のもの亦豈に故あらずとせんや。ベスタロッチ、アンナに告げて曰く、

予は此の方法にて獨り予が一家を支ふるに足ることを得可きのみならず、なほ且つ相當なる財産を作ることを得可きなり。若し此の目的を達して汝を喜ばしめ且つ汝が兩親を安心せしむることを得ば、予が満足亦何ぞ之れに加へん、と。

以て渠が胸中を窺ふに足らんか。

噫、渠が全身の心力を傾倒して従事せし農業は、不幸にして成功するに至らざりき。是れ蓋し一は渠が擇びし土地の善良ならざりしと、其の他種々の事情の渠を束縛して、渠が計畫通りに實行するを得ざらしめたるに因るとは雖も、亦渠が使用せし僕マキーなる者、其の主人の事業の成功の見込みなきことを吹聴したるが爲め、初めにベスタロッチと合同して此の事を企てたる一銀行員が、遂に手を此の事業より引きしを以て、資金供給の途、こゝに忽ち杜絶したるに因らざらばならず。渠はこゝに至りて高く叫んで曰く、已ぬる哉、予が生涯の希望は今や雲散霧消し了れり。予が家を以て慈善社會の大中心たらしめんとするの希望は、今や逝きてまた

捕捉す可きにあらず、と。然れども、斯かる失意の中にもなほ貧民賑恤の事を忘れず。渠は廢殘の餘費を以て、新田に於ける己が居宅を直ちに貧民子弟の教養所に充てんことを決せり。嗟呼嫉妬妬何ぞ渠を苦しむるの甚だしき。落暉西山に傾く固より悲しむ可しと雖も、旭日更に東天に昇るは亦一大愉快ならずや。一日再び晨なり難しと雖も、なほ明旦の有るあり。曙光山巔を射て輝々彩線を放つも亦將に近きにあらんとす。渠が失敗の結果は意外にも成功の原因とぞなりける。

ベスタロッチは千七百七十年正月九日に於て、早くも其の日記に書して曰く、

予は何故に冥想工夫をのみ要して、科學の研究を樂しまざるに至りし乎。予は何故に最大緊要なる眞理の研究を好まざるに至りし乎。市街に在りし間は名譽心と虚飾の念とに驅られて、眞理の探究に力を盡せしも、田舎に於ては之れを刺戟するものなきが爲めに然る乎。何れにせよ、予は熱心に予が才力の發達を期せざる可からず。現に予が従事しつゝある事業は、幾分か之れが妨害ともならん。然れども予は斷じて力を之れに致さんことを欲す。あゝ天帝よ、予が此の決心をして沮喪せしめされ、と。

是れ渠が未だ農業上の失敗を豫知せざりし時、即ち其の得意の日に於て吐露せし所の述懐なり。是れに因つて之れを観るに、渠が身を農業の如き物質界の事業に投じながらも、其の内心は却りて他の方向を指しつゝありしことは亦疑ふ可きにあらず。獨り渠のみならず、其の妻アンナも亦渠と同感なりしなり。是れ實に渠等が結婚後、僅かに數月にして起れる、渠等が心界の現象なりとす。然るに農業上の計畫一たび破るゝや、從來は少しく穩なりし此の感想もここに至りて一段の氣勢を高め、失望の念と後悔の心とは渠をして轉た煩悶に堪へざらしめたり。特に渠が一子ジャコブを擧げしより、其の從來の所行を後悔するの念は、更に一段の熱度を加へたり。嗟呼渠たる者、こゝに至りてなほ且つ其の靜勢を保つことを得可き乎。失望極まつて勇氣起る、果然、渠は踵を回らして再び精神的事業に向はんことに決意せり。嗚呼是れ昊天冥々の間に渠を、導きてこゝに至らしめたるものにあらざるなきを得んや。ベスタロッチは、今や従前のベスタロッチにあらずして、父としてのベスタロッチなり。其の愛兒を適當に且つ正確に教育せざる可からざるの責任は、今や懸りて渠が双肩にあり。然らば則ち其の思慮する所のもの豈に悉く従前の如くなるを得可けんや。渠は自ら思へらく、愛兒をして罪惡を免れしめ、且

つ適當に生活することを得しめんには、先づ父なる我よりして改良する所なかる可からず、と。こゝに至りて渠又瀟々して思へらく、我は果して神聖なる乎、我は果して清淨無垢なる乎、と。而して渠の良心は渠に囁きて云へり。私情に絆されて精神界を見棄てし者は誰ぞ。恩愛に溺れて物質界に躍り入りし者は誰ぞ、と。こゝに至りて渠豈に其の感慨に堪ふるを得んや。滿腔の熱血は其の日記の中に瀝がれたり。乃ち左に、

あゝ、神よ。予は從來無用の事にのみ齷齪したりき。予は予が生涯をして幸福ならしむるに必要なる精神の改良に頓着せざりき。哀しい哉、予は神と吾々の父とを忘れて、之れに祈禱を捧ぐることをすら敢てせざりき。乞ふ予を赦せ主よ、予は汝の子たるの價値なきものなり、然れども汝は善く予が家の幸福を保護し給ひぬ。予が一家は汝の恩恵に沐浴することを得たり。あゝ主よ。予に新鮮なる氣力を與へよ。予に活潑なる熱誠を與へよ。おゝ、我が愛兒よ。思ふだになほ恐ろしき情感の身に染むを覺ゆるなり。予にして若し汝を誤りて教育したらんには、天堂に於て最後の審判のあらん日、汝が父なる予の原告人たることを得可きなり。何となれば、汝を正道に導くは是れ予の義務なればなり。若し予にして之れを誤りたら



んには、予は再び汝を見るの面目なく、汝は予を海底に放擲して可なり。神よ、願はくは予及び予が愛兒をして罪惡より免れしめよ、と。

渠が宗教上の信念に對する批判は暫く措く。其の愛兒教育の義務に對する自覺の念の強盛なるに至りては、人を動かすことの深き、未だ曾て此くの如くなるはあらず。渠既に脚を此の自覺の念に立て、以て愛兒の教育に従事す。其の發明せし所のもの抑々亦如何。

渠はルーソーの自然主義に則りて、其の子を教育せんことを試みたり。然るに實際経験を果ぬるに隨ひ、「ルーソー」主義の缺點をも發見したれば、其の發明せる主義の中には、ルーソーの主義と反對する所のもの往々にして之れあり。渠が自ら記したる日誌は、殆ど百年以前に起れる教育改革の歴史に密接の關係を有するものなれば、之れを左に示して讀者の參考に資せん。但し此の日誌の成りしは、其の子ジャコップが四歳の時、即ち渠が新田にて農業に従事せし時なることを忘る可からず。今、千七百七十四年の分を左に、

一月二十七日 予はジャコップと共に小丘を下りつゝ、渠をして流水に留意せしめたるに、渠は太く喜びながら水に向ひ、「チト待て、己は直に遅れちまふ」と云ひつゝ予が後に隨へり。

予は又同じ細流の傍に渠を携へ行き、親しく水の流下するさまを見せけるに、「アア、水が又流れ去るよ。水は上から來て段々下へ去る」と叫びたり。予は透さず、「水が小丘を流れ下る」と、繰り返へしつゝ細流を沿ひて行きにき。

二月一日 又或る日、渠は屠者が豚を屠るを見けるが、何處よりか材木の片々を集め來り、之れを排置して屠者の眞似をなさんとするに忙はしかりしかば、予が妻は之れを見るより、「ジャコップ」と呼びしに渠は答へぬ。「ジャコップじゃないよ、屠者と呼んでお呉れ」と。

二月四日 昨日以來、ジャコップの容態善からず。今日は熱病の兆さへ見えれば、予等は直ちに醫師を迎へたれど、渠に服藥せしむるには、ほとく困じ果てたり。醫師の予等に云ひけるには、平生より時々少量の不味なるものを飲ましめ置くときは、病氣の節、苦藥を服するに當りても、さほど困難を感じる様の事はあらざる可し、と。予も之れをば至極善き考案と思ひ、なほ之れを擴張して一般に教育上にも之れを適用して見る考なり。

二月十三日 予等はジャコップが病氣中は、渠が云ふがまゝに爲したれば、渠は大に氣儘になれり。予は渠が持てる一の果殼を取りて、之れを碎きやらんとせしに、渠は予が之れを食

ふならんと思ひけん、怒りながらに叫び出せり。予は之れを冷淡に打ち見やり、なほも無言のまま、更に一の果殻を渠より取りて、二個共渠が面前にて食ひ盡せり。渠は泣きて止まざりければ、予は鏡を取りて渠の顔に差し向け、其の泣顔を見せしめたるに、渠は鏡を一見して面を背けたり。

二月十五日 予は今日ジャコップが敏捷なる舉動を示したるを見たり。然れども這は大に注意せざる可からざるものなり。渠の何物か請ふことあるや、必ず先づ其の請の許されざる可からざる理由を云ふか、さなくば其の拒まる可き理由に答ふるかし、然る後之れを請ふを常とせり。例せば「母さん、私はそれを破りません。私はたゞそれを見るばかり。私はそれを勉強の爲めに使ふの。たつた一で可いの。」と云ふが如き是れなり。予等の渠に望む所のものは、寧ろ其の請の率直にして無遠慮なるにあり。若し斯かる婉曲なる方法にて請はるゝ時は、何遍なりとも渠に飾りなき方法にて繰り返へさしめざる可からず。又飾ある方法にて請はるゝ時は、決して之れを許す可からず。

世の父兄よ。汝が童兒をして「天然」に接觸せしめよ。乃ち山上及び谷間に於て渠を教ふ

るは、最上の方法なり。蓋し此くの如き處にては渠が自由の感情満腔に溢る可きが故、爲めに困難に堪へ得るの氣力を發するなる可し。而して教ふることは汝自ら爲さずして、之れを「天然」に爲さしめよ。小鳥の梢に歌ひ、昆蟲の葉上に匂ふ。孰れか教育にあらざらんや。斯かる場合には、汝は談話を止めて、沈黙せよ。而して兒童をして之れに留意せしめよ。

品性なるものは、最も強盛にして且つ屢々する印象に依りて作らるゝものなり。其の餘のものは功を奏すること薄し。是れ人の弱點の教育に依りて改良し得可き所以なり。又二三偶然の印象は注意深き教育家の成功を打破するに足るとは誤謬の見たるを免れず。

二月十九日 予は自由と服従との間に如何して界線を畫して可なるべきか。甚だ惑ふ所なり。然れども社會的生活は吾人を強ひて此の區劃を明かにせざるを得ざらしむ。

#### 自由に對する理由

兒童の自由を全く壓伏することは到底能くし難きの事なりとす。加之、渠等の嫌惡を招くの恐れなしとせず。甚だしき壓制の下に在りたる兒童が、後に至りて大に反撥力を逞しうするは經驗の證する所なり。眞正なる自由は、たゞ小兒の耳目を制限せず能く渠等をして満足

に、幸福に且つ公平ならしむるものなり。されど此の完全なる自由は、人の意志には服従す可からざるも、理の當然には當に服従すべきことを、豫め小兒に教へたる後にあらざれば存す可からず。

## 服従に對する理由

教育に缺く可からざるものは服従なり。如何に心に適したる境遇に兒童を置くも、なほ折り／＼は渠の意志を排せざる無き能はず。

自由は慾情を撲滅するものに非ずして、たゞ之れが發達を猶豫せしむるに過ぎざるのみ。例せば自由主義にとりて養成せられたるエミール(ルーツーの教育 小説の主人公)もなほ倨傲の情有せり。

ルーツー曰く、若し幼時全く自由の状態に任せられたらんには、其の青年の期に至るや、能く社會の制裁に服従して毫も不都合なき者ならんにと。之れを見れば、極端なる自由論者たるルーツーすらなほ吾人が社會に在る以上は、必ず一種の「依囑の状態」なるものあるを承認するにあらずや。要するに社會的の生活は小兒の自由を鈐制するに非ざれば、到底作る能はざる程の才能と習慣とを要するものなり。

ルーツーの如く、小兒を全く自由に放任するが是乎。或は之れに反して渠等を鈐制するが是乎。自由固より善し。服従固より善し。吾人はルーツーが人類を墮落せしむるに足る程の無法なる鈐制を憎むの餘り、絶對的自由を唱導して、無下に鈐制を非難したることを見しが故に、之れが調和に努むる所なかる可からず。

世の教育家たるもの必ずや自由の値の甚だ大なるを確信せざる可からず。而して兒童を服従に馴れしむるの必要なるを知らば、此の義務を果さんが爲めには、周到なる注意を以て之れに當るの覺悟なかる可からず。是れ吾人が謂ふ所の教育に於ては、難事中の最も難事に屬するものなり。且つ乞ふ之れを記せよ。教師が學生を鈐制せしが爲めに、却りて渠等の信用を失ふことあらんには、其の折角の苦辛も總べて水泡に歸することを。故に渠等をして汝が渠等の爲めに必要なるものなることを銘肝せしめよ。渠等の遊戯するに當りては、汝も亦之れに加はり、愉々快々以て渠等の好同伴とならざる可からず。

汝は渠等の信用を得るを要す。渠等にして若し汝が善からずと思惟することを、汝に請ふこともあらば、汝はただ其の結果の如何なる可きかを告げ、而して渠等をして自由に之れを

取捨するを得しめよ。然れども注意す可きは、其の結果が渠等の容易に忘るゝ能はざる程のものならざる可からざること是れなり。常に正道を渠等に示す可し。渠等にして若し霧中に彷徨するあらば、汝は之れを救はざる可からず。されど、渠等が自由に振舞ひて、汝の忠告を用ひざるより得たる、不愉快なる結果をば、之れを充分に感得せしむを可とす。かくて汝に於ける渠等が信用は、確乎として動かす可からざるに至る可し。好し汝が渠等に逆ふことありとするも、渠等は其の尊敬する教師又は父母には必ず服従するものなり。然れども命令の如きはたゞ必要の時にのみ之れを與ふ可し。決して猥りにす可からず。

以上は日誌中より極めて必要なるもののみを摘録したるに過ぎず。然れども亦以て渠の新主義、新思想の梗概を測知するに難からざるなり。以上の日記に依りて考ふるに、渠はルーソウの著なる「エミール」を愛讀して、深く自然主義を謳歌したりし者なりと雖も、また能く其の長を採りて其の短を捨て、一分は一致し一分は反對し、以て自家獨得の本領を發揮せし者と謂ふ可きなり。

今日に至りて渠が所謂新主義、新理想なるものを見れば、高山に登りて平地を瞰むの感なき

にあらずと雖も、舉世滔々として反自然的教育法に感溺したるの時に當りて、獨りかの主義を押し、かの理想を抱く。以て一代の迷夢を醒覺するものと謂ふ可きなり。渠はこゝに至りて自ら信すらく、この主義、この理想を以て、之れを貧民教育に適用したらんには、其の効果を奏すること必せり、と。自信は決心を生ず。渠はこゝに至りて始めて身を教育事業に委ねるの志を起したり。渠が生涯の目的、こゝに於て乎定まる。

山に登る者は意常に山嶺に在り。然れども若しそれ其の山路にして崎嶇險阻ならんか、更に路を何れかの方向に探ばざるべからず。西よりせんか、東よりせんか、或は北か、或は南か。益々求めて愈々失ふと雖も、遂に適當なる行路を發見するに至りて則ち定まる。ベスタロッチの教育事業に於ける、亦酷だ之れに類すること無からんや。

## 五 最初の教育事業

小兒は其の天性として間斷なき活動を好み、且つ其の身體上知識上及び道德上の諸能力の如きは、互に相聯關錯綜せるものなれば、若しこれらの諸能力を正當の方向に誘導し、併せて小

兒の退屈疲憊を防がんが爲めに、之れに課する操作をして單調一樣ならしめず、遞次に之れを交替したらんには、管に渠等をして獨立自營の好手段を知らしむるのみならず、之れと同時に渠等をして其の知識道德上の修養鍛鍊をなさしむることを得可きなり。且つ又貧窮なる兒童にありては、晴るれば則ち田野に出で、農事に働かしめ、雨ふれば則ち家裡にありて手藝を事とせしめたらんには、渠等は獨自一己の手腕に依りて、以て己れが需要を満たすのみに止まらず、更に之れを小にしては以て一家の福利に資することを得可く、之れを大にしては以て一國の幸運を扶植することを得可きなり。是れ實にベスタロッチが其の教育事業に着手するに當りて、抱持せし意見なりとす。

渠は又自ら揚言すらく、小兒をして渠等が神の子孫なることを知らしむるのみにては、未だ至れるものと謂ふ可からず。更に渠等をして、人はかの苦役せらるゝ牝牛の上に超然卓出せざる可からざるは勿論、竿頭更に一步を進めて、かの身に綾羅錦繡を纏ひて酒地肉林に酔飽を恣にし、以て價値なき生活を送り、以て天意を空しうする、富貴顯榮の輩にも亦卓出せざる可からず、との神聖犯す可からざる鐵石的勇猛心を起さしむるに非ずんば、未だ其の可なるを知らざるなり。と。

手段・目的共に美を極め善を盡す。ベスタロッチが眼中、豈に富貴あらんや。豈に顯榮あらんや。渠が眼中に映する所のものは、それはたゞ、正義と人道となるかな。何ぞ其の精神の爾く高尚純潔なる。又何ぞ其の方法の爾く正々堂々たる。吾人豈に仰鑽の至りに堪へんや。謂ふ可し矣。俯仰天地に愧ぢざる者。と。

然れども、一時の賑恤を以て貧民を救ふが如きは、固り渠の取らざる所なり。是れ蓋し貧民の子弟をして、手を束ねて他の恩恵に衣食することを知らしむるの結果は、渠等をして益々怠惰放逸に慣れしむるの恐れあればなり。渠はこゝに於て乎、ノイホフ新田に於ける其の居宅と土地とを併せ用ひて、以て其の懷抱する意見を實行するに至らんとす。渠が望む所のもの豈に他あらんや。其の新田をして、かの偉大なる教育事業の中心模型たらしめんこと、即ち是れのみ。故に前に農業に失敗したりと雖も、なほ四百ポンドの資金を餘したれば、之れを以て直ちに家屋を増築し、なほ之れに續きて農業上の改良に従事したり。渠は後年に至りて、其の著「鶴の歌」の中に此の際に於ける事業に就いて記せることあり。曰く、

予等は太く零落したれば、予が妻の困難は譬へんに物なし。されど予等は之れが爲め毫も屈する所なく、益々勇氣を鼓して、時と氣力と残る所の財産とを擧げて、之れを人民の家庭的教育、即ち簡便なる教育の爲めに専用せんことを欲せり、と。

其の決心の程も亦以て見る可きに非ずや。

渠が事業は、千七百七十四年の冬を以て始まり、此の時ベスタロッヂの世話を受けんとて、ノイホフ新田に集まれる貧兒の中には、四隣の各村より來れるもあり、或は路傍に袖乞ひしたる者すらありたり。渠は之れに衣服食物を給與し、萬事自身の子供の如くに待遇したり。渠等の在る所には渠の在らざることなく、渠の在る所には渠等の在らざることなく、田園に於ても、花園に於ても、將た家内に於ても、或は又大なる工場にて紡績する時に於ても、渠等は常に渠の傍に在りて相共に操作に従事したりき。而して學課の爲めに費されたる時間は極めて少し許にして、時としては、貧兒は手を以て操作しながら教授を受けたることすらありたりき。蓋しベスタロッヂは、讀書・習字の教授を以てたゞ能く會話し得ることを教へられたる者のみに必要なりとなすの意見を懷抱したる者なれば、これらの學科を以て小兒に教授することは、固

より渠の急務とする所にあらざりき。然れども渠は小兒が日常の生活に關係を有する事實の中より題を選び、之れに依りて會話を爲せしと雖も、時としては聖書の中より數節を抜き出し來り、小兒をして、釋然會得するに至る迄之れを繰り返へさしめたり。二十人以下の兒童は此くの如くにして數月を経たるに、渠等の容貌は全く一變し、其の食料の粗惡なるに係はらず、渠等は頗る勇壯強健の狀を呈し、そが始めて到りし際には全く見るを得ざりし、喜悅・正直及び利發の風采は、自から其の面色に露はれたり。渠等は獨り勞働に於て著しき進歩を爲せしのみならず、又之れに伴隨したる學課に於ても大に上達したりき。而して其の一言一行は凡て其の恩人なるベスタロッヂの親切を感謝するの表號ならざるはなかりき。

かくて、千七百七十五年は、此くの如き成功を以て過ぎ去りぬ。然るに此の事業は事宜に適したるものなりしと雖も、ベスタロッヂの獨力能く之れを支持し得可きにあらず。加ふるに、從來の小兒が爲せる操作にては、到底渠が土地を耕作するに足る可くもあらざりしなり。故に夥多の小兒の來りて渠の世話を受けんと欲したるは、固より事實にして、而かも渠が之れを受け取るに銳意熱心なりしことも亦争ふ可からざるの事實なりとす。然るに渠にして其の意志を遂

げんと欲せんには、勢ひ家内の整理を完全にし、又費額を増加せざるを得ず。渠が痛心措く能はざりしものは、實に此の點にありしなり。然れども幸にしてノイホフに於ける此の事業は、其の最初の結果の善かりし爲めか、端なく遠近の知る所となり、名聲四隣に喧かりしかば、世の志士仁人は、此の舉を稱揚讃嘆して措かず、皆義捐金を渠に捧げて、たゞ其の後れんことを恐るゝものの如し。且つ渠は其の事業を擴張して完全の成功を遂げんが爲めに、世に訴へて之れが援助を乞へとの忠告に接したり。こゝに至りて渠豈に瞬時も躊躇する者ならんや。渠が世に訴ふるの書は、千七百七十六年の初めを以て、週刊地方新聞に現はれたり。是れベスタロッチの親友バゼルのイゼリンなる者の主筆する所なり。ベスタロッチの書は、題して「世の志士仁人に訴へて、敢て貧民教育所の維持に助力せられんことを乞ふ」と云へり。

予が世の志士仁人に訴へて乞ふ所のもは他にあらず、諸君が予の微衷を諒して、予が貧民教育所の爲めに一臂の力を添へられんこと、即ち是れなり。予豈に敢て徒に諸君を煩はすを爲さんや。たゞ之れを維持するは予が獨力の能くする所にあらざるを奈何せん。

予夙に思へらく、若し世の貧兒をして良好なる境遇にあらしめば、渠等をして強ちに不當

の勞働に従事せしめずとも、其の自身の生活を維持するが如きは、未だ必ずしも難事と云ふ可からず。然も之れを爲さんには、固より之れが爲め相當なる教育所を設立せざるを得ず。之れを設立せんには、また固より之れに應ずべき資本を準備せざる可からず。若しそれ資本にして準備を全うせんか、渠等は此所に生活することを得可きのみならず、之れと同時に幾分かの初等教育をさへ受くることを得可きなり。予竊に思ふ、貧民の爲めに此くの如き事業を企劃するは、一見無用の事の如しと雖も、人道の爲めに謀るに其の緊要なること、寧ろこれが右に出づるものはあらずと。

渠は次に渠が周囲の農夫の子弟の如何に墮落しつゝあるかを叙述し、殆ど人として見るに忍びざる程の状態に立ち到れること、及び渠が自己の財産を以て之れが救助の計畫を試みたれど、今や獨力の能くする所にあらざることを説き、更に語を繼ぎて曰く、

予は假令質素なる食料なりとも、その馬鈴薯或は他の植物質の食物と少し許の麵麩の如きものを交替して、之れを小兒に與ふる時は、渠等は之れにて充分に成長發達し得べき者なることを證し得たり。予は又小兒の發達を阻礙するものは、規則正しき操作にあらずして、寧

る渠等の生活が不規則亂雜にして、且つ放縱蕩佚なるか、或は渠等が將來に希望を有せずして、徒に不平と騷擾とを事とするかにあることを看破したり。なほ予の目撃したる所に依れば、怠惰と袖乞ひとに身を持ち崩して、健康氣力共に失ひたる小兒と雖も、一たび之れに課するに規則正しき操作を以てするや、渠等は直ちに健康・氣力を回復して、其の成長の速なること驚くに堪へたり。是れ其の境遇變化の然らしむる所にして、即ち其の騷擾亂雜の影響を免れたるが爲めならずんばあらず。予は又渠等が其の長らく沈みたりし不幸の境遇より脱出せし時、俄かに親切に、忠直に、且つ慈愛深くなりて、渠等を助けんが爲めに差し伸ばされたる柔き手に接して驚喜の涙に咽ぶを見たり。予は信ず。渠等の精神が此くの如き状態にあるときは、其の道徳上の性質も亦更に善良ならざる可からざることを。(中略)

予にして若し必要なる資本を有することを得たらんには、予は必ず予の目的を成就し、且つ有用なる二大結果に到達するを得たるを疑はず。一は即ち通常労働者の需要に適應す可き教授にして、一は即ち人類の最下等の境遇に沈める小兒を救済すること是れなり。予は思ふ袖乞ひを以て日を暮らす兒童は、他日恐らくは罪惡を犯すの人たる可く、保護もなく、監督

もなく、氣隨氣儘に振舞ふ乙女子は、自ら求めて不幸不面目なる生涯を豫備するものに異ならざる可きを。一言以て之れを蔽はゞ、國家に棄てられ、又自身にも棄てられんとする總べての人達をこそ、予は極力奮勵以て救はんことを欲する者なれ。予は此の種の人をして教育に依りて有用活潑の人たらしめんと欲す。(中略)

然れども今日に至りては、最早予は他の援助を借るに非ずんば、之れをよくするの力なきなり。故に予は予が計畫を擧げて之れを大方の志士仁人に一任せんと欲す。予の千祈萬禱して措かさる所のものは、諸君が六ヶ年間年々少し許の金額を贈與せられんことは是れなり。蓋し此の金額たる、十ヶ年後には必ず予が教練したる労働者の收得を以て完償することを得可ければなり。

渠は次に兒童の數は贈與金の多寡に依りて増加すること、兒童には管に讀書・習字・算術等を教ふるのみならず、事情の許さん限りは、農業上の知識をも啓發す可きこと、渠等には適當なる衣食住をも給す可く、更に又其の宗教心をも養成す可きことを約束し、而して後語を續ぎて云はく、



予が目的を知るの補ひともなる可ければ、予は更に數言を累ねて、目下予が膝下に生活し且つ勞働しつゝある二十人の兒童に就き少しく記する所あらんとす。渠等は日々困難なる勞働に従事しつゝあるにも係はらず、其の健康にして快活なるは、實に予が意想の外に出でたり。渠等の多くは、快活にして勇氣あり、優美にして愛情ある舉動を示したること一再ならず。予は之れを見て深く其の將來に囑望して止まざるなり。これら二十人の兒童の世話と入費との如きは、將來と雖も、予は獨力以て負擔に任ずるを辭せざるなり。

渠は又其の事業の進歩に關しては、年々報告書を發す可く、又其の報告書を精察して一點たりとも前の約束の履行せられざるものある時は、金圓の贈與を謝絶せらるゝも決して苦しからざる旨を述べ、更に渠が事業に賛成の意を表したる者の中に有名なる人士の姓名を挙げ、又渠の事業に賛成を望む人にして渠に問はるゝ事もあらんには、渠は決して之れが答へに躊躇せざる可き旨を述べたり、而して左の數言を以て此の書を結んで曰く、

世の志士仁人よ、予があらゆる失策と、予の躁急輕遽なるよりして、自ら招ける損害とは實に前に記したる所の如しと雖も、予は諸君がなほ信を予に措き、而して予に一臂の力を添

へらるゝならんを信するなり。予が此の事業は今や危険の位置に在らずと謂ふを得ずと雖も、予は萬々其の結果の幸福なるべきを信じて疑はざるなり。何となれば過去に於ける予の失敗は幾多の教訓を與へたればなり。

千七百七十五年十二月九日

ケーニヒスフェルデン、ノイホッフに於て

ジョン、ヘンリー、ベスタロッチ

ベスタロッチの此の事業を翼賛せる中の者には、名士有力家も夥多ありたれども、中に就いてパゼルのイゼリン程、熱誠を推して渠を翼賛せし者はあらざりき。渠は「エッフエメリデス」の記者にして廉潔なる士なりき。ベスタロッチが世に訴ふる書の渠が紙上に公にせらるゝや、幾何もなくして渠は其の新聞紙上左にの言をなせり。

吾人はベスタロッチ氏が世に訴へたることの果して有效なりしを喜ぶ。ベルンの商業會議所及び他の幾多の有志は渠を保護するの約を爲せり。さればベ氏が事業の永續せんことは、理に於て固より然らざるを得ざるなり。なほ吾人は氏が目的を説明するに足る可き、氏の書信

數通を不日本紙上に公にせんと欲す。庶幾はくば以て貧民教育に關する幾多有益の理想を發見するを得可けん。

かくて、イゼリンは其の書信を公にしたり。之れと共にノイホフに於ける貧民教育所の報知書及び此の事業に關する證明の如きは、後ゼイファルト氏「エッフエメリデス」より蒐集して、其の著「ベスタロッチ全集」中に收めて世に公にせり。これら書類の中には方今各國にて呼聲高き労働社會改良の計畫に關して、參考の資料に供するに足るものあれば、左に其の内の二三を示さん。

## 某氏に與ふるの書

## 其の一

(日附なし)

渠は此の書に於て云へらく、通常の貧民教育所に於ける缺點は、其の教育が、貧兒の他日社會に立たざる可からざる位置に相應せざるにあり。即ち養ふ所にあらずとの譏を免れざるなり。貧兒は他日に至りて棄てざる可かざる習慣を此所に養へり。即ち渠等は不自由に堪ゆ可きを學ばず、又節用儉約習慣をも作らず。何となれば、渠等は其の爲すことは如何なるも、不自由なる能はずと考ふればなり。

## 同

## 其の二

千七百七十七年正月十日

貧兒は私設の教育所にて、農業と工業とを併せ行ひ、且つ其の生活の極めて質素なる所に於て、之れを教育せざる可からず。渠等は此所に在りて自身の手腕を以て着實周到に労働せざるを得ず。其の時間の大部分は之れを労働的事業に費し、其の餘の部分は之れと聯結せられたる教育と教訓とに費すを可とす。貧兒の生活は其の勞力を以て之れを償はしめざる可からず。かくする時は渠等は自身の爲めに労働し、且つ其の生活の高下如何は、一に渠等が労働の結果如何に係るものなれば、益々以て其の勤勉力を鼓舞することを得可し。然れども小兒の操作が果して能く其の生活を支ふるに足るや否や。渠は此の問題を仔細に吟味し、なほ宗教上の事に關して縷々陳する所ありしも、くどくどしければ略しつ。

## 同

## 其の三

千七百七十七年三月十九日

渠は此の書にては、過る三年間の經驗の結果よりして、其の事業の成功が全く望む可からざるものにあらざることを論結せり。即ち貧兒の勞力が其の生活を維持するに足ること及び其の收支が共に渠の豫算通りに行きしこと等よりして、其の然る所以を論ぜり。渠は又貧兒

が植物質の食料のみにて、過度に労働するにも係はらず、其の頗る雄壯強健なるよりして見れば、質素儉約なる食料にても、なほ渠等をして無病健全ならしむることを得可きを云ひ、更に渠等をして直ちに立派なる労働者たらしむることを得るのみならず、なほ且つ渠等の最も知らざる可からざるものをも併せ知らしむることを得可きを語れり。

然れども困難は既に意外の邊より迫りたりき。何ぞや、曰く、

(一) 貧兒の中には袖乞ひ生活に馴れ染みて、到底之れを廢棄せしむる能はざる程の者ありたること。

(二) 貧兒の兩親の中には、目前の利に迷ひてノイホフに來り、健康清潔にして自營自活の位置にあるを樂しみつゝありし小兒を奪ひ去りたる者のありしこと。

是れ其の主なるものなり。加之、過ぎにし一年はノイホフの教育所に取りては一大厄年とも云ふべき時なり。ベスタロッチ夫人は絶えず病褥に在りて事に與かる能はず。加ふるに殊に清潔に注意を用ひしにも係はらず、數輩の兒童は傳染的皮膚病に感染し、家内の二十四人の者は後に回復したれど、一時は皆癩疹病に罹れり、斯く疾病災厄頻りに踵を接ぎて襲ひ來るにも係

はらず、魔神はなほも飽かずやありけむ。不幸にも其の年の收穫物は三度とも雹害に害せらるるに至れり。然るにベスタロッチ夫妻はなほも之れに屈することなく、益々奮勵踴躍以て其の事業を繼續するの決心なりしと雖も、又徐ろに熟慮すらく、貧兒の兩親と正式の約束を結び、且つ有司の助に依りて、其の満期に至る迄は決して之れを取り戻さざらしむるに非ざれば、此の事業の成功は遂に得て望む可からず。と。

人類の最下等なる部分に就いて一言し、併せて之れが救助に赴かれんことを乞ふ。

千七百七十七年九月十八日

ニューホフにて

渠は此の書にて十二人の貧兒に就き詳細に記して曰く、渠等は人をして同情の涙に咽ばしむるよりは、寧ろ森然として股票を覺えしむる程の墮落の状態にて來れり。予の渠等を受け取りし時に於ては、渠等は社會・國家と渠等自身とに對して害惡を爲すことの外は、何事をも爲し能はざる程の状態なりき。然るに今や渠等は概ね利發になれり。又其の餘の者と雖も、既に著しき進歩を爲せり。渠等は今能く労働に従事しつゝあれば、其の操作は以て其の生計を償ふに足れり。因つて思ふ、如何なる薄弱怯懦の者と雖も、之れを救ふの道は決して絶無

にあらざることを。

然れども之れが監督たる者は、渠等の父母を以て自ら處らざる可からず、此くの如き眞情あるにあらざるよりは、此の種の教育に於て到底其の効果を奏すること能はざるなり。

貧兒は五六年間の程は、此の教育所に留め置き、因りて以て墮落せる両親より不良の感化を受くるを避けしめざる可からず。

予は今三十六人の兒童を有せり。來春に至れば更に之れを増加して、以て財政上の困難を除去せざる可からず。

又千七百七十八年二月十六日の日附を以て、渠が自ら記したる書類の中には、渠と同居せる三十六人の兒童に就いて一々其の年齢・性質・奇癖より痴愚賢不肖に至る迄、詳細に記したるものあれど、餘りに長きが故にこゝに之れを示す能はざるは、吾人の竊に遺憾とする所なり。

以上引證したる書類に因りて、千七百七十年の春即ちベスタロッチが財政上の危急を救はんとして、著しく貧兒を増加したる時迄、ノイホフの貧兒教育所が如何なる状態なりしかは、ほど知了するに難からざる可し。誰か圖らん。事心と齟齬し財政上の危急を救はんとして増加した

るの貧兒は、却りて教育所の零落を招くの原因とならんとは。蓋し貧兒の多くは、怠惰放逸なる袖乞ひ生活を以て無上の快樂となしたるを以て、着實周到なる勞働事業の如きは、其の最も好まざりし所に屬す。然るにノイホフに來りてより以來、渠等は其の好まざる所を以て強ひられたり。是れ其の平ならざりし所以の二か。袖乞ひ生活の時に於ては、渠等は時に或は美味珍羞に有り附くことなきにあらざりしも、ベスタロッチの膝下に來りてより以來は、常に不味粗食を以て甘んぜざる可からず。是れ其の平ならざりし所以の二か。こゝに於て乎、渠等は不満の心を起し、機を見時を察して逃亡せんことをのみ是れ謀れり。貧兒既に此くの加しと雖も、幸にして之れが両親の渠等を慰諭且つ抑制することもあらんには、之れを匡すの術未だ必ずしも無しと謂ふには非ざるに、哀い哉、かの父母にしてかの子あり、噫々實に歎ず可きかな。渠等は管に其の子の不軌妄動を抑制せざるのみならず、却つて之れを煽動してベスタロッチに迫り其の子を取り戻さんことを強請せり。若しこれら兒童にして、ベスタロッチの虐遇薄待を受けたらんには、渠等の此の舉に出づるも亦理由なしとせざれども、渠等が檻穽を纏ひてベスタロッチの膝下に來るや、渠は之れに新調の衣服を與へて、之れを齊整清楚ならしめ、其の食するに當り

ては、渠自身は最悪なる馬鈴薯を以て甘んじながらも、渠等には特に其の最良なるものを選んで之れに給したる程なりき。然るに、今則ち此くの如き殊遇に酬ゆるに、親子相率ひて忘恩の舉に出づることゝに至らんとは、其の曖昧、其の野蠻、寧ろ語るに堪ゆ可けんや。ベスタロッチ曾て云へらく、

毎日曜日には貧兒の父母達大勢して予が家に押掛けたり。渠等は其の子供等の状態が豫期したる程善からぬを見て大に不満の色をなし、子供等を煽動し、且つ予を遇すること頗る暴慢無禮を極めたり。と。

貧兒の多くは、遂に夜陰に乗じて脱走したり。而かも渠等は空手にして脱走せず、手土産としてベスタロッチが曾て渠等に與へたりし、日曜用の衣服を抱きて逃亡したりき。然れどもこれらは未だベスタロッチに取りての大打撃にあらざりしなり。渠等兩親が不平の聲は端なくも、渠が保護者の耳に達したり。幾多の寄附金はこゝに於て乎廢せられたり。渠が事業に於ける公衆の同情も亦こゝに於てか頓に冷却したり。是れ豈に渠に取りての一大打撃にあらずして何ぞや。然れども渠豈に之れが爲めに沮喪落膽以て其の宿昔の圖望を放棄するを爲す者ならん

や。渠は貞節なる其の妻と共に益々勇氣を鼓して此の事業に當れり。かくて、粉骨碎身して困踏窮苦と戦ふこと二年。千七百八十年に至りて、財源信用共に盡きてまた爲す可からざるを知るや、ベスタロッチ夫妻はこゝに始めて其の事業を一時中絶するの決心を起したり。否、起さざるを得ざるの境遇に至れり。此の時ベスタロッチは赤貧洗ふが如く、前に渠をして哀れを催ふさしめたる、袖乞ふ貧兒が身の上は今や一轉して渠が身の上とはなれり。渠はなほ溺者を救はんが爲めに身を水に投じて、己れも共に之れと溺れたる者の類の如き乎。渠はなほノイホフに居住せりと雖も、妻は病褥に在りて家政に與かる能はず、身も亦幾多の困頓挫廢に心軀を憊らし、加ふるに、衣服もなく、薪炭もなし。況んや貨財に於てをや。それ何を以てか能く凍餒より免るを得可んや。吁嗟、天道果して是乎非乎。其の志士を苦しむこと一に何ぞこゝに至るや。然りと雖も、天下の廣き四海の大なる、豈に一人の仁人渠が急に赴き渠を災禍の中に救ふ者無からんや。渠は實に一下婢エリザベスなる者の手に救はれたり。渠は實に一下婢なりきと雖も、吾人は此の婦人に關して記す可きもの甚だ多かり。然れども紙數限りありて、之れを許さざるを奈何す可き。已む無くんばそれたゞベスタロッチが後年の著「レヲナード及びゲルトールド」中

の勇敢にして活潑に、敏慧にして柔和に、且つ熱誠あり、敬虔ある一婦人が性格の模型は、全く之れを活物なるエリザベスに取りたるものなることを記して足れりとせんか。

嗚呼、ベスタロッチが最初の教育事業は此くの如くにして失敗せり。然れども其の緊要必須のものたることの一點に至りては、一人として之れを否定する者あらざる可し。渠が改良救治せんと企てたる積弊惡風が今日なほ世上に蟠りつゝあるを思へば、其の然る所以のもの亦甚だ炳焉たらずや。且つそれ渠が此の事業を以て、社會に如何なる公益を與へたるかの蹤跡に至りては、吾人は亦茫乎として捉風捕影の感無きに非ずと雖も、後年瑞西をして、渠の主義に則り、渠の方法に準ひ、更に渠が失敗したる所以のものを去りて、其の成功す可き所以のものに就き、以て貧兒教育に従事し、而して偉大の成功を遂げたる、三四の人士を輩出せしめし如きに至りては、渠が失敗なるもの亦必ずしも無効の失敗とのみ貶す可きにあらざるなり。千七百七十四年、ベスタロッチの貧兒教育所をノイホフに設立するの頃に當りてや、其の近傍に於ける農夫の子弟の状態たる、殆ど記するに堪へざる程にてありき。然るに千八百六十九年、即ち此の時を距ること九十五年の後に至りて、ノイホフに遊歴せし者あり。其の言に因るに、鐵道は未だ此の

地に通ぜずと雖も、土地の耕作は充分に行はれて田園の荒蕪に屬するものなく、農夫は孜々勞働に従事して、家々足り、人々給し、未だ曾て袖乞ひ生活を營む者あるを見ず。學校の如き亦頗る見る可きものあり、と。嗚呼、一旅客をして此の言あるを得せしめたるもの、抑々誰が功にか歸す可き。吾人豈に其の因る所を知らざる可けんや。

要するに、ベスタロッチは植物の解體して土地を肥やすが如く、失敗しながらもなほ後世に利澤を垂れたり。強て之れを形容することを得可くんば、渠は先登第一として、人道の馬前に討死せる、忠勇なる武夫と謂ふ可き乎。其の斃れたる不幸や悲しむ可しと雖も、其の全軍の志氣を鼓舞したる理想の勳績に至りては、千載の下、なほ凛乎として生氣あり矣。

## 六 スタンツ孤兒院

時維れ千七百八十九年、ミラボー、ダントンが輩の暴腕酷手に依りて成されたる佛國革命は、獨り其の國古來の状態を一變したるのみに止まらず、それが共和國としての誕生の初聲、なほ未だ高からず、刀瘡血痕また未だ全く消し去らざる中に在りて、早く既に其の血腥き手を伸ばし

て、健氣にも其の先進國たる、瑞西の内政に干渉し、以て斯國をして一大革命を起さしむるに至れり。吁、四百年間の久しき、瑞西聯邦が、依りて以て其の獨立を維持せし、從來の國家組織は、幾多喧擾紛亂の餘、今や全く土崩瓦解に歸して其の形痕をも留めずなりぬ。然りと雖も、雨の既に降れるあり、地の固まる、豈にそれ遠からんや。即ち舊邦國、舊社會は、俄然として顛滅解體に至りしと雖も、新らしき國家、新らしき社會、且つ新らしき人民は、踵を接して現はれ來れり。こゝに於て乎、唯一無二なる共和國は、五人の攝政官の治下に公然たる布告を見るに至りき。

ベスタロッチも亦此の事變に遭遇したりし者、而して渠は徹頭徹尾、斯の革命に反對したる者の一人なりき。然れども其の自國の前途の益、隆運なる可きを豫見し、且つ其の攝政官等が身を邦家の休戚と共にするの赤誠あるを知了するや、渠は忽にして意釋け情和ぎ、而して更に自ら奮發して曰く、時なる哉、時なる哉、今や自由の精神は復活せり、當局者の教育に熱心なる、亦頼むに足らずとせず。予が從來挫折せし教育事業をして、再び完成の域に達せしめんこと、今日を措きて將た何れの日にかあらん。と。かくて、渠は新政體・新社會より起る可き利益の

鴻大ならんことを知るものから、俄然其の從來の言動意志を一變して、共和政體謳歌者の一人とはなりにき。千七百八十九年の夏より秋に至るの間、渠が世に公にせし七部の政治的小冊子と、其のフェルレンベルグに與へたるの書とは、以て吾人が言の虚ならざるを證するに足らん。千七百九十八年の六月に至りて、新政體が眞意のある所を明かにし、且つ之れに反對する者の攻撃に備へ、以て人心を收攬し、輿論を左右せんには、之れが手段として、一の新聞紙を發行せざる可からず、との議は端なく當局者の間に起れり。議定まり、而して事將に行はれんとす。而して之れが主筆の命を受くるや、八月二十日に至りて、承諾の受書を捧呈せし者は、ベスタロッチ其人なり。此の新聞たるや、題して「通俗瑞西新聞」と云ひ、毎週一回の刊行なりき。學校長・僧侶及び官吏には、無代價を以て頒たれたるものなり。然れども反對者の苦々しき疾惡に逢ひ、且つ一般人民は目して以て御用新聞となし、之れを購讀する者甚だ少なかりしかば、其の目的を達するに由なく、遂に第十九號を限りとして廢刊するの不幸を見るに至れり。然れども、ベスタロッチは、これより先、他に緊要なる事件の渠が手を要するものありしを以て、早く既に主筆の任を辭して其の職に在らざりき。千七百九十八年五月、即ち當居者間に新

開發行の計畫ありし月に先だつこと、三旬、渠は早くも、時の文部大臣スタッフエル氏が巴里に在りて不在なるの故を以て、司法大臣マイヤー氏に宛て、左の如き書面を呈したりき。

司法大臣閣下、予は小學教育に幾多の改善を加ふるは、邦家の一大急務なることを確信する者なり。願ふに二三ヶ月間も、試みに之れを實行したらんには、必ずや重大なる結果を奏することを得可きなり。故に予は文部大臣スタッフエル氏に向ひ、予が能くする所をして、國家の爲めに盡さしめられんことを懇願し、併せて予が目的履行の事に關して、氏が攝政官と共に協議あらんことを乞はんとす。然るに氏や今巴里に在りてこゝに在らず、故に狀を具して司法大臣閣下に白す。頓首。

千七百九十八年五月二十一日

アローにて、ベスタロッチ

幸にして事、官の納るゝ所となれり。スタッフエルの巴里より歸るや、直ちにベスタロッチとアローに會して商議する所あり。スタッフエルは、今日普通教育に改良を加ふるに先だちて、小學教員養成所を設立するは、物の順序に於て然るべきものとなし、ベスタロッチをして、之れ

が校長たらしめんとしけるに、渠は之れを肯はず、飽くまで兒女を相手にして、其の多年懐抱せる、主義目的を試みんと欲し、曾てノイホフにて、渠の企てしが如き、貧民學校の計畫を擧げて、之れをスタッフエルに示したり。こゝに於て乎、文部大臣スタッフエルは、長文の書を攝政官に呈し、之れが實行の運びに至らんことを上申せり。事尤さる。而して其の實行の手續も大略其の緒に就き、たゞ、設立の地方と其の位置と及び其の他詳細の事項の如きもののみ、未だ全く決定せられざりし中に、何ぞ圖らん、意外の椿事の一朝突如として、天邊より降下し來らんとは。ベスタロッチが、俄然前の計畫を捨て、更に新なる計畫を起したるは、蓋し之れに因らずんばあらず。椿事果して何ものぞ。そは次項の叙述を見よ。

シュウッツ、ウーリ及びウンテルウアルデンの三縣は、古來瑞西自由の搖籃として稱へられたる程なればにや、曾ては己が欲するまゝに政府を組織し、政治を行ひたるに引き易へ、今は一中央政府の指呼命令に是れ屈從せざるを得ざるに至れるを以て、斷然之れが反對の位置に立ち、敵意を表して之れに當るに至れり。中に就いて、ウンテルウアルデンの人民の如きは古を尙びて今を卑み、舊を喜んで新を憎むの特に最も甚だしきものなりき、然るに新政府は今や頑硬かく



の如き人民に迫りて、之れに一致の盟約を奉ぜしめんと企てたり。渠等豈に黙々として之れに従ふ者ならんや、斷々乎として之れが合同の盟を擯けたり。事既にこゝに至る攝政官たる者亦手を斂めて傍觀す可きにあらず。乃ち將軍シャウエンボルグの麾下に、佛蘭西軍隊を附し、一舉以て之れを服従せしめんとこそは試みたれ。而かも渠等や數に於ては固より佛蘭西軍に儔す可くもあらずと雖も、皆是れ殉國決死の輩、一以て千に當るの覺悟を有せざるはなく、加ふるに、老幼男女打ち混じて戰場に躍り出で獅子奮迅の勢を以て縱横健闘したりしかば、官軍爲めに大に苦しみき。然れども衆寡の敵せざる、計謀の密ならざる、而して武器の精銳ならざる、遂に敗軍の悲惨に陥るに至りぬ。然るに官軍の兵士は、人民が抵抗の頑硬此くの如くなりしを憤るの餘、殺戮殘傷を恣にしてなほ饜かず。更に火を放ちてこゝに大破壊を試み、以て其の憤怒を漏らしたりき。越えて二日、此の地方の主府たる、スタンツも亦兵亂の殘害する所となりぬ。是れ實に千七百九十八年九月九日の事にして、即ちベスタロッチの主筆なる「通俗瑞西新聞」の第一號の刊行せられたる翌日なりとす。當時此の事變より生じたる慘狀に關して、内務大臣レンガーの報告書の中に左の如き記事あり。

最も憐れむ可きは、自己の家屋は固より有せざるが上に、今回の兵燹にて其のあらゆる所有物を灰燼にしたる大多數の者なり。内、老人百十一人、孤兒百六十九人、(他縣に在りて慈善家の施物に生活しつゝありし、七十七人は數へず)其他孤兒にはあらざるも、其の家族の痛ましき没落の爲めに、今なほ家の住む可き無き者二百三十七人なり。

悲惨鼻を酸くするの事、何ぞ限らん。然れども此くの如きはまた實に慘中の慘にあらずや。當局者また豈に傍觀坐視するに忍びんや、乃ちスタンツに一の孤兒院を創設するの議を決せり。時に十一月十八日なり。而して當局者はベスタロッチをして、此の孤兒院の監督者たらしめんとせり。博愛なる渠は豈に袖手傍觀以て此の好機會を失ふことを爲す者ならんや。乃ち其の前に計畫せしものを棄て、忽ちスタンツに赴き、孤兒の師父となりて、以て己が多年懷抱せる主義目的を試みんと欲せり。こゝに於て乎、飄然袖を拂つてアローを立ち、十二月五日を以てスタンツに到着せり。スタンツに尼寺あり。戦後、適當なる場所もあらざれば、孤兒院には、此の寺を以て直ちに之れに充て、幾多の修葺改善を加へて後、漸くにして孤兒を之れに入るゝの運びに至れり。千七百九十九年正月十四日、ウンテルウアルデンの權知事なるトラットマン

は、書を内務大臣レンガーに寄せて曰く、

今日孤兒院にては、第一回の孤兒を收容せり。神も、政府が此の慈善的事業を起したるには、定めて同情の感を表せらるゝなる可し。予は其の結果の善良ならんことを切望して止まざるなり。予はこれら可憐兒の遂に不幸の境遇より救はれて、今や此の所に養はれ、常に教育を受くることを得るのみならず、併せて將來の計をも準備することを得可きを思へば、心竊に感激の至りに堪へざるなり。

越えて數日、小兒の數は五十人の多きに達せり。然れども此の孤兒院程、慘澹なる經營の下に成立せられたるもの、世間果して幾何かある。時は恰かも十二月下旬の頃、寒風膚を劈くの嚴冬なるに、憐れむ可し、孤兒は空しく路頭に彷徨して、たゞ寒に叫び餓に喚くの外なきなり。之れを救ふこと一時も速ならんと欲せば、院の開始も亦片時も急ならざるを得ざるなり。然るに此の院や固と是れ一の尼寺に過ぎざりしが、此の時に當りて室の住むに足るべきもの僅かに一個のみ。餘は皆灰砂を以て充たされ、腐朽殘廢、用ふるに足るべくもあらず。而して最も緊要なる庖厨の如きも、亂雜不規律を極めて、また其の用に供す可くもあざりしなり。然れど

も孤兒入院は焦眉の急にして、一日も猶豫す可きにあらざれば、院の修葺排置も未だ全く整備を告げざるに、早く既に孤兒を之れに入るゝの止むを得ざるに至れり。而して入院せる孤兒の状態如何を顧みなば、將た如何の感かある。渠等は概ね、腫物に惱み、瘰癧を曳き、加ふるに、蚤虱を以て被はれたるのみかは、懦弱にして且つ惡風汚俗に馴れ染みたるが如き、見るから憐然として股栗を覺ゆる程なりしなり。院の結構彼が如く、小兒の状態此くの如し。而して之れが家政を管理し、之れが清潔に注意し、之れが健康に配慮し、而して又之れが教育を實行せんと欲す、思ふに幾多有力なる助手を得るにあらずんば、固より以て通常人士の能くする所にあらざるなり。誰か圖らん、單身孤獨、慘境此くの如きに處して、僅かに一下婢を相手にし以て事に之れに當りし者ベスタロッツ其の人の如きあらんとは。聞説く、院の開かれたる當時、臥床不足なりし爲めに、七十の孤兒の中、其の二十名は院に宿泊せしむるを得ざりしを以て、夜毎之れを他の家に送らざるを得ざりしが、ベスタロッツは、毎朝毎夜、之れが送迎の勞を躬らして、毫も倦怠の色なかりきとぞ。其の熱心、其の親切、また以て窺ふ可きにあらずや。渠が實用的才智に乏しき人なりしにも係はらず、能く其の嶮山峻嶺を登攀し來りて、更に迅速なる成功を

招致したる所以のもの、亦何ぞ怪むを須むんや。赤誠一片萬事成る。丈夫生命を懸けて覆載間に立つ、天下の事、亦何ぞ成らざるを是れ憂へんや。其の後未だ一ヶ月ならざるに、トラットマンは左の報告書を内務大臣レンガーに呈せり。時に千七百九十九年二月十一日なり。

孤兒院は中々に盛運なり。ベスタロッチは日夜勵精刻苦して休むことなし。孤兒の数は今や實に七十人の多きに達せり。されど院内臥床の充分ならざりし爲めに、其の二十人許りは此所に宿泊することを得ざるは實に遺憾の至りなり。而してベスタロッチが、終始間斷なく勤勞して止まざると、其の孤兒が進歩の著しきとに至りては、予は實に驚嘆するの外なきなり。因りて思ふ。我が國は數年ならずして、其の勞に酬ゆるに足るべき好結果を收めんこと必せり。と。予は尼僧達の早く往生せらるゝか、さなくば、寺を明け渡して他の尼寺に移られんことを切望して止まざるなり。

ベスタロッチは、かくて、例の勇氣と熱誠とに一鞭を加へて、日に餘る困難障礙を一足飛に跨ぎ去れり。然れども其の躡えざる可からざるの溝、攀ちざる可からざるの巖、豈に曾に此くの如きのみにして止まんや、蓋し前に記したる困難の如きは、大は則ち大なりと雖も、又た内

部に屬するもののみ、之れを以て將來來らんとする外部の困難に比すれば、其の輕重緩急、日を同じうして語る可きにあらざるなり。而して事業最後の成否を左右するの大權を握れるものは、寧ろ前者にあらずして、後者にあり。所謂外部の困難とは何ぞや。曰く、

(一) 渠が助けんとて來れる地方の人民の不信用・惡意及び其の公然たる反對。

(二) 一も二もなく、古風の教育法を踏襲するの癖習ある教育者にして、而かも世に重望を負ふる者が、ベスタロッチの理想を誤解して之れを非難したること

是れ即ち最も渠を苦しめ、最も渠を惱まし、而して渠が事業の進行を妨害する、一大摩擦力なりしなり。渠果して如何にしてか之れに抵抗することを得たる。

人を助けんとして却りて人に憎まる事、頗る奇態に屬すと雖も、情々當時の狀勢を案するに、亦勢の止むを得ざるものありしなり。蓋しウンテルウアルデンの人民たる、前に起れる至慘の事變を以て、全く新政府の致す所なりとの觀念を抱き、屈辱の怨恨、骨髓に徹して須臾も忘るゝ能はず、故を以て渠等の新政府を疾視すること、蛇蝎も當ならざるの際に、容貌醜陋にして、一見人の嫌惡を買ふに足るべきベスタロッチは、渠等が最も疾める新政府より派遣せられて此所

に來れり。是れ豈に空拳赤手以て、敵陣の中央に投ずる者にあらずや。渠が孤兒を教養保護するに、懇篤を極め、親切を盡すこと、父母兄弟と雖も、また及ばざるものあるにも拘はらず、なほ且つ渠等は之れを邪推し、是れ必ず以て人心を籠蓋し、輿望を新政府に收めんと欲するの底意に外ならずと、思惟したるなり。且つそれ此の地方たるや、舊教信者の巢窟とも云ふ可く、官吏教育家の位置にある者にして、新教を信する者は、未だ曾て一人もあらざりしなり。されば新教徒ベスタロッテに委するに、渠等が愛兒の世話を以てするが如きは、全く其の精神を奪ひ去るものとし、頗る危険の恐れを懐きしならん。勢既に此くの如しとせば、其の渠等が惡意・不信用及び公然たる反對といふ、猛烈なる炎熱の下に曝されたるも、また止むを得ざるの情勢なりとす。

且つ渠が此の事業の如きは、前古未だ曾てあらざる所にして、其の目的とする所は、渠が新理想を實行するにあるが故に、其の採用する方法の如きも、また從來世人の慣用し來れるものとは、大に其の撰を異にせり。例せば、ベスタロッテは預め規矩を立つることなく、表面上の秩序に頓着することなく、且つ其の小兒を級分けすることもなく、たゞ造次顛沛の間も渠等と共に

在りて、舉手投足に滿腔の愛情を籠めて以て之れに接し、因りて以て渠等が表彰する才智・能力及び感動をば、機微の間に看破せねばやと待ち構へつゝありしなり。是れなほ園丁が幼樹を培養馴致するに當りて、先づ其の發芽の状態に注意するが如きのみ。是れ實に渠が獨歩單立、敢て他人の力を借らざりし所以にして、世の認めて最も經驗ある教師となす者と雖も、渠に取りは毫も必要なきのみならず、又且つ無用の長物ならんのみ。渠は又最初にありては、書籍又は學校用具を用ふることなく、生活に必須なる物什を除くの外、一物をも要せざりしなり。たゞ渠の大に要せし所のものは、小兒をして渠自身と天然と相觸接せしむること即ち是れのみ今それ豚の面前に眞珠を投ずるも、渠豈に、其の至寶たるを知らんや。猫の眼下に黄金を示すも、渠豈に、其の貴金たるを知らんや。若し以上の主義と方法とをして、僥倖にも當時社會の容るゝ所となりたらんには、寧ろ怪む可きの現象とすべきのみ。實にや、スタンツの孤兒院を參觀したる者の眼中に映ぜし所のものは、亂雜是れのみ、不秩序是れのみ、而して着實眞面目なる教育の如きは、朦々たる渠等が眼中、豈に其の片形隻影をも映す可けんや。トラットマンの賢明を以てすら、なほ且つベスタロッテの眞意を誤解することを免るゝ能はざりき。況んや自餘

の斗筭輩に於てをや。嗚呼、大巧はそれなほ大拙の如き乎。古人の金言實に吾人を欺かざるなり。千七百九十九年三月二十五日を以て、トラットマンが内務大臣に報告したるものを見れば、渠が如何にベスタロッチの熱心赤誠を稱揚したるかを知ると同時に、又如何に其の方法手段を排抑したるかをも亦知る可きなり。然れどもベスタロッチを非難するの聲、頗る高きにも係はらず、攝政官は毫も之れが爲めに其の意志を動搖せず、又敢てベスタロッチが行動に羈束を加へず、以て益々渠をして自由の運動を爲さしめたり。是れ渠に取りては、實に無上の幸福なりしと雖も、天乎、命乎、渠は太く土地の人民より敵意と反對とを蒙りたり。而して渠の最も苦しみ悩むものは、彼にあらずして、寧ろ此にありたるを以て、其の燃ゆるが如きの勇氣と熱誠とを以てするも、復將た手を下すに處なからんとす。こゝに於て乎、渠は自ら憂慮すらく、我が事、それ或は畢るに至らんか、と。千七百九十九年四月十九日、其のレンガーに送れる第一報告書は、能く個中の消息を漏らして餘りあり。吁、外部に屬する二種の困難は、此くの如く入り換り立ち換り、襲ひ來りて、益々渠を深淵の中に驅らんとす。渠果して能く之れを免るゝを得たる乎。事態此くの如く非なるにも係はらず、孤兒院の盛大なるは、實に驚くに堪へたるものあり。

孤兒の始めて此の院に來るや、顔色憔悴を極むる者あり。性情羞恥を知らざる者あり。残忍なるもあれば、亂暴なるもありて、之れをして一々遷善改過の實を擧げしめんことは、殆ど望む可からざる程なりしに、今や渠等は一化して、溫柔親切・熱心活潑、而かも熙々樂しみ、裕容迫らざる、好個の小童とはなれり。正に是れ春風一たび吹き初め來りて、萬綠萌え出でんとするの狀に似たり。

千七百九十九年五月二十四日は、スタンツの孤兒院と之れが監督者たるベスタロッチに取りては、大に尊重す可きの日にぞありける。渠は此の日を以て全院の小供を引率し、遙々ルーザルンに赴き、時の行政攝政官たるレグランドを訪ひしに、渠は滿面喜色を湛へて之れを歡迎し且つ八十人の孤兒に與ふるに、一シルリング以上を價ひする新銀貨一個づゝを以てせり。因りて思ふ、攝政官レグランドがベスタロッチを非難する者の説を耳にだに留めず、固く渠を信認して毫も惑はざりしことを。之れを要するに、スタンツの孤兒院の全盛を極めたるは、實に此の時にありしなり。吁、幾多の狂瀾を凌ぎ、怒濤を蹴りて、僅かに此の盛を致せる、スタンツの孤兒院は、幹根既に長大して、綠葉將に繁茂せんとするの時に當りて、不幸、僅かに二週日

の後、意外の變事の爲め、遂に之れを閉づるの止むを得ざるに至れり。吁、惜みてもなほ餘りある事にあらずや。

戦争は屢々起りて、佛國軍隊は又もや此の地に入り來りて、多數の傷病兵を生じたり。之れが爲めに備ふべき病院の必要なるは云はずして明かなる所なり。而かも時の知事なるツホツケは、孤兒院の外他に之れに充つ可き家屋なきを見たり。こゝに於て乎、千七百九十九年六月八日を以て、八十人の孤兒の内、僅かに二十人を除きて、其餘の六十人は悉く院外に送り出されて假りの宿りを種々なる陋屋に求めたりき。吁、二週間以前には、さしも盛大を極めたる孤兒院も、今や一頓して荒涼寂寞、秋風吹き梧葉落つるの慘景を呈するに至らんとは。榮枯盛衰の理、固より之れを奈何ともする能はざりしとは云へ、院の將來に無限の希望を屬せるベスタロッチたる者、悲風蕭條、かくの如きの光景を目撃して、豈に能く斷腸の思に堪へんや。渠は六十人の兒童の將に院を去らんとするに臨んで、之れが各自に二組の衣服と少し許の金額とを與へて、涙ながらに之れと袖を分ち、且つ道具の類は、凡て之れをルーサルンに送りて安全ならしめ、其餘したる一百ポンド以上の金額をば、之れをツホツケの手に渡して、又後事の願慮す可

きなきを見るや、身も亦悄然として此の地を去れり。去りて遂に何地にか往きたる。渠は過度に身心を勞したるを以て、太く健康を害し、遂に血をすら咯く程に至りしかば、河水清らかなるの邊、靜かに身を養はんものを、と。乃ち匆忙、行李を整へて、ガーニゲルに退隱せり。吁、勞苦倦極して遂にこゝに至る。聞くだになほ吾人をして憫々の感に堪へざらしむるものあるにあらずや。攝政官の此の事を聞きしは、既に事後にてありしかば、又奈何ともする能はず。ここに於て乎、攝政官は、六月十七日の會議に於て、ベスタロッチに贈與するに、二十五ポンドの金額を以てせり。是れ渠がスタンツの孤兒院の爲めに盡したるの故を以てなり。金は大ならずと雖も、また以て其の志を明かにするに足る。想ふにベスタロッチは深く攝政官の厚意に感泣したるなる可し。然れども、渠が形軀を殘害するをも顧みず、心力を消耗するをも慮らず、滿腔の熱血を、たゞ孤兒院の爲めに注ぎたる所以のもの、豈に金錢上の報酬を得んが爲めならんや。然り而して院の末路や、彼が如くにして、想ひも掛けざりし金の報酬は、獨り空しく渠が手に落ちにき。渠が之れを手にせるとき將た如何の感ありしか。吾人、渠が心事を察してこゝに至れば、豈に一滴の紅涙眼臉を濕すもの無からんや。

八月に至りてツホツケは書を攝政官に寄せて曰く、今ヤスタンツにありては、戦亂既に平ぎたれば、曾て閉鎖せし孤兒院は、之れが組織に一大變更を加へて、復び之れを開かれんことを乞ふ。と。而して更に又乞ふて曰く、之れが指揮監督をば、トラットマンと予とに委任せられんことを。と。事兩ながら充さる。然れども、同年八月十六日のトラットマンの書信に依るに、ツホツケの所謂組織の變更なるものに依りて、孤兒院が果して幾何の進歩を爲したるかは、茫漠として知ることを得ざるなり。讀者よ、こゝに一事の記す可きものあり。即ちツホツケは、ベスタロッチの主義と方法とに反對せる者の一人なること、是れなり。トラットマンの書は即ち次の如し。

孤兒院にては、今兒女を合せて四十人を有すと雖も、之れが設立の目的に到達するに必要なる事物は一も備はるなし。小供等はたゞ養はるゝのみにして、其の他の事は絶えて實行せられず。と。

新孤兒院の結果、豈に此くの如き乎。同年十月に至りて、ツホツケが公にしたる組織變更の設計なるものを見るに、是れたゞ國庫の負擔を輕からしむるに足るの範圍に於て、孤兒院維持の資金を供給する最良方策を説明したるものに過ぎずして、知識道德の方面より觀察したる、内部の組織變更に關しては、一言の之れに及ぶものなかりき。而して、院の状態は其の後或は進歩したりや、と問ふ者あらば、吾人は事實に依りて其の然らざるを答へざるを得ず。何となれば、其の後とても絶えて進歩の兆なく、依然として前に引證せるトラットマンの書信中に記せるが如き状態を存したればなり。

これより先、ベスタロッチがスタンツ孤兒院を去るや、之れを難する者、之れを賞する者、紛然・雜然として現はれ出で、物議たゞ喧擾を極めて、渠が功過の程も、未だ全く世に明かならざりしが、獨りスタッフエルは卓然として流俗に抜き、以てベスタロッチに與みたりき。渠は周到綿密なる眼孔を以て反對者の非難を吟味し、而して後顯著なる事實を引用し來りて、逐一之れを論駁し、再びベスタロッチの意見を詳述し、更に之れを實行する時は、以て善良なる結果を得可きを説き、後に左の如く論結して曰く、

予が見る所を以てすれば、ベスタロッチをして再び孤兒院の監督たらしむるは、策の最も得たるものなり。曩に渠がこゝを去りたるものは、一に戦亂の不幸に是れ因ればなり。

現在ツホツケ一輩が監督する孤兒院の將來に望みなきや、それ此くの如く、スタッフフェルのベスタロッツに應援するの切なる亦此くの如し。而してガーニゲルに於ける退隱靜養は、渠が健康を回復し再び昔日の如くならしめたり。理想の實行に渴けるベスタロッツ、こゝに至りて豈に能くスタンツに復歸し、半途にして挫廢したる事業の大成を期するに切なるの情なきを得んや。渠は叫んで曰く、

予は事業なしには、生活する能はざる者なり。予はなほかの一時、海中の危巖に憩ひながら、なほ水中に躍り入らんと待ち構へつゝある游泳者の如き乎。と。

渠の燃ゆるが如き熱望とスタッフフェルの盡力にも係はらず、攝政官は斷じて渠が請求を拒絶し、且つ孤兒院をば惜げもなく閉鎖せしめたりき。渠豈に河を渡らんとして、先づ橋梁を毀れたるの感なきを得んや。然れども是れ渠に取りての幸か不幸か、未だ俄かに知り易からざるなり。蓋し渠の事に當るや、粉骨碎身して斃るゝに非ざれば、則ち止まざるなり。因りて思ふ、渠若し再びスタンツに行きたらんには、或は恐る、事業の爲めに斃るゝなきを得しかと。況んやスタンツ人民の渠に反對せること、前に記したるが如くなるに於てをや。若しそれ然らずと

するも、其の功果を奏するに至らんことは、萬一にも望む可きにあらざるなり。然らば則ち渠の宿痾、僅かに癒えたるの時に於て、再び任侠的事业に當ることを得ざりしは、寧ろ天の渠を保護してこゝに至らしめたるに非ざるなきを得んや。

スタンツに於けるベスタロッツの事業は、此くの如くにして終りを告げたりと雖も、十九世紀の小學校が、其の組織を渠が此の事業の結果より採りたることを思へば、其の教育界に於ける偉勳は、實に一大贊辭を呈せざるを得ざるものあり。而して此の事業よりの結果、即ち偉大な教育改革に關しては、其の一友ゲスネルに送れる書信、之れを審にして餘りあり。此の書信や、近代教育學に於ては、最も緊要にして又最も興味あるものの一なるを失はざるなり。吾人之れを一讀するに、其の小兒の才智と情操とを發達せしめ、以て内、徳を進めて、外、行に及ぶの方法を取れる組織的教育に就いて概論するが如き、或は教育を以て、小兒自己が活動の結果となし、教育者はたゞ其の活動を指揮す可きのみと説けるが如き、其の他、地理・博物の如き學科を普通教育の課程に入るゝの方法に就きて論じ、或は讀書・習字及び綴字は、互に之れを連結して教授せざる可からずと説けるが如き、蓋し當時に在りては、一として耳新しからざ



るはなく、言々語々、皆精金美玉を包含するものと謂ふも、また過褒にあらざる可し。故に之れが全文を示して、讀者をして之れを熟讀玩味せしめんこと、是れ固より吾人の宿望なり。されど紙面限りあり、因つて割愛して其の片言斷節を擧げ、僅かに其の一斑を示すを以て足れりとせざるを得ず。

親愛なる足下、予は今再び目醒めたり。予は再び予が事業の破壊し、予が氣力の消耗したるを見たり。然れども、予が事業は此くの如く不幸短命なりしと雖も、焉んぞ知らん、他日予が後を繼ぎて、一大成功を遂ぐる者の必ず予が今失敗したる所に起るあらんことを。世の志士仁人は、予が之れを望むの決して由なきにあることを諒せらるゝならむ。(中略)

渠は次にスタンツの孤兒院に赴くに至れる來歴を述べ來りて左の如く云へり。

政府は慘境に沈める、此の地方の人民を救はざる可からざるの必要を感じたり。故に予にこゝに赴きて予の理想計畫を實行せんことを依頼せり。然れども之れが効果を奏するに必要なる事物は、皆不足して一も備はるものあらず。されど、予は喜んでこゝに赴きたり。予は思へらく、人民の無邪氣なる、必ず予が缺乏する所のものを給與し與るゝならんと。且つ

又思へらく、渠等は不幸なる境遇にあるだけ、恩を感じるも亦一入深からん、と。而して予は渠が理想を實現せんが爲めには、或はアルプス山の頂上、云はゞ火もなき水もなき所にて、事を起さんとしたるやも知る可からず。

次に孤兒院開始の準備に就きての困難辛苦及び孤兒が到着當時の状態に關して、精細に叙し來りて又其の教育上の意見を述べて云はく、

予は事物の關係を人に知らしめ、其の天賦の能力を啓發せしめ、其の判斷力を養成せしめ且つ其の久しく埋れたる才能を發達せしめんが爲めには、あり觸れたる日常生活の必要品の極めて緊要缺くべからざることを確信する者なり。かくて、これらの才力を發育し、因りて以て小兒をして、純潔質朴なる生活を遂ぐることを得しめんと、是れ予が目的とする所なり。蓋し予は此くの如くにして、よく予が欲するまゝに、小兒の性情を陶冶することを得可きを信すればなり。予は今、予が目的を實行するの機を得たれば、深く自ら思へらく、予の愛情が小兒の性情を一變することの速かなる、なほ太陽が地上の水を溶かすが如くなるを得べけん、と。果せる哉、皚々たる四圍の白雪、なほ未だ全く溶けやらざるに、小兒の性情は早くも既

に一變せり。(中略)

予は救助と保護とに缺乏せること、此くの如く甚だしかりしと雖も、是れ却りて予が事業の成功に與りて力ありしものなり。何となれば、萬事意の如くならざりしかば、勢ひ小兒の世話は予一人にて引受けざるを得ざるに至りたればなり。予は從晝至夜渠等と共にあり、而して渠等が身心の需要は、皆予一人の手にて辨ぜられたり。教育にまれ、慰諭にまれ、其の他必要なる救助にまれ、渠等は之れを予より直接に受くるの外なかりしなり。予は渠等と飲食を共にし、喜憂を同じうしたれば、渠等も亦世界あることを忘れ、スタンツあることを忘れたり。而して予はたゞ渠等とあることを知り、渠等はたゞ予とあることを知るのみなりき。予は家族あるにもあらず、友人あるにもあらず、又下僕あるにもあらず、獨り渠等あるのみ。晨には早く起き、夕には遅く寝ね、而して寢室にありては、予は渠等と共に神に祈禱を捧げ、時に或は渠等の乞ひに任せて、其の眠りて兩眼を閉づるに至る迄、渠等に某事を教へたることもありき。渠等が衣服身體は頗る汚れたりしかば、予は自ら手を下して、之れが始末を付けやりたり。されば、予は常に身を傳染病の危険に曝しつゝありしなり。予が辛勞の程は斯

くまでなりきと雖も、是れ即ち孤兒が漸次に、予に懐き來りし所以にぞある。渠等の中には其の兩親及び友人が、予を惡しさまに云ふことにあれば、之れを聞いて大に怒り、且つ之れに反對せる者もありたりき。以て渠等が如何に予を頼もしきものに思ひたるかを知る可きなり。渠等は又予の世間より冷遇せらるゝを見るや、更に益々予を愛したりき。その肉食鳥が小鳥の巢を襲はんとするや、雛鳥が己れの危険を忘れて、其の母鳥を愛護するさまも、かくやと思はれて、可憐らしさは一入なり。(中略)

予の小兒に説明を與へしは極めて稀なりき。又道德宗教の如きも絶えて之れを教へしことあらず。然れども、渠等の極めて靜肅なりし時には、予は屢々之れに語り。汝等が騷擾しつゝある時と、かく靜肅にしつゝある時と、孰れか最も思慮深きや、と。又渠等が父よと呼びながら、予が頸邊に齎はり來る時は、予は渠等に告げて、予が愛兒よ。汝等は父を欺くを以て正しき事と思惟するか。予が面前には、予に接吻しながら、予の背後に回りて舌を出し、嘲けるは抑々善事なるかと、云へり。話頭は更に轉じて世の不幸の事に及ぶこともあれば、渠等は自己が現在の境遇の幸福なるに思ひ合せて戚々焉たるもの如し。こゝに於て乎、予は

渠等に告げて云はく、嗚呼、神は有り難きものかな。汝等に賦與するに、かく同情の心を以てし給へり、と。又時としては渠等に問ひしこともありき。貧民の爲めを思ひて、之れに教育を與へ、之れに生活の方法を授け、以て之れを教養保護するの政府と、之れを怠惰放逸のままに放任して、毫も顧みざるの政府と、其の間果して幾何の差異あるを知れりや、と。(中略)

近隣の町なるアルトルフが大火の際、予が圍りに小供を寄せ集め、之れに告げて曰く、今や、アルトルフは焼盡せり。纏はんに衣服なく、食はんに米麥なく、たゞ路頭に彷徨して救を叫ぶの貧兒は、恐らくは百人以上も生じたるなる可し。汝等豈に政府に乞ひて、其の中の二十人程を此所に迎へ、之れと共に睦じく生活するに意なきや、と言下聲あり、云ふ。ヲ、有り、有り、固より、意ありと。頗る感に堪へざるものの如くに答へたるさま、今なほ予が眼前に髣髴たるを覺ゆるなり。予は又言を繼ぎて曰く、然れども兒等よ、汝等は善く思慮して、然る後心を決せざる可からず。今此所にあるものは、總じて八十人なり。然るに現在の金にては之れを養ふにすら足らざるを覺ゆる程なるに、今二十人を之れに加へたればとて、政府は果して之れに應じて資金を増給するや否や、未だ明かに知る可からず。然る時は、汝

等は更に一層の力を勞して働き、且つ汝等が衣服と食物とは、其の幾分を割きて渠等に與へざる可からず。否、時に或は食せずして止むの必要あるやも知る可からず、汝等こゝに至るもなほ且つ渠等の來ることを欲するか、と。然るに渠等の決心は牢乎として、更に動く可くも見えず。皆聲を齊うして云はく、然り、然り、予等は渠等の來らんことを欲す。難き仕事も壓ひはせじ、衣食の缺乏も何のものかは。と。

又グリゾンスより、三四の亡命者來れり。予に少し許の金を附し、且つ之れを小供等に與へられんことを乞へり。予は直ちに渠等と呼び寄せ、せて之れに謂つて曰く、これら三四の人々は、皆止むを得ずして故國を振り棄て、此所に來れる方々なり。明日の宿所をすら、未だ得求め給はざる程の困難なるに係はらず、敢て汝等が爲めに此の金を賜はる。汝等來りて恭しく方々に謝せよ、と。兒等は此の語を聞きて痛く感動したるもの如く、亡命者の眼臉亦涙に濕ふを見たり。

予が口に道徳上の事を説明するの前に當りて、先づ小兒の道徳的感情を喚起せんと努めたるは、常に此くの如き方法に依れり。これ他なし、特に題目を擇びて、之れが理窟を小兒に向

ひ喋々するも、渠等は之れを了解すること能はず、たゞ徒に其の言語を無意義に繰り返へすに過ぎざればなり。此くの如きは拙の又拙なるものにして、予の甚だ取らざる所なり。(中略)予は別に秩序、方法及び術數などに頓着せざりしなり。然れども、小兒が予の渠等を愛するを自覺するより起れる、自然的の秩序方法及び術數に至りては、予の大に望みし所なり。渠がスタンツに於ける事業は、空しく敗亡に歸したりと雖も、其の此所にて發明せる理想と主義とは、實に之れを採用せる國民をして其の國威を宣揚せしめ、其の國力を増進せしめたりき。吾人はなほ進んで、渠がブルグドルフの經驗に依りて、此の主義、此の理想、如何に進歩發達したるかを見んと欲す。

## 七 ブルグドルフの公立小學校

ベスタロッチ、既にスタンツの孤兒院を去りて、ガーニゲルの靜養、僅かに健康を回復したるの時に及んで、再び、之れが復興を切望したりしも、許されざるを以て其の望を空しうしき。

退かん乎、目的を棄てざる可からず。進まん乎、赴くに處なきを奈何。其の轆轤落魄も、こゝに至りて亦極まれり。渠が所謂理想の實行に餒え且つ渴きたるもの、蓋し此の時を以て其の極度に達せりと、謂ふ可き乎。それ餒ゑたる時は食を擇ばず。渴きたる時は飲を簡ばず。精神的に饑渴に逼りたるベスタロッチ、焉ぞ飲と食とを擇ぶに迫あらんや。渠はベルンネ縣のブルグドルフと稱する一市街に赴き、土地の公立小學の一に奉職せんと欲して、市の有司に請て曰く、希はくば予をしてたゞ兒童の教育に従事することを得しめよ、予は敢て報酬を要せざるなり、と。而して此の請ひや忽ちにして拒絶せられたり。如何に理想の實行に餒え且つ渴きたればとて、無報酬を以て學校教員を願ひ出づるが如き、古來東西果して幾人を數ふことを得可き。是れ豈に渠が世態に暗く、人情に通ぜず、而して又智巧に乏しきの致す所にあらざらんや。愚と謂はん乎、狂と謂はん乎、抑また主義目的に忠なる者と謂はん哉。大人、由來赤子の如く、大賢却りて魯鈍に似たり。吾人は、渠が世態に暗く、人情に通ぜず、而して又巧智に乏しきこと、此くの如きを見、其の飾らず、街はず、天真爛漫玲瓏透徹、玉の如く、花の如きの心情の之れが裏面に伏在するあるを見ては、之れを嘆賞せざらんと欲するも、豈にそれ得べけんや。況ん

や。「予は敢て報酬を要せざるなり」との一語に至りては、自他を忘却してたゞ主義目的に執着する渠が肺腑を吐露し盡してまた餘蘊なしと云ふ可きなり。此の一語、仔細に玩味し來れば、趣味津津々として湧き出づること宛も源泉の如く然り。吁、百年後の今日何ぞそれ報酬の多寡を論じて主義目的を顧みざる者多きや。思ひてこゝに至れば轉た慚愧に堪へざるなり。噫、渠若し愚ならんには、吾人は天下に愚人の少なきを嘆ぜざる可からず。渠若し狂ならんには、吾人は天下に狂者の多からんことを望まざるを得ざるなり。

階に攀ちんと欲して、忽ち脚を失ふ。ベスタロッチの失望も亦察す可きにあらずや。渠は前年、「レヲナルドとゲルトロルド」を世に公にして、公衆の喝采を博せしより以來、未だ曾て一の成功に會ひたることあらず。人皆云ふ、渠は實用的才智に乏し、と。或は云ふ、渠は二三ヶ月間は善く働くなる可し、されど永くは續かざる男なり。渠は不學短才の者なり。渠はたとひ三十歳にして一小説を書きたればとて、五十歳にしてよく人に教ふるに堪ふべしとは云ふ可からず、と。此の如きは是れ渠がスタンプを去る頃、世間に取り囃されたる批評なりき。然れども、渠を棄つるの神あり、豈に又渠を捨うの神なからんや。萬人既に渠を誤解す、豈に、一人

の渠を正解する者なからむや。斯く世評の紛々たる間に立ちて、よくベスタロッチの眞價を認識せし者は、ブルグドルフの知事シュネル及びドクトル・グリムの兩人なり。渠等は斡旋盡力の餘、遂にベスタロッチをして、ブルグドルフの下部市街に於ける一小學校に奉職することを得しめたりき。

ブルグドルフはベルンの北東數哩エムメ河の上りに在り。而して其の小丘の絶頂に一の古城あり、細かき幾多の街道は、之れが山腹を繞りて重疊相連なる。之れを上部市街と云ひ、富裕にして且つ市民権ある者、多く之れに居住す。之れに反して小丘の山麓なるを、下部市街と云ひ、貧者にして市民権なき者の居住する所たり。然れども、上下の區別は獨り市街の位置のみ止まらざりき、上部市街の人民は、下部市街の人民を疎外にし、之れと伍を同じうすることを厭ひたり。此くの如くなりしかば、其の學校も亦兩者同一なることを得ず。即ち下部市街の人民の子弟は、上部市街の學校に入ることを得ざりしなり。ベスタロッチの奉職せしは、即ち下部市街の學校にして、之れが校長の任にある者は、サミュエル・デイズリーと呼ぶ靴製造人なりき。渠は生徒七十三人を有して、之れを己が居宅に教授し、且つ閑暇あれば製靴の業をも營み

たりき。而して其の教ふる所はジークフリードの教授初歩、ハイデルベルグ問答書及び讚美歌即ち是れのみ。嗚呼是れ精神的饑渴に瀕したる、ベスタロッチが奉職せし學校の光景なり。

渠が此所に教鞭を揮ひ初めたるは、實に千七百九十九年七月下旬にして、七十三人の中殆ど其の半數は渠の受持つ所となれり。渠が教授法は、固より當時普通のものとは大に其の趣きを異にしたりき。渠は書籍を用ひず、問答書又は讚美歌の類の如きは、之れを抛棄して顧みず。而して教ふる兒童はと云へば、則ち一物をも記憶せざるなり。讀書もせざれば、習字もせず、又答ふべき問題も與へられざるなり。たゞ、重要な練習としては、手もて石盤上に思ひ／＼のものを書きながら、ベスタロッチの唱ふる言語に伴ひて、之れを一齊に繰り返へすのみに過ぎざりき。サミュエル、此の奇妙なる教授法を目撃して、心中豈に一驚を喫せざらんや。サミュエルは特に渠が絶えてハイデルベルグ問答書を用ひざりしを怒れり。而してサミュエルは其の不平を小兒等の父兄に漏らしたりしかば、父兄等は宛も炎々たる猛火の暴風に煽られたるが如くに、忽ち騷擾を惹き起し、さては一致合同してベスタロッチを校外に放逐せんと企てたり。渠等揚言して云ふ、上部市街の人民にして、ベスタロッチが新教授法を賞讃せば、乞ふ之れを渠等自

身の子弟の爲めに採用せよと。こゝに至りてブルグドルフの有司も亦之れを默々に附する能はず。遂にベスタロッチを解雇したりき。嗚呼是れ渠がブルグドルフに來りて以來、第一の蹉跎なり。

然れども、シュネル及びグリムの兩氏は深くベスタロッチの主義方法を贊するものから、渠をして、空しく至寶を抱きて、槽檻の間に伏さしむるに忍びず。遂に渠をして、職を上部市街の一學校に奉ずることを得しめたりき。此の學校にては、男女を區別し、各々三級に分てり。兒女は八歳よりして其の初年級に入ることを得るの制なるも、八歳以下の者の爲めに、特に讀書及び綴字科と稱する豫備科を設けたり。是れ渠が受け持つを許されたる所のものにして、生徒は五歳乃至八歳の兒女を合せて二十人より二十五人までなりき。渠が此所に來りて後、其の友ゲスネルに送れる第一の書信中に、左の如き記事あり。

ブルグドルフに於ける小學校は、幾分かの虚飾と誇張とはあれど、兎に角合理的の規則の下に支配せらるゝなり。予には萬事新奇に感ぜられて、予が生涯中、未だ曾て斯かる事に従ひたることあらず。されど予は予が目的を達するに急なれば、之れをしも敢て辭せざるなり。毎日

朝より晩まで、いろは、を叫びつゝあれど、スタンツに於ける時と同じく、たゞ、實驗的方法に依りて之れに従事するのみにして、豫め規矩を立つるが如きことなし。又不撓の精神を以て綴字を次第に結合するを務めたり。又數を教ふるにも同じ方法を取れり。予はあらゆる手段を盡して、讀書・算術の初歩を心理的に整置し、兒女をして、第一のことを知れば、容易に第二のことを知り、第二を知れば更に第三を知り、漸次此の如くにして、小兒自身の力にて萬事を學び得るまでに、予が教育を簡單平易ならしめんと欲す。予は此所の生徒には、スタンツの時の如く、石盤上に文字を書かしむる代りに、線曲線方形など、思ひくゝのものを書かしめつゝあり。

さて渠が如何なる方法を以て、此の學校の教場に働きたるかは、前の書信に依りて聊か窺ふことを得可きなり。渠は一日圖畫を教ふるの際、窓の畫の手本を生徒の目前に示し、渠等をして之れを觀察せしめ、且つ之れを模畫せしめける時、渠等は此の手本に據りて、窓の硝子板、横木の數を數へ、將に運筆に取り掛らんとする折柄、中に一人の生徒あり、眼を教場の窓に凝らすこと、良き久しき後、絶叫して云はく、予等は此の手本により窓の形を學ばずとも、窓其

の物より之れを學ぶことを得ざる乎、と。それ負ひ子に教へられて、淺瀬を渡るの類は世上往々之れを見る所にして、ベスタロッチも亦此の時豁然として頓悟して云はく、然り汝が言是なり、なほ天然と直接に觸着せざる可からず、と。乃ち手本を棄て、直ちに渠をして窓其の物を觀察せしめたりき。ベスタロッチが教授上に於けるの慣用手段は概ね此くの如きものなり。かくて、千八百年三月の學業試験に於けるの成績は頗る善良なる結果を奏せしかば、ブルグドルフの學務委員は、之れを以て全く渠が教授法の結果なりとなし、禮を厚うし言を卑うして渠に名譽ある感謝狀を贈り、以て其の教授法の有功なることを賞讃したりき。渠の教授法が公衆の喝采を博することを得たるは蓋し之れを以て嚆矢とす。かく教授に従事しつゝありしが、愛兒ジヤコプの病危篤なりとの報に接し、一時歸省しけるが、其の少しく癒ゆるや、再びブルグドルフに歸れり。學務委員の報告善良なりし爲めならん、渠は第二年級即ち六歳乃至十五歳の兒女六十人より成立し、地理・算術・作文・聖書・歴史・瑞西歴史等を教ふ可き學級を委任せられたり。渠が此の級にありて如何なる教授法を用ひ生徒に臨みたるかは、當時渠が學生にして僅かに十歳の一少年なりしジョン・ラムザアが、而立の時、世に公にせし自傳の中、「予が小學生生活の

略記」と云へる題目の下に、之れを審にするを得て餘あり。ジョン・ラムザーアは戦亂の結果、故郷に留まる能はずして、遙かにブルグドルフの近隣なるシュロイメンに遁れる一孤兒にして、土地の慈悲心ある一貴女の收容する所となり、次いでベスタロッチの教養薰陶を受け、後には堪能なる教師となり、遂にはフルデンプルグの公子公主の侍講を勤めたる程の人なりき。渠が其の自傳の中に記したる所を一讀したらんには、ベスタロッチ當年の風丰意氣、躍如として眞に逼るを見ん。請ふ之れを左に示さむ。

通常の小學にて得らるゝ程の知識に至りては、予及び同輩も決して之れを有せざりしなり。然れどもベスタロッチが熱心に、親切に、又無我なりしこと、及び渠が位置の極めて困難なりしこと等は、その頃予が幼な心にすらありく／＼と分りしかば、予が心は自然に渠に引かされ、且つ予をして生涯渠の恩惠を感銘せしむるに至れり。事實此くの如くなりしかば、予が恩人なる貴女が、冬季の寒酷を避けんとてベルンに旅立たんとせし時、予及び他の一人の小兒に向ひ、自己に随伴して遊ぶか或はブルグドルフに留まるを欲するかと問ひし時、他の兒童は、かの女と共に繁華なる市街に行くことを望みしかど、予はブルグドルフに留まりて、

ベスタロッチと共に生活せんを擇びき。

予が曾て在りし學校の全光景を描き出さんことは、殆ど能くし難きの事なり。されど少く記することあるべし。抑、渠の考に依れば、教授は三個の原素、即ち言語・算數及び形狀より始むべしとせり。而して勉學せしむるに先だち、豫め規矩を立つることなく、又學課の順序にも顧慮することなく、加之、同一の學課にて二三時間をも費したることすらありたり。渠が時間にも顧慮せざりしさま、是れを以て見る可きなり。予等は殆ど六十人にして、長けたるは十五歳を頭とし、幼きは八歳なるを尾としたり。學課は、午前は八時より十一時まで、午後は二時より四時まで、而して日々教授を受くる所は、圖書・算術及び語學の練習のみにして、予等は讀みもせざれば、書きもせず、書物もなければ、寫本もなく、暗記す可きものとしては實に一物もあらざりき。而して圖畫教授の如きは、手本も指揮も與へられざりき。又ベスタロッチが予等をして、語學の練習を爲さしむるため、博物學上の二三の文章を口にて繰り返へさしめつゝある間に、一方には予等をして石盤と赤き石筆とをもて、予等が思ひ／＼のものを手もて描かしめたり。或は人形を、或は家屋を畫き、線を引く者もあれば、曲線を描く者もあり。而して渠



は予等が果して何物を描きつゝあるかは之を知らざれども、たゞ予等が衣服の袖の動くを見て、僅かに予等の赤き石筆を使用しつゝあることを推知するのみなりき。又算術の時には、黒板を幾個の方形に區分し、此の中に無数の點の印せられたるを見たり。予等は、此の點を或は加へ、或は引き、或は乗じ、或は除したりき。ベスタロッヂは、予等をして、日々此の如き練習を繰へ返へさしむるの外、決して一の問ひをも試むる等の事なかりき。抑々此の方法たるや、固より善良なるには相違なしと雖も、予等に取りては左まで利益を與へざりしなり。(中略)

ベスタロッヂは、授業に熱心なるの餘り、毫も時間に顧慮せざりき。八時に始めて絶え間なく十時まで授業し了るや、渠は額に汗して頗る疲勞の状を呈するも、なほ且つ屈することなくして、之れを十一時まで續くるを常としたりき。予等は他の學校の生徒が、街道に出で、騒擾を爲すは、常に十一時頃なることを知りしかば、時至るや、渠に許可を得ずして、教場外に突進したることあり。後に至りて渠は教師の鞭笞の罰を用ふるを不可としたれども、當時渠自身は手を下して予等を責むるに吝ならざりき。何れにせよ、生徒はベスタロッヂを困却せしめたること明白なり。予は幼な心にも之れを氣の毒に思ひしかば、其の後は大に行狀を慎

み、渠が心を安んぜんと努めけるに、渠亦直ちに予が意のある所を察し、頗る満足の色ありき。されば授業の無事に終る時などは、渠は甚だ機嫌好く、予を伴ひてエムメ河畔に散策し、此所にて鑛物を採集せんとしたり。然るに予は數ある鑛物の中に、何れを擇びて可なるかを知らざりしかど、渠も亦實に之れを知らざりき。然るに渠は石塊を手當り次第に拾ひて、之れを手巾又は懷中に充たして家に還れり、而かも二度とは之れに目を觸れたることなかりき。以上の記事に依るに、ベスタロッヂが此の際に於ける事業は、蓋し當時世人の嘲弄を招きしこと疑ふ可くもあらず。然れども吾人は之れを記したるラムザニアは、當時僅かに十歳の少年なりしが故に、其が感觸せし所は、或はベスタロッヂが事業の弱點短所のみにはあざざる無きかを疑はざるを得ざるなり。而して此の校に於ける渠が事業は、なほ未だ經驗の最中なりしを以て、渠が直接に小兒の教授に従事したるは、比較的に僅少なりしことをもまた記憶に存せざる可からず。加之、渠は未だ自身の新教授法の果して如何なるものなりやの明確なる觀念に至りては、茫乎として捕影の感なき能はざりしなり。かくて、渠は千八百年の夏期の終りまで教鞭を揮ひつゝありしかど、終に此の學級に於ては、曾て初年級にて得し程の好結果を奏するこ

とを得ざりしなり。ラムザーアが記せる所に因るに、生徒の多くが渠を困却せしめたりとあるのみにあらず、スタツフェルも亦曾て云へることあり。曰く、ベスタロッチの容貌の醜にして、舉措の奇なる、往々、教場に於ける渠が威信に影響を及ぼしたり。ブルグドルフの知事シュネル氏は、生徒と渠との間に仲裁の勞を取りしこと一再ならざりき、と。噫、熱心渠が如く、勇氣渠が如く、而して、其の結果の豫望に副はざることを。此くの如くなる所以のものは何ぞや。蓋し此の時に於ける渠の方法たる、徹頭徹尾、初等的簡單なるものにして、全くの初學者には恰當したるものなりしかど、已に久しく、他の方法を以て訓練教養せられたる十四五歳の兒童に取りては、たゞ小供らしき所業の如くに感ぜられ、空しく渠等が倨傲の心を刺衝したるに過ぎざればなり。ラムザーアが所謂此の方法は善良なるものには相違なかりしかど、予等に取りてはさまで利益を與へざりきとは、蓋し妥當の評言なりと謂ふ可きなり。然らば則ち渠が初年級にて成功したる所以のものは、則ち其の二年級にて失敗したる所以のものなること、また怪むに足らざるなり。渠はイフェルダンに於ても、また此の失敗を再演したりき。則ち知る、其の失敗たる、斷じて新教授法其のものの罪にあらざること。

千八百年正月七日を以て、ベスタロッチに同感の意を表せし攝政官は、期滿ちて位を去れり。之れに代りて、局に當りし者を七人の行政委員となす。然るにベスタロッチは、其の目下の境遇の終始不斷の勞働を要するを以て、爲めに或は身を害ふに至らんかを恐れたれば、スタツフェルの力を借りて補助を政府に乞ひ、以て新事業の經營、即ち私立學校設立の事を切望して止まざりき。是れを以てスタツフェルは、同年二月十八日を以て、ベスタロッチの教育意見に留意す可きこと、及び渠に七十ポンドの資金を貸與せられんこと、竝に私立學校設立のため、ノイホフ近邊なる官林より、二百五十本の材木を下附せられんことを乞ふの旨を、佛文にて起草し、ベスタロッチに代りて、之れを行政委員に乞へり。事、官の允す所となる。然れども、ノイホフ近邊の官林は、其の狀態甚だ宜しからざるの故を以て、こゝより材木を供給するの件は、拒絶せられしと雖も、又之れを補ふに他の山林よりの材木を以てす可きの命に接せり。ベスタロッチ欣喜躍躍する能はず、乃ち感謝狀を行政委員に贈りて曰く、

行政委員閣下、予は今が今まで、政府の助力を得る能はず、予が生涯の一大目的を齎らして、空しく泉下の露と消えざるべからざるかを恐れしに、圖らざりき、今や忽ち此の恩命に

接せんとは。予が恐懼は之れが爲めに消散し、予が勇氣も亦之れが爲めに回復せり。予豈に感謝の涙に咽ばざらんと欲するも、それ得可けんや。と。

時維れ千八百年三月六日、渠が如何に新事業の經營に焦慮熱中したりしかは、以て見る可きにあらずや。然れども、政府は當時財政困難の折柄なりしかば、勢ひ其の決心を實行するに踴躍せざるを得ざりしなり。ベスタロッチが既にブルグドルフに私立小學を設立し、諸般の準備を整へたるの時に於てすら、渠が初年の分として國庫より受け取りたるものは、僅かに二十五ポンドに過ぎざりき。而して、中、十五ポンドは、其の著「綴字讀書の教授法」と題する、小冊子の出版費に充てたれば、渠が經濟上の困難は殆ど名状す可からざる程なりき。且つ、ノイホフ近邊の山林より材木を得る能はざりし一事は、渠が計畫を實行する上に著しき阻礙を與へたり事體此くの如くなりしかば、渠が新事業の經營は遅々として進まず、爲めに、依然從來の境遇に彷徨し、以て其の身を教場の勞働に專にせざるを得ざりき。かくて、從晝至夜、役々として怠らざりしかば、體力固と限りあり、焉ぞ能く久しきを保つことを得んや。忽ちにして二豎の犯す所となり、其の事業も亦將に半途にして廢絶に歸せんとす。渠は病褥にありて往を憶ひ來

を想ひて、苦悶自ら禁する能はず。一聲天を仰いて嘆じて云はく、噫、我事畢れり、と。然れども天は渠に救護の手を垂れたり。天は渠に贈るに渠が久しく寛望せし最も堪能なる補助者を以てせり。嗚呼是れ誰ぞや。ヘルマン・クルージー即ち其の人なり。

クルージーもまた古風教育に大反對の意見を有する者、ベスタロッチとは未だ曾て一面の識だにあらざれど、是れ亦同志の士たるを愆らざるなり。而して、其の聰明、其の氣力、而かも其の進ばしるが如きの熱誠と、其の教育に全身を捧げて、敢て他を顧みざるが如き、就中、其の自己の識得を以て自ら安んぜず、夙夜淬勵、勇往直進、毫も退却せざるが如き、自ら凡庸教育者流と其の撰を異にするもの無くんばあらざるなり。渠は後年イフェルダンに於ける、ベスタロッチの學校の没落に至るまで、渠と趨舍去就を同じうし、其の生徒を遇するや、慈愛の形容、常に眉宇の間に溢れて、父の如く、母の如く、親切を極め、愛情を盡しき。若しそれ博物學と語學とを教授するに當りては、其の卓越せる伎倆を揮ひて、常に生徒に満足を與へたる一教育家にぞありける。吾人は既にベスタロッチに負ふ所の大なるを知る者、また焉ぞクルージーに負ふ所の小ならざることを忘却して可ならんや。請ふ吾人をして、先づ渠が經歷の一斑を語ることを

得しめよ。

ヘルマン・クルージーは、千七百七十五年を以てアツペンツェル縣のガイスと稱する一村落に生れたり。父は卑賤なる商人なりしかば、早く既に勉學を棄て、家計を助けざる可からざる境遇とはなりぬ。以て、其の幼時は全く無教育なる一童子なりけるが、渠は稟性鋭敏にして注意深く且つ修學の志甚だ篤かりしかば、夙夜自ら鞭撻を加へて毫も怠ることなく、忙中閑を求めて孜々自修に努めたり。渠は近傍の村落を徘徊して、賣買に従事し、日々幾何かの金額を懐にすることを得るの身となりしかば、此の境遇は自然に渠をして計算に熟達ならしめ、併せて種々なる物品の性質等を鑑別するの力を養はしめたりき。渠はまた草深き田舎路を往復するの途次、有用なる植物の目に觸るゝあれば、一莖一草たりとも決して之れを徒視せしことあらず、能く其の名稱を記憶し、其の性質を研究せずんば則ち止まざりき。其の複雑繁忙なる商業事務に執掌する身になりながら、よく思を山紫水明の間に馳せ、意を天然の光景に凝らして、賞翫措かざるが如き、其の性情の敦朴・純潔にして、天真爛漫・八面玲瓏、毫も俗氣を帯びざるが如き、蓋し俗務に従事する者の中には殆ど觀ること罕なる所の者にして、所謂雞群中の孤鶴とも

謂ふ可きか。因りて思ふ、渠は卑賤なる一商家の兒たりと雖も、其の爲人の此くの如く崇高偉大なるを以て見れば、吾人は渠が無意識的に一大天職を有する一麒麟兒たることを疑ふ能はざるなり。

人固より知り易からず。然れども、己を知ること亦至難の業なるなからむや。クルージーは、商業家たらんよりは、寧ろ教育家たるに適したるの人なりしなり。而かも渠自らは毫も之れを知らざりき。渠は年齢十八歳の時、炎天燬くが如きの日、流るゝ汗を拭ひつゝ、糸の重荷を背にして、トロローゲンより返るさに、ゲープリス山頂を過ぎつゝありけるが、偶然、時の會計官たるグルーベル氏に邂逅し、氏が慇懃なる懇懇に接して、始めて教育家たらんとするの志を起しき。時恰もホエルレンと稱す一教員のガイスを去らんとする者ありしかば、渠は試験の上、之れが後任に採用せられたり。時に千七百九十三年なり。渠の初めて教育に従事するや、極めて難澁に、極めて苦艱なりしかど、其の親しく兒女を教育するの傍ら、更に自己の智識を増進することを得しかば、衷心竊に愉快に堪へざるものありき。若しそれ他の人をして、渠の位置に立たしめなば、必ずや自己の先輩より學得せし所のものを以て、之れを兒女に施し、一に則を

古風に求めしや必せり。渠に至りては獨り然らず、嘗に知れる所を兒女に授くるを以て足れりとせざるのみならず、なほ且つ兒女と共に進修せんと務めたり。渠は時に或は織物業に就きて語り、牧畜法に就きて談じ、或は商品に、或は植物に、其の他田舎の生活に必要な、あらゆる智識に至るまで、總べて之れを渠等に授けて、兒女をして愉々快々毫も勞苦倦怠の念を起さしめざりき。之れを要するに、渠の教育法も亦一新機軸を出したるものにして、随つて古風教育法と相衝突するものなくんばあらず。吁、大聲は俚耳に入らず。渠が新教育法の眞價、豈に輒く凡庸俗士の耳に入らんや。嘗に耳に入らざるのみにあらず、又且つ渠等の猛烈なる反對に遭遇せり。特に千七百九十八年の瑞西革命の後に至りては、渠が新制を贊して人民の事業と教育の發達とに利ありとなせし意見は、これら反對者に幾多の好辭柄を與へて、更に一段の氣焰を熾んならしめたり。渠は遂に古風教育家の好意を失ひて、また一事をも爲す能はざるに至れり。さはさりながら測る可からざるは、たゞそれ天運なる乎。古木葉萎みてまた忽ち融和の春に會ふ。天運循環して究まらず、渠が働きを呈すべき一新生面は將に現はれ來らんとせり。

前世紀の晩年に至りて、シュネップフンターのザルツマンの監理せし學校より、教育改革に鋭

意熱心なる、幾多有爲の士を輩出せり。就中、最も有名なるを、フィツシエルと稱する瑞西の一青年なりとす。渠はベスタロッツと主義目的を同じうし、瑞西に於ける小學改良の急務を大聲疾呼せし、高尚寛大、而して又愛國心に富める人なりき。たゞ渠がベスタロッツと意見を異にせるは、小學校教育改良の手段として、先づ師範學校設立の必要を唱へたる一點にありしのみ。故にフィツシエルは、其の目的を以て、先づ地をブルグドルフの古城に相して着々歩を進め、將に其の經綸を實行するに至らんとす。是れ實に千七百九十九年の秋の事にして、時恰も佛蘭西軍は普墺の軍を破り、爲めに東部瑞西もまた其の禍害を免るゝこと能はず、其の結果は遂に慘澹たる饑饉を生じたり。然れども亂を免れたる地方の人民は、大に罹災者の境遇に同情を表し、其の子弟の死に瀕せる者あれば、皆先を争ふて、之れを己が家に收容し、以て之れに衣食を給するを努たり。ブルグドルフに於て、最も力を此の義舉に致したる者を前に記したるフィツシエルとなす。氏は其の友人にして、當時ガイスに牧師の職を奉ぜし、スタインミューラーに書を送り、告ぐるに其の地方の罹災者の子弟三十人と、之れを監視するに適任なる一青年とを、併せて之れをブルグドルフに送らば、適當の家屋衣食を給して相當の教育を施すべきを以てせり。ガイ

スはクルージーが故園の事なれば、渠はスタインミューラー氏とは、曾て相識れることなきにしもあらず。故にスタインミューラー氏は、クルージーに告ぐるに、小兒と共にブルグドルフに往くの意なき乎、彼處に至れば有名なるフィツシエル及びベスタロッチの教訓を受くるの利あるべきを以てせり。クルージーは思へらく、彼處にてこそ、予が教授上の手腕を鍛練することを得可けれど、乃ち好機失ふ可からずとなし、直ちに之れを承諾せり。時維れ千八百年正月二十一日、渠は二十八人の兒女を率ゐて住み馴れしガイスの家郷を跡にして、ブルグドルフ指してぞ出立しける。越えて六日、これら兒女の一群、恙なくブルグドルフに到着するや、皆夫々に近隣の慈善家が收容する所となれり。是れより先、フィツシエルとベスタロッチとは、既にブルグドルフの古城に同居しけるが、クルージーは先づ兩人の寓居に投じぬ。爾來、これらの三氏は相結ぶに同情を以てし、且つ互に蘭契を爲せり。時に或は意見の一致せざることなきにあらざるも、又互に敬愛を盡し毫も睽離の狀を呈せしことあらざりしなり。而してクルージーはフィツシエルの感化を蒙れること多かりしが、後ファツシエルの死するに及び、ベスタロッチとクルージーと、相結んで其の事業を共にするに至りて膠漆も管ならざる交情とはなりぬ。かくてベスタロッチ

は熱心誠實にして而かも主義目的を同じうする一の補助者を得たり。

## 八 ブルグドルフの私立學校

ベスタロッチ、既にヘルマン・クルージーを得て、少しく愁眉を開くことを得たり。蓋しクルージーは全くベスタロッチと意見を同じうし、又渠よりも更に世態人情に通曉し、而かもよく渠に師事し、渠の意を領して働きければ、ベスタロッチに取りては、誠に有用なる補助者なりけり。こゝに於て乎、ベスタロッチはクルージーがアッペンツェルより携へ來りし亡命の貧兒と、自身に委托されたる、ブルグドルフの良家の子弟とを合せて、之れを一堂の中に教授せんと欲せしかば、勢ひ教室を増加せざるを得ざるの境遇に差し逼れり。幸にもスタッフフェルの盡力に依れる千八百年六月二十三日の行政委員の決議にて、ベスタロッチは、ブルグドルフ古城の幾部分と、其の花園の少部分とを無賃にて使用することを得たり。吾人はスタッフフェルと國を異にし、時を同じうせずと雖も、ベスタロッチのために、將た人道のために、其が盡力に對して胸中竊に感謝の念を萌さざる能はざるなり。

かくて、ベスタロッヂは、其が自らの學校とクルージーのとを合併して以て、同心戮力共同の事業に従へり。然れども渠等の膝下に集ひ來れる小兒は、各自に年齢・教育・性質・素性等を異にしたれば、僅かに二人にて之れを管理教育するは頗る難事たることを知りしのみならず、又自身が活動をも更に自由ならしめ、且つ既に企てたる二三の教育の著作に従事せざるべからざるの必要ありしを以て、勢ひ更に適當なる補助者を求めざるを得ざることはなりぬ。かくて夏期休業の間もなく到來するや、クルージーは其の舊友にして、當時バゼルの某家に教師たりしトブラーを訪ふの機會を得たれば、之れに説くにブルグドルフに於ける新事業の經營を以てし、且つ其が一臂の力を添へられんことを請ひにき。トブラーはベスタロッヂと會て一面の識あるにあらざりしかど、嘗てフィツシユルの書信に依りて、其の爲人と精神とを知れるが上に、渠に就いて親しく新教授法の蘊奥を極めんとの志望甚だ切なりしかば、此の勸奨に接して直ちに承諾を與へたりき。渠は才幹ありて、想像力に富み、人を教ふるを樂しみ、又自ら研究するを好めり。然れども、ベスタロッヂはなほ未だ之れに満足せざりしなり。何となれば、渠は圖畫と唱歌とに教師の必要を感じたればなり。當時、バゼルの製本舗に年季奉公を勤めつゝありし一

青年、名をブッスと云ひて、頗る音楽に妙を得たるものあり、而して其の人はトブラーの識れる所なりき。

こゝに於てベスタロッヂはトブラーの手を経て、渠をも亦羅して其の門に致すことを得たりき。蓋しブッスは事情止むを得ずして、身を製本舗に投じたりと雖も、元來相當なる學業上の經歷を有する者なれば、甘んじて事にこゝに従ふ者にあらず、況んや、商業は固と其の好む所にあらざるをや。ブッスがトブラーの勸奨に接して之れを容れんとするや、其の友人は渠に忠告して曰く、「ベスタロッヂは寧ろ狂人なるのみ。渠は自身が日用の必需品をすら知らざるなり。渠が薬を以て靴を結び、之れを穿ちてバゼルの市街を往來したるは、皆人の知る所なり。斯かる人物と事を共にするは、未だ其の可なるを知らざるなり」と。實にや、ベスタロッヂ一日バゼル市街の門外に一貧人を見て之れを救はんとせしも、囊中一物も無かりしかば、止むを得ず己が靴の紐を解きて之れを惠與し、而して己は薬を以て靴の紐に代へたることありき。然れどもブッスは曾てベスタロッヂの著なる「レヲナルドとゲルトロッド」を讀みて、深く渠を信じつゝある者なり。されば斷じて諸友の忠告を斥け、直ちに旅装を整へてブルグドルフに出立せり。其の

到着して刺を通じ調をベスタロッツチに求むるや、一老翁あり、頭髮梳らず、服装整はず、塵埃にて汚れたる靴を穿ちて、倉皇門に出で以てブッスを迎へんと擬す。誰か思はん。這は是れ實にベスタロッツチ其人ならんとは。流石のブッスも斯くまで其の容儀の端莊ならざるを一見し、只管呆れて興さめたるもの如くなりき。されど其の質朴、其の親切及び其の才智の敏捷なる、忽ちにして、此の新來者をして、渠に同情を寄せ、赤誠を捧ぐるを禁じ敢へざらしめたりき。

かく面白き因縁によりて、ベスタロッツチは其の要用なる補助者をば悉く其の門に致すことを得たりき。之れを飛鳥に譬へんか、羽翼既に成れり、飛んで九天に冲ることをも得べし。之れを樹木に比せんか、幹枝己に長ぜり、綠葉方さに繁茂して、やがて灼々たる美花を着けんとなす。思ふにクルージー等三子者、固より尋常一樣の人にはあらざるべきも、又其の學識深遠なりと云ふべからず、其の名聲甚なりと云ふべからず。殊にトブラーは二十二歳にして始めて學に志し、ブッスに至りては、身久しく製本舖に丁稚たりし者、皆是れ個般の學識、個般の名望を以て望むべきものにあらざるなり。然れども其の教育に忠實なるの一點に至りては、三子者たる者、寧ろ異體同心たりと謂ふべきのみ。請ふ吾人をして、先づブルグドルフの一私立學校、即

ちベスタロッツチの組織したる一學校が、如何に當時の社會に鵬翼を張りしかを語らしめよ。

土地教育會は特に委員を設けて、ベスタロッツチの學說に就き調査を爲さしめたり。其の報告書は書記ルーチーの起草に係り、千八百年十月一日、時の文部大臣モールの邸に開ける總集會に提出したりき。今其の中の數節を摘記して、以て世論の一斑を知らしめむ。

予等の第一に感ぜしは、ベスタロッツチの學生が讀書・習字及び綴字を善くし、且つ算術に於ては精密且つ迅速に計算するを覺えたること、即ち是れなり。思ふに、斯かる進歩は通常村落教師にありては三年間を費すもなほ且つ得べからざる程の結果なるにも係はらず、此の學校の教師が僅々六ヶ月を以て之れを得たるは、頗る驚嘆すべきの事に屬す。

渠等教師が悉く是れベスタロッツチの如き人物ならざるは勿論、又ベスタロッツチの如く適當の補助者を有せざるは眞に事實なりとす。然れどもベスタロッツチの學校に於て、かくまで卓絶の進歩を見ることを得たる所以のものは、其の因る所、蓋し教師の如何にあらずして、専ら教授法の如何にあるもの如し。然らば則ち此の新教授法なるもの果して如何。單に「自然」の法則に従ふこと即ち是れのみ。換言せば、漸次に小兒を啓發し、小兒をして獨力先づ感覺の



門戸を經、進んで抽象的觀念に到らしむること即ち是れなり。なほ此の新教授法の利益とも云ふべきは、教師が生徒に臨むに自ら優者を以て對せず、寧ろ親切なる「自然」として、渠等と共に働き、渠等と共に學び、恰も同輩者として共に修むるものの狀あること是れなり。

人誰れか幼童の事物に名稱を附し、且つ之れを總合し、又新に之れを結合せんと欲して、再び之れを分解するの傾向あるを知らざる者あらんや。又誰れか渠が習字よりも圖畫を愛することを知らざる者あらんや。たとひ目に一丁字なき者と雖も、誰れか暗算するに當りては、頗る敏捷なる者あるを知らざる者ぞ。又誰れか幼童稚女の脚漸く立つに及んでや、直ちに軍人の眞似をなし、或は其の他の運動を爲すを樂しむを知らざる者ぞ。ベスタロッチの教育法の基礎は、實に斯かる簡單卑近の事實に存するに過ぎざるなり。

此の報告書は、更に進んで教授上の諸機械、例せば石盤、綴字用の文字カルタ等の使用法を記し、又唱歌或は散歩が往々學課の代りに課せらるゝを記し、次に左の如く論ぜり。

予等の判斷する所を以てすれば、此の教授法の實況を調査するには、先づ其の最初の方法よりするにあらずんば、之れに關する一般の觀念を作ること難きが如し。然れども、上に述

べたる所に依るに、此の方法の瑞西全國を通じて施行せざるべからざるものなることは固より已に明白なりとす。而して斯かる斷行より生ずる所の利益に至りては、舉げて數ふべきにあらず。ベスタロッチは、實に同志者の補助を得て、廣く此の新方法を世上に流布し、且つ之れを適用して凡ての小學教員を養成するを得るの運びに至らんことを祈れり。我々委員は双手を擧げて其が志望と目的とに賛成せざるを得ず。なほ我が委員は、本會に勸奨するに、ベスタロッチをしてブルグドルフに師範學校及び之れに附屬せる小學校を設立するを得しめんことを以てせざるを得ざるなり。と。

此の報告書及び教育會が請願の結果として、ベスタロッチは攝政官より冬期間の入費として、二十ポンドの金額を支給せられたり。又之れと同時にブルグドルフの知事なるシュネルは、ベスタロッチの意見に關する一小冊子を公にし、以て前の報告書の盡さざる所を補ひ、以てベスタロッチの意見に同感の意を表したりき。かくて、渠は兎に角、好評を以て迎へられたりしが如し。然れども、世を擧りてベスタロッチを知悉するに至るは、豈に一朝一夕の事ならんや。茲に師範學校の開校の公言せられたるは、實に千八百年十月二十四日の事なりとす。前

に見えたる教育會は、政府の保護のなほベスタロッチの事業を大成するに不充分なることを見しかば、乃ち委員に命じて、更にベスタロッチのため、義捐金の募集に着手せしめたり。こゝに於て乎、委員は其の趣意書を發表して、大聲以て瑞西全國に訴へたり。教育會の意氣も亦壯なりと謂ふべし。然るに新聞紙の中に、之れを賞するもあり、之れを難するもありて、紛然として意向を異にしたりと雖も、其の褒貶毀譽たる、一として政治上の意見に基づかさるはあらず。それ教育上の事を批評するに當りて、政治上の意見を挟むが如きは、固より宜しきを得たるものにあらずと雖も、ベスタロッチの青年時代に於ける激烈なる政論は、此の時なほ未だ世人の忘るゝ所とならざりしなり。是れを以て天下の人は、未だ渠を待つに熱心己を忘るゝの慈善家を以てせずして、思ひもよらざる革命黨の一忠臣を以てしたりき。事情此くの如くなりしを以て、義捐金の額豫想外に僅少なりし所以のもの、固より怪むに足らずと雖も、又甚だベスタロッチのために惜まざるを得ざることなり。嗚呼僧侶を惡んで袈裟に及ぶは今古一轍、人情洵に此くの如き乎。然れども、多年、暴風酷雨の間に千鍊百磨を累ねたる心魂、豈に失意此くの如きに驚かんや。乃ち其の身の貧困なるを物ともせず、(自費支辨の學

生の入學をこそ、教場の準備せらるゝまで斷はりたれ) 亡命の貧兒の如きは、直ちに之れを學校に引き取り、全く校費を以て之れを教育したりき。かくて、學校は千八百一年正月を以て、早くも開かれたり。其の修繕・用具及び諸般の入費の如きは、凡てベスタロッチの獨力負擔したる所なれば、其の嚴密なる節約を實行せざるを得ざると至りしも怪しむに足らざるなり。

ベスタロッチが從來關係せし學校は少なしとなさず。然れども、其の理想を思ひのまゝに實現し、且つ其が獨創的天才の純粹なる痕跡を留めしものに至りては、未だ曾てブルグドルフ學校の右に出づるものはあらず。随つて其の理想の純粹に實現せられたるものを求めんと欲せば、之れが研究の價值あるもの、また未だ此の學校に如くものあらず。況んや、其の壽命は僅かに三年半の短日月に過ぎずと雖も、而かもベスタロッチの小學教育に於ける赫々たる名聲を不朽に傳へたるに於てをや。吾人は先づ其の内部の歴史より説き起さんとす。左にラムザーアの記録より抄録する所あらんとす。

ベスタロッチの學生の數多ありたるが中に、此の校に入りて此所に宿泊したるものは、實に

予を以て嚆矢となす。次に入りたるを、予が友人にして、予と同じく亡命の兒なるの故を以て、全く校費にて引き取られたる、エッゲルと稱する者とす。ベスタロッチは誠心誠意己を忘れて學生のために竭したれば、予等は彼此の差別なく、皆渠を父として敬愛したりき。されど、予は他の學生とは少しく渠との關係を異にしたれば、一方には學生として其の教養訓練を受けしと同時に、他方には、此の家の一兒として幾何かの勞役に服したりき。故に予は給仕の名義にて、小兒にふさはしき種々なる家庭の事務を分擔したりき。然れども、時としては小兒の力に餘るほどの勞役に服したることもありき、ベスタロッチが公立學校に在りし時の生徒にして、唱歌を學ばんとて此の學校に來れるものは、男女合せて三四十人許りなりしが、ブスはこれらの學生をして、二人づゝ手を携へて城の廊下を上下しながら唱歌を誦はしめたり。是れ實に予等のいたく愉快に感じたる所なりき。然れども、予等をして殊に愉快に堪へざらしめたるものは、率直眞摯なる體操教師ネーフが、予等の群に加はりて共に遊びたる時にありき。渠は曾て世界の各處に於て軍務に服したる老軍人なりき。其の鬚髯は長く垂れて容貌粗野、一見親しむ可からざる人の如しと雖も、其の一舉動は凡て親切の表章ならざる

はなかりき。其の六十若しくは八十の兒童の長として、威風凜凜あたりを拂ふて進軍するの時に於ては、予等の中、一人として此の行に加はらざる者はあらざりき。

予の更に語らざるべからざるものは、此の校の初年に於ては、學課の上に毫も整然たる秩序の存せざりしこと即ち是れなり。此の時に於ける予等の生活は簡易にして、恰も家庭の如く然り。朝食後三十分間の休憩には、予等は常に運動場に遊びけるが、若し予等の遊戯に興を感じて、之れに熱中するに至る時は、ベスタロッチは十時頃に至るもなほ予等を運動場に放置して顧みざりき。或は又夏の晩には、エムメ河に沐浴して後再び課業を始むるを例としたりしも、時としては、予等は八時又は九時頃まで、礦物或は植物の採集のため、河畔に彷徨したることもありき。

以上の記録は極めて簡略なるものなりと雖も、當時如何なる組織をなし、如何なる状態に立ち、將に如何なる特長短所を存したるかの一斑に至りては、蓋し腦裡に描き難きにあらざるべし。されど更に當時の教師に就いて少しく記する所あらんに、語學と算術とに於てはクルीडーあり、地理と歴史に於てはトブラーあり、ブスは幾何・圖畫及び唱歌を以て勝り、ネーフは

體操及び其の他二三初等の學課を以て秀づ。若しそれ渾身の愛情を以てして、生徒又は自餘の教師に對し、父母ともなり師友ともなり、或は鼓舞し、或は慰諭し、以て全校の有力なる結合力となりし者に至りては、吾人は斷じてベスタロッチ其の人を推さざるを得ざるなり。其の不規律にして、恰も大なる家庭の如くなりしことは疑ふべきにあらずと雖も、これ寧ろベスタロッチの甘んじ且つ誇る所にあらざるなきを得んや。一日、學生某の父あり。ブルグドルフの學校に來り、之れを參觀して驚き叫んで曰く、「嗚呼、これ學校にあらずして、寧ろ家庭なり」とベスタロッチ之れを聞きて拍案應じて曰く、「足下が予に賜ふる讚辭、何ものか之れに過ぎん。予は今深く天帝に謝す。予は幸にして今則ち家庭と學校との間に横たはる所の溝壑を撤せざるべからざること、及び學校の教育に必要な所以は、たゞ其の家庭生活をして安寧幸福ならしむる所の感情及び諸徳を啓發するに與りて力あるがためなることを、天下に證明することを得たり」と。以て其の眞意の別に存する所あるを知るに足れり。

「學校の體操は則ち此くの如しと雖も、其の校風に至りては則ち如何。當時、其の財政頗る危機に逼りて、甚だ憂慮に堪へざる有様なりしかど、禍變じて福となり、却りて道德的感情の鼓

舞砥礪に力を與へたるは又奇と云ふべし。國家の危急に臨んで、之れを見棄つるが如きは志士の苟くもする所にあらず、身を教育の犠牲に供して、敢て悔ゆるを知らざるクルージー等は、其の學校の將に傾頹せんとするに臨んで、如何ぞ之れに忍びん。渠等は他に善良なる出世の途あるも毫も之れを顧みず、飽くまでベスタロッチと去就を共にせんことを欲し、其の俸給と云ふもたゞ名のみにて、極めて少額なるにも拘はらず、之れが一部分を割きて以て學校維持の資金に充てしは、其の意氣の程も亦想見すべきにあらずや。教師已に然り。生徒豈に然らざらんや。渠等は勤儉自ら持し、可憐らしくも學校の負擔をして可成的輕からしめんことに努めたり。斯の教師にして、斯の生徒あり。義勇奉公の實、此くの如くにして始めて擧げ得たりと謂ふべきなり矣。且つそれ此の校に於ては、固より規則なきなり。刑罰なきなり。然れども波靜に風穩に毫も紛亂騷擾の起らざりし所以のものは何ぞや。蓋し師弟間の愛情は、是れ取りも直さず自然の規則なり。自然の刑罰なり。ベスタロッチの學校にては、極めて規律なきが如くなりきと雖も、自然の規則、自然の刑罰に至りては、殆ど完全圓滿したりと謂ふべきなり。嗚呼、此の校に於ける師弟の交情程濃厚なりしもの、當時果して幾何かありしぞ。

校風の美を極むること此くの如く、發達の健全なること此くの如くなるにも係はらず、獨り其の急所の痛手として憂患に堪へざるものは、たゞ資金の缺乏即ち是れなり。こゝに於て乎、政府も一層の勇を鼓して之れに相當の金を給し、なほ必要なる木材をも之れに給して、出來べき限りの保護を與へたる事あるが上に、一方には又幾多有志者の寄附金もありて、佛國公使某の夫人の如きは、一人にて二十ポンドの金を渠に贈りたりき。大勢已に此くの如し、其の名聲の赫々として四隣に轟き渡れるもの、豈に偶然ならんや。曾て渠に反對せし新聞紙の如きも、俄然從來の言動を一變して、今や嘖々渠の事業を稱揚して措かざるに至れり。かゝりしかば、此の校に於ては、學生の増加は日一日より甚だしく、遂には居所の不足なるがために、其の入校を拒絶せざるを得ざるまでに至れり。其の盛況も亦以て想見すべし。千八百一年、九月二十二日を以て、モリアは執政官に報告すらく、

ブルグドルフ古城に於けるベスタロッチの學校は、古來未だ曾て有らざる所のものにして、其の有用缺く可からざるものなることは、今や世人の熟知する所となりたれば、俄かに學生の増加し來りしため、ベスタロッチは居室の缺乏の故を以て、遺憾ながらも止むなく之れを拒

絶したり。是れ眞に公共教育のために深く惜むべきの事共なり。而して其が從來住み來りし家屋に加ふるに、更に二棟の寄宿舎と六個の小なる教師用の室との増築を以てせざるべからざるは、實に目下の急務なり、と。

當時、政府の憂患も亦財政不如意の一點にありたりき。故に執政官會議にては、去る八月の五日を以て、本年度の計費は、一も諸官衙等の修繕のために使用せざるべきを議決したるにも係はらず、今やブルグドルフ學校のために、殆ど百二十ポンドの金を以て、其の進歩發達に資せんことを決定しき。執政者の盡力も亦多とするに足れり。

同年十月に至りて、ベスタロッチは、「ゲルトールドは如何に其の兒を教へしか」と題する一小冊子を公にしたりき。これ實に其の學説及び其の事業に關して完全明快なる解釋を公衆に與へたるものなれば、吾人は別に章を設けて之れが詳細の説明に従事せん。且つ當代幾多の名士をして、足ブルグドルフ古城の門を踏ましめ、以て親しくベスタロッチの意見を叩かしめたるものは、此の一小冊子の功與りて大に力ありしと云ふ。其の訪問者の中には、ウエセンペルグ及びチャールス・ピクトル・フォン・ボンステッテン兩氏の如きあり。而して後者がブルグドルフに到

着の晩、フレデリック・プラン氏に寄せし書簡は、頗る興味の深きのみならず、吾人が従來の所説を證明するに足るものあれば、今其の數節を摘抄せん。

予はベスタロッチが教授は凡て數・形・語の三要素に基づかさるべからずと云ふの何の理由たるや解する能はず。されど、予の目撃する所のものは、五歳より十二歳までの四十八人の小兒が、六ヶ月乃至十ヶ月の短日月を以て、能く習字・讀書・圖畫及び少し許の地理と佛語とを學習し、特に算術に不思議なる進歩をなしたること即ち是れなり。これらの小兒は萬事を細心に處理し、且つ其の健康甚だ佳良なり。予はベスタロッチの方法が善か悪か、將た道理より推考し得たる方法なりや否やを知らず。されど其が前々未發の方法を以て不思議の結果に到着しつゝありたること、及び其の方法の極めて有用なる工夫なることは、予の斷じて疑はざる所なり。

第二のベスタロッチの現はるゝ迄にはなほ幾多の星霜を累ねざるべからざるは、予の信じて疑はざる所なり、因りて思ふに、ベスタロッチの發見が果して完全なる結果を奏するは、到底之れを今世に見ることを得ざるべきか。是れ予の竊に恐るゝ所なり。曾て革命時代に於て、渠

が激烈なる政論を闘はしたるは、種々の困難を生ずるの源となれり。而して之れがために公衆の誤解を招きしこと果して幾何ぞ。されど、渠は四十年間の生涯を擧げて、之れを貧兒の教育に専にしたりき。請ふ、多年、人道のために竭せる渠をして、願はくば先駆けの功名を得しめんことを。

其の他、參觀者は踵を接してブルグドルフ古城に幅漙したるが中に、ニユーレンベルクの一豪商あり。此の人や、曾てベスタロッチの事業に對して極めて偏頗なる意見を有せしものと噂せられたる人なりしが、左の言を以てベスタロッチの學校を評したりき。

予はこれらの小兒が極めて複雑なる分數の計算を、さも易々と解釋したるを見しときは、覺えず舌を捲きて驚嘆せり。此の問題たるや、紙上に精密なる計算をなすに非ずんば、解すべくも覺えざりしなり、然るに渠等は暗算にて、數分間の中に正確なる答へを出し、且つ其の方式の如きも無雜作に説明し了りて平然たるさま、毫も困難なる問題を解したりとの感なきものの如し、と。

なほ幾多の評言あれども、之れを一々叙列せんとせば、到底其の煩に堪へざらんとす。要する

に、以上の諸評言の如き、時に或は溢美に失するの言なきにあらずとするも、兎に角、算術科の好成績を得たるに至りては、争ふべからざるものに似たり。蓋し是れクルージーの教授の下に成功したるものと謂ふべきなり。こゝに至りて、此の校の名聲、中外に轟き、遂に當時社會の一問題となるに至れり。

千八百一十年十月十八日の革命の後、政府の組織に大なる變更を來し、新政府も亦ベスタロッチのために相當の盡力をなさざるべからざることを感じ、先づブルグドルフ學校及び其の事業に就いて詳細なる調査を遂げんが爲めに、一委員會を設けて其の任に當らしめたりき。而して其の報告書は當時ベルンの教育會議の議長たりしイト氏の起草する所たり。氏は此の報告書に於て、ベスタロッチの主義方法は初等教育に關する完全無缺の方法とし、全然之れを贊成し、ベスタロッチの學校を師範學校に變じ、其の入費は凡て國庫の負擔となさざるべからざること、渠の初等教育に關する著書の出版は、豫約金の方法に由りて、之れを遂行せしめざるべからざること、及び此の校の教師には相當なる年金を支給せざるべからざること、更に委員會にては、ベスタロッチのため、時の政府に乞ふに、渠の郷里なるノイホフに孤兒院を新設せんが

ために、之れに相當なる助力を與へられんことを以てせり。蓋しベスタロッチは其の主義方法をして、既に世に顯はれしむることを得たれば、其の素志も半ば遂げたるに満足し、且つ既に適任なる教師をも得しかば、躬らクルージー等の手に託して、身は再び故園に歸耕し、此所に孤兒院を建設して寄り來る貧兒の師父となり、以て餘生を閑地に送らんことを切望して止まざりき。委員會のベスタロッチのために謀りたるは、蓋し其が志望を遂げしめんがためなり。

かくて、新政府は、委員會の勸告を容れ、ブルグドルフの教師には年金を給し、師範學校は直ちに建設せられて、毎月十二人の小學校教員は、此所に來りて課業を受くるの運びに至れり。加之、此の學校にて編輯せる書籍の出版費も亦將に國庫の支辨する所たらんとす。常に失意の中に埋れ居りしベスタロッチに取りては、蓋し此の時の如く得意なりしことは無かるべし。其が夙志は半ば成就し、其が事業も亦終あるに似たり。以て聊か高臥安眠の機を得んとするの際、誰れか圖らん、又もや新革命の突如として起り來り、政府は端なく轉覆の悲運に遭遇し、ために、渠の前途の希望も、既得の位置も、一朝にして南柯の一夢と化し去るに至らんとは。然れども、悲境此くの如きに沈み、失望此くの如きに會し、なほ且つ望の糸を將來に繋ぐが如き、堅

忍撓ますべからざるの精神に至りては、蓋しベスタロッチは人後に落つるものにあらざるなり。千八百二年暴動一揆各地に蜂起して其の勢ひ猖獗を極めたり。政府も今は施すに術なく、竟に佛國に訴へ、其の仲裁と兵力とに依りて此の難局に處する所あらんとす。こゝに於て政府は萬事を舉げて之れを佛國政府に一任し、而して、自らベルンに退きたりき。是れ實に九月十九日の事なりとす。佛國政府は手づから仲裁の勞を取り、先づ瑞西に於ける各黨派間の軋轢を拔除し、之れが平和と靜謐とを回復するの第一手段として、一議會を巴會に召集せり。

此くの如き國歩の艱難に際して、ベスタロッチたる者、豈に手を袖にして傍觀坐視するに忍びんや。渠は政治的一小冊子を公にし、以て調和の速に結ばざるべからざることを論じたりき。こゝに於て乎、渠はキルヒベルグの村落より選出せられて、遂に巴里に於ける會議に出席せざるを得ざることとなりぬ。會議の第一回は千八百二年十二月十日を以て開かれたるが、ベスタロッチの佛語を操ることの難澁なりしと、其の容貌の奇異なりしとは、滿場の人々をして其の説に傾聽せしめ得ざりき。加之、渠は獨り政治上の問題のみを以て満足せず、更に此の機を利用して、己が教育上の意見を佛國に輸入せんところを試みたれ。然れども、會議に出席せる者

の中、この種の問題に就いて共に語るに足るべき者は、たゞ、獨りレーテルと稱する者あるのみ。會議員既に謀るに足らず、乃ち試にナポレオン一世を説かんと欲し、其の門を叩きて大に論辯する所あらんとせしに、一世は冷然之れを斥けて云はく、予はいろはの問題よりもなほ他に攻究すべきものを有するなり、と。然れども、一世は自身之れを聞かざる代りに、上院議員モーニングなる者に命じて、其が所説を聞かしたり。ベスタロッチ之れと熟談する所ありしも、又満足なる効果を奏するを得ざりしかば、倉皇行李を整へて歸途に上りき。此くの如くにして、其が佛國行は政治上に於ても、教育上に於ても、共に充分なる勢力を伸ばすこと能はざりき。然れども、渠が教育上の意見は駁々乎として國外に進入したりき。請ふボムペーの物語りを擧げ之れを證せん。

曾てベルンに佛國大使たりしネー將軍は、屢ミブルグドルフの學校に參觀せし者、故に之れに關しては充分なる意見を抱有する人なるが、氏はナポレオン第一世に、此の學校に關して語る所ありたり。

ナポレオン第一世は、ベスタロッチが代議士として巴里に在りし時には、之れといろは問題



を語ることを嫌ひしには相違なきも、兎に角、ネー將軍の勸告を喜びて容れ、ベスタロッチの新方法を佛國に輸入せんとせり。ためにブルグドルフ學校の教師たりしネーフは巴里に送られたれば、渠はこゝに孤兒院を設立して、慈善學校の委員より渠に委託されたる幾何かの小兒の教授に着手せり。ナポレオンは自ら此の校の結果如何を察するに切なりしを以て、合衆國大使タレイランド氏及び其の他の名士を伴ひて孤兒院を訪ひ、種々なる學課の教授を見て、渠は頗る満足の色ありき。

其の後、ベルゲラックの副知事なるメインは、バーロードと稱するブルグドルフの教師を聘し、其の熱中する所の一學校の管理を以て、之れをバーロードに委任したりき。加之、渠は官吏として又哲學者として、大に器械的の教育に反對し、公會の開かるゝ毎に未だ曾て從來の舊主義を排して、ブルグドルフ風の新主義を唱導するの機を失せしことあらず。此くの如く、歐洲の各政府が争ふて、ブルグドルフの新制度を輸入し、之れを其の小學教育に採用しつゝある間に、一方には北米の一市民アックルレアもまた歐洲に於けるこの主義の學校の最上なるものと、肩を齊しうするに足るべき程のものを自國に建設したりき。

かくの如くにして、ブルグドルフ學校の名聲は遠近に傳播したりしと雖も、巴里に開ける會議の結果として、千八百三年二月十九日を以て、聯邦主義の政治は遂に再現せられたり。隨つて前の統一政府が企畫せしベスタロッチに對する保護條件の如きも、自から一抹の水泡に屬し、其が希望も亦空しく砂中の文字と化し了んぬ。然れどもブルグドルフの學校の名聲既に中外に喧しく、其の根底亦甚だ堅固なる時に及んで、之れを一舉に破壊し去らんは、事頗る至難に屬す。アーゴ、ルーサーン及びチュウリックの三政府は、ベスタロッチに對して相當の保護を與へ、特にチュウリックにては、其の教育書の出版費として四十ポンドを寄贈したれど、獨りベルンの新政府は、ブルグドルフの古城を收めて、之れを知事の住所に充てたりき。蓋しベルンの新政府の目より見れば、ベスタロッチは正しく政敵の一人なり。故に其の事業に對して些少の同情の念なきは固よりさることながら、流石にベスタロッチを住所なしに放棄するは其の忍ぶ能はざりし所にや、ブルグドルフに代ふるに、ベルンを距る三英里なるムンヘンブッフゼーに於ける一寺を以てせしかば、ベスタロッチは、千八百四年七月、其の學校をムンヘンブッフゼーに移轉したりき。

ベスタロッチの友人、フェルレンベルグは、ムンヘンブッフゼーの近隣なるホフキルに在り。此所に農業的・慈善的の學校を設立しけるが、渠が目的とする所は、一は貧民をば、聰明活潑且つ正直なる労働者たらしめ、一は富貴の人をば、熟練なる農業者たらしむるにありたれば、ベスタロッチとは其の目的に於て大同小異の意見を有したるものの如し。こゝに於て乎、フェルレンベルグは、ベスタロッチに謀りて曰く、予は財政上の事件を司どり、足下は教授上の責任を負ひ、かくして我等の學校を合同せんことは頗る可なるに似たり。足下以て如何となす、と。こゝに於て乎、ベスタロッチは、フェルレンベルグの相談に一致せしかど、暫くにして一旦合同したるものを分離するに至れり。蓋し此の兩人は固より其の目的に於て同一なりしかど、其の個人的性情に至りては、其の差、管に天淵のみにあらず。されば兩人が友義の永續せんこと遂に望む可きにあらざるなり。吾人は今兩人の是非曲直を論ずるを好まず、たゞ、當時此所に學生として親しく事情を見聞したるラムザーアの言を記して足れりとせんのみ。

予はムンヘンブッフゼーに於ては、甚だ不愉快なりき。予は従前の如く給仕にして又助教師たりしと雖も、誰れ一人として予が情を慰する者はあらざりき。ブルグドルフにては、事々

物々愛情と熱誠との流通せざるものとはなかりしも、此所にては更に此くの如きことなかりしため甚だ不愉快なりき。思ふにベスタロッチは、情を以て勝さるの人、フェルレンベルグは、智を以て勝さるの人なればなり。然れども此所に又二三の長所なきにあらず。即ちブルグドルフよりも秩序的なりしため、予等は却つて善く勉強することを得たりき。

千八百五年二月に至りて、ベスタロッチは、予に使を送りてイフェルダンに来るべきことを告げ越したり。予が此の際に於ける喜悅は如何に大なりしぞ。遂にイフェルダンに至り、再びベスタロッチが父の如き恩愛に浴し、親愛なる教師、クルージ、ブラスにも見ゆることを得たりき。越えて數月、ムンヘンブッフゼーの學校は、悉くイフェルダン城のベスタロッチが指揮下の學校に引き移されたり。

フェルレンベルグは、英邁卓識にして頗る農事に熟練なる人なりしが、其の事務に精通せると、萬事に抜目なきとに至りては、到底ベスタロッチの企て及ぶ所にあらざるなり。其の威嚴の峻乎として近づくべからざる所、寧ろ主治者の風ありと謂ふべきなり。蓋し敬ふべくして馴るべからず、従ひ易くして親しみ難きの人なるか。吾人はラムザーアの言の公正なるに服するも

のなり。

初めベスタロッチのイフェルダンに来るや、困苦窮乏殆ど名状すべからず、僅かにクルージーニーデレルと共に一室の中に潜み居たりと云ふ。

## 九 イフェルダン學校 上 其の盛運

ベスタロッチの一たびイフェルダン古城に一學校を設くるや、其の進歩の速かなる亦驚くに堪へたり。學生の集合せることの多きは、決してブルグドルフの時の比にあらず。而して、教師の員數も著しく増加しけるが、其の多くは曾てブルグドルフにて、ベスタロッチの膝下に養はれし者なり。然るに渠等は今や此所に助教師として初等學課の教授を擔當し、ベスタロッチ主義に依りて、多年鍛練せられたる智徳を發揮し、熱心忠實を以て之れを本校に施したりき。而して自餘の者に至りても、皆是れ教育上經驗あり、素養あり、十分用ふるに足るべき人のみなりき。

當時、教師としてイフェルダン學校に新に来れる者は、ジョン・ニーデレル、デ・ミュロール

ト、ミイグ、ファン・チュルク及びバロードの五氏なりとす。

以上五氏の中、ベスタロッチの理想をして、之れに哲學的形狀を成さしめ、イフェルダンに於けるベスタロッチの出版物は、一として其の校訂増補を経ざるはなく、遂に世人に新教授法の哲學者と呼ばれたる者は、哲學博士の學位を有して、ベスタロッチがブルグドルフ學校を開きし頃には、恰かもライントールに於けるセンウワルドの牧師たりしジョン・ニーデレル其人なり。渠がベスタロッチと事を共にするの機會を得たるは、實にイフェルダン學校創立の時なりと雖も渠がなほセンウワルドに牧師たりし頃、親友トブラーに寄せたる書に據るに、渠は此の時早くもベスタロッチを欽慕して措かず、且つ渠と事を共にせんと欲して止まざりしもの如し。

獨逸北部の一貴族にして、身はチルデンベルグの長たるにも拘はらず、一たびベスタロッチの事業を學ばんことを志すや、之れを捨つること弊屣の如く、而して其の才能の絶倫なる、其の目的の高尙なる、將た其の意志の剛強なる、當時恐らくは其の比を見ざりし者はファン・チュルク即ち其の人なりとす。渠は後にボツダムの内務參事官に擧げられ、三十年間の久しき、拮据經營、以てベスタロッチ主義の傳播弘布に努めたりき。

然れども、以上の諸氏は皆是れ新に外より來りし者のみ。曾てブルグドルフの大家庭に愛兒たりし者にして、今此所に教鞭を揮ふ者の中、其の最も有名なる者を、ラムザーア、ジョセフ・シユミッド、スタインルの三氏となす。

ラムザーアに就いては、吾人曾て記したることありき。シユミッドは元來チロルの一牧童にして、全く無教育の人なりしが、ブルグドルフに來りてよりは、其の才力の發達極めて著しく、特に算術に於て格外の進歩をなしたれば、イフェルダンに於ては算術の教授を擔當して、驚くべき良結果を奏したりき。蓋しブルグドルフの學校は渠が情の上よりも寧ろ智の上に大なる影響を與へたるもの如し。渠が眼は蒼隼の如く、渠が心は鐵石の如く、且つ其の性の伶俐なる、加ふるに人情に缺けて眼中曾て涙滴を堪へしことなきが如きは、渠に於ける特殊の點なりとす。然れども、漸次にベスタロッチの信用を得て、遂に他の教師をして去らしめ、ためにイフェルダン學校の没落の禍根をなしたる者も亦渠なりとす。スタインルも元來無教育の一兒なりしが、其のあらゆる智識は、凡て是れブルグドルフ學校の賜なりとす。然れども、渠は、ベスタロッチ門下の一人として、斯主義に於ける功績の顯著なるに至りては優に儕輩に抜くものあり。

イフェルダン學校の創初に當り、此所に教授の勞を取りし者は、實に以上の諸氏なりとす。而して、渠等が教育上如何なる効果を奏し得たる乎。將た如何なる光彩を以て、學校の歴史を飾りたる乎。是れ吾人の此の章下に敘せんと欲する所なり。請ふ、先づ内部の状態に就いて少しく敘する所あらん。

教授フルリーミンは、八歳にしてイフェルダン學校に入り、學修すること二年、後遂に歴史家として非凡の伎倆を顯し、人なり。其の幼時の回顧録は、家族と故舊のためにとて著したるものなるが、イフェルダン學校當年の光景に關しては興味ある節々の多ければ、左に之れを摘抄すべし。

予等は毎朝早く床を起ちて、交はる／＼冷水を頭より被りたりき。又決して帽子を載きしことなかりしが、予が父は寒風膚を劈くの嚴冬に予の無帽子なるに哀れを催ふし、予に一の帽子を與へ給ひしかば、予は此の時初めて帽子を戴きたるのみ。さるを、予が朋友は之れを見るに齊しく、俄かに帽子！ 帽子！ と噪ぎ立つるよと見る間に、予の身邊に寄せ來りて用捨もあらせず予が帽子を頭より奪ひ去り、空に飛ばしながら、手に手に送り傳へて、運動

場又は廊下のあたりを回り行きけるが、帽子は遂に飛び出でつゝ城壁の下を流るゝ河中へと落ちにき。かくて遂に湖水へ流されて再び見えずなりぬ。

予はベスタロッチが四十年間讀書せざりしことを自ら誇るを聞きけるが、曾てブルグドルフに學生たりし人々にして、當時予等の教師たりし者は、讀書せざるの一點に於てはベスタロッチよりも一層甚だしかりしなり。渠等の予等に教ふるや、常に記憶よりも理解を専としたりき。而して、其の目的とする所は、天より小兒に賦與せられたる良能を養成開發するにありき。ベスタロッチは絶えず左の語を繰り返へしたりき。曰く、小兒を啓發することを以て目的とせよ、汝が犬を教練するが如く、又現時の學校の多くが小兒を教練するが如くに教練する勿れ、と。

地理の初歩は、陸其の物より教へられたり。教師は嘗てイフェルダンより程遠からぬブロン河の流るゝ所の狭小なる溪間に予等を伴ひき。予等は先づ此の地の一般の觀察を了へし後、更に其の詳細を調査し、以て完全明確なる觀念を得たりき。予等の古城に歸るや、長き机の傍に座を占め、各自其の受持の部分の圖に示し、以て前に學びし土地の光景を再現した

りき。かくてなほ數日間は其の土地に行き、一日は一日より、一時は一時より、其の區域を擴張し、其の探索を密にしたりき、かくして模寫の充分に出來するにあらざるよりは、予等は曾て地圖を示さるゝことなかりき。斯かる方法に依りて、予等は地圖を了解するの位置に達するにあらざれば、決して之れを見ることを許されざりしなり。生徒より收めたる金は、ベスタロッチの室に置かれたれど、教師は些の報酬もなかりし故、上衣靴其の他必要のものあるときは、自由に其の室に入りて所用の金を得るを許されたり。かくして殆ど一年間は何の不便もなくして事済みたりき。此くの如きは古代基督教徒の社會主義を再演したるものと謂ふべし。右は其梗概に過ぎずと雖も、また以てイフェルダン學校當年の狀態を追想するに於て遺憾なきに庶幾らんか。

フルリーミンの此の學校を去りて未だ幾何ならざるに、其の聲譽は頗る一倍し來り、新方法は着々歩を進めて四方に波及し、其の主義の幾部分も亦將に國民教育の根柢たらんとす。蓋し是れエナの一戦に空しく敗亡の恥辱を招きし普魯西が、其の國辱を雪がんと欲し、臥薪嘗膽以て民力を養成し、國力を増進するの一手段として、熱心銳意ベスタロッチの教育法を採用した

るの結果ならんばあらず。嘗て聞く、普魯西王ウイリヤム三世は、エナの一戦自國の敗亡に歸したるを知るや、則ち叫んで曰く、朕は領地に於て、勢力に於て、將た光榮に於て、共に失ふ所あり。然れども、外に失ふ所のものは、之れを内に補ふ所なかるべからず。是れの故に朕が願ひとする所は、たゞ國民教育に心血を注ぐにあるのみ、と。王の善後に處する所以のもの、また以て見るべきにあらずや。然れども教育改革に熱心なる者、豈にウイリアム王のみならずや。此の國に於ける學者論客が其の必要を唱導し、其の問題を攻究するもの、年已に久しく、たゞ之れが實行を見るに至らざりしのみ。特に女王ルイザの如きは、力を此の事業に竭せること甚だ多し。吾人は女王の日記を讀むに及んで、其の如何にベスタロッチを稱揚し、感謝を表し、又之れに同情を寄することの深かりしを知るを得たり。其の後ツエラルのケーニヒスベルグに聘せられて、此處に新に學校を立つるに及んでや、女王ルイザは踊躍自ら禁ずること能はず、屢々此學校に行啓せられきと云ふ。

此の時に當りて、獨逸に一代の鴻儒あり、フィヒテと云ふ。氏は千八百七年より同八年に至る冬の間、伯林に於て、其の「獨逸國民に告ぐ」と云へる演題を演説しけるが、中に就き先づ教

育は國民を進歩せしむる唯一の手段なることを説き、次にベスタロッチ及び其の事業に論及し、遂に斷言して云はく、如何なる教育改革も、若しベスタロッチの主義に基づくにあらずんば、決して有效且つ健全なるものにあらず。と。フィヒテがベスタロッチに對する意向も亦以て知るべきなり。

千八百八年九月十一日普魯西大臣の一人なるアルテン・スタインは、書をベスタロッチに寄せたりき。普魯西が國力を回復するの一段として、如何に周到精密なる注意を教育事業に加へたるかは、書中左の言あるを見て知るべきなり。

我が普魯西に於ける普通教育を改良する方法は固より多からん。然れども、二人の青年を足下の許に送り、以て親しく足下の教育系統及び教授法を學ばしむるは、蓋し最も緊要なるものの一なるべし。渠等は實に新系統の一部分を研究するのみならず、又全體として之れを研究し、其の各般の關係を詳密に了解せんことを要す。なほ又、渠等は尊敬すべき其の發見者及び有爲なる其の補助者の指揮の下にありて、獨り智力の練習をなすのみならず、更に又其の將來從事せざるべからざる教育事業に對する神聖なる觀念と、之れに一身を犠牲に供し

て敢て悔いざる熱心とを以て、其の心胸を充たさしめざるべからず。且つ此の目的を達し、其の成功を確かならしめんがために、予はこれら二人の青年が、如何なる條件の下に最も善く足下の教授法を學習することを得べきか、渠等は如何なる品性を有し如何なる年齢の者ならざるべからざるか、將た如何なる豫備教育のある者ならざるべからざるかを、親しく足下より聞かんと欲するなり。かくせば予は足下が欲するまゝの青年二人を足下に送ることを得べければなり。と。

かくて、學生は管に二人のみにあらずして、十七人の多きが、ベスタロッチの下に送られき。渠等は此所に三年の間滞在して、所謂新教授法を學習しけるが、其の入費は委く普魯西政府の負擔せし所なりき。而して、これらの學生は概ね後に至りて名聲を顯はしたりしかば、普魯西政府の盡力は亦空しからずと謂ふべきなり。其の内、ヘニングの如き、ドライストの如き、將たカフネローの如き最も有名なる者なりとす。更に眼を他國に轉ずれば、噠馬王の如き、和蘭王の如き、何れも二名の學生をイフェルダンに派遣して、盛んに新教授法を學習せしめ、なほ獨逸の各地よりしては、夥多の學生蝟集し來りしなど、其の盛況實に驚くべく、一時はベスタロッチ

チの下にある留學生は四十人の多きに達したりと云ふ。

獨逸特に普魯西が熱心以てベスタロッチ主義を採用したるは、端なく天下の耳目を聳動して、他の各國をして眼をイフェルダン學校に注がしむるに至れり。こゝに於て乎、學生は各國より輻輳し來れり。參觀者の數も亦著しく増加し始めぬ。これら參觀者の中には熱心誠實に教育上の問題を討究するの目的を有する者のみにあらずして、單に見物に來れる者も亦甚だ多かりき。即ち湖水又は氷河を遊覽するの途次、併せて此の校を參觀したるなり。其の中には各國の將官・銀行員・皇族及び種々なる人物もありき。然れども、參觀人中、また高材逸足の士なきにしもあらざりき。従來はたゞ事實の集合のみに過ぎざりし地理學をして、科學的組織を取らしめたるに與りて大に力ありしチャールス・リッターの如きは、即ち其の一人なりとす。氏が千八百七年及び同九年の兩度イフェルダン學校を參觀し、之れに關して誌せる記事は、頗る觀るに足るものなるが、其の後、教授フルリーミンは該記事を世に公にせり。予は今之れより少しく抄録する所あらんとす。

再度イフェルダンに來りしが、學校の狀況は前年に比して著しき變化を呈したりき。即ち教

師等の活動區域の擴張したることは是れなり。されど、渠等はなほ依然としてベスタロッチに忠勤を勵み居たりき。而して、小兒の如く無邪氣なる老翁ベスタロッチは、相變らず、鏗鏘として勇氣昔日に劣らず、其が夫人の謙遜優美にして且つ親切なるは、以て淑女の鑑みとなすべきなり。

予の渠等と共にあるや、數時間もなほ分秒の如くに過ぐるを覺ゆるなり。晩に至れば、予等は此の大家庭の父母の間に坐を占め、質素なる晚餐を享け、愉々快々の間に飲食を了へたりき。今や此の事業は大に進歩して、ベスタロッチ一人にては諸事百般に心を配り切れざる程に至れり。學生の數は殆ど百五十人、小學校教員の此所において學習する者また四十人の多きに達せり。加之、既に女學校もあり、二個の私立學校もあるが上に、町にありては其の學生と共に生活し、此所において教授と修學とを兼ねたる教師の一群もありしなり。以て此の學校の狀況如何を知るに足る。

ベスタロッチは、自身の教授法を簡單なる初等の學科に適用することは、其の能くする所にあらず。かく詳細なる事件に關しては甚だ不適當なりしと雖も、主義を獲得するの敏捷なるは

實に驚くに堪へたり。且つ其の意見を吐露するに當りては、極めて明晰に、極めて有力にして、容易に他をして實際に施すを得しめたりき。渠は自身の事に關して予に語りて曰く、弊學校の現に足下の見らるゝが如くに成りたるは決して予の力にあらず。予にして若しニーデル、クルージー、シュミット等の師範なりと云はゞ、渠等は必ずや大笑せん。圖畫及び習字は兩ながら予の知る所にあらず、數學にまれ、文法にまれ、及び其の他の學科にまれ、予の知れるものは一もあらず。これらの事に關しては、予は學生中の最も無學なる者よりも劣れり。予はたゞ此の學校の創業者たるに過ぎざるなり。若し予が意見を實行するに至りては、固より他人の手を藉らざるを得ざるなり。予はベスタロッチの言甚だ其の當を得たるを信ず。

渠が言實に然り。然れども、渠なかりせば、現在此所に成立せるもの一として之あることなかるべし。渠は固よりこれらの大事業を運轉活用するの手腕ある者にあらず。然れども、若しそれ渠なからんか、其の永續は實に思ひもよらざる事なり。渠が金錢の價值あるを知らざる、計算に熟せざる、殆ど小兒にだも劣れり、たゞ其の有する所の凡てを舉げて、之れを其の目的の犠牲に供するに至りて、其の特色則ち顯はる。其の獨逸語にもあらず、佛語にも



あらざる言語は、誠に曉り難かりきと雖も、此の大なる學校の精神たりしものは即ち渠に外ならざるなり。渠が一言一句、特に其の宗教的告白に至りては、渠を父として敬愛する幾多學生の心魂に透徹すること深かりしなり、と。

チャールス・リッターが、ベスタロッチ及び其の候補者たるニーデレル、シュミット等に對して、如何に讃辭を捧げたるか、渠等を景慕するの餘り、渠が如何に其の事業の缺點を忘れ、これら人士の長短美醜を混同したるか。之れを詳にせんと欲せば、吾人はなほフルリーミンの雜録より抄録する所なかるべからず。然れども、此くの如きは、殆ど其の煩に堪へざらんとす。又當時佛都巴里に於て研究しつゝありしが、フィヒテの勧誘に接して、飄然ベスタロッチの門に來り、滯留日久しきが間に、其の人物と其の事業に就きて、細大洩さず精到緻密の研究を遂げしファンラウメルの如きはまた有名なる人士なりとす。氏がベスタロッチを賞揚して措かさりしは、敢てリッターと異なる所にあらず。然れども、氏は竿頭更に一步を進めて、其の事業の缺點を看破し、多少の改良を加ふべきを説けり。

今此の意を了ふるに先だち、ベスタロッチは學生を待つに如何なる道を以てせしか。將た其の

同志の輩が、如何に其の長者たるベスタロッチに服従したるかに關して一言する所あらんとす。是れ吾人の記するを欲する所のものにして、顧ふに讀者の亦聞くを願ふ所のものならざるべからず。

當時、イフェルダン學校にては、教師は一週三回其の學生の課業と行狀に就きてベスタロッチに報告するを常としたりき。渠は之れに依りて、學生に説諭忠告する所あらんため、五人若しくは六人を己が膝下に呼び寄せ、或は又一人宛己が室の一隅に招きて、聲を潜め徐ろに問ふに、其の果して渠に告ぐべきもの、乞ふべきものなきや否やを以てしたりき。蓋し、渠は此の手段に由りて、以て學生の喜憂する所以のものを明かにせんと欲したるなり。凡そ世の父母が其の愛兒のために心を竭すもまた何ぞ此の右に出でんや。

特に吾人の意想外に感ずる所のものは、若年教師等の生活の如何にも質素簡單なること即ち是れなり。渠等の中にて二三の長年者こそは校外に宿泊したれ、自餘の者に至りては、一人として自己の私室すら有する者あざりき。若し渠等にしてたゞ一身爲さざるべからざることに起るあれば、止むなく此の古城の四隅に聳ゆる圓塔の上層、寂然として人の住むべくもあざら

る所を選び、小室を設けて、以て之れを利用したりきとぞ。嗟呼、誰れかまた窮乏此くの如きに堪へ得る者ぞ。是れ實に渠等が教育事業に對する熱心誠實の然らしむるべしと雖も、抑々又ベスタロッツナが献身的精神のよく他を感孚奨励して然らしめたるものにあらざるなきを知らんや。之れを要するに、ベスタロッツナのイフェルダンに於ける初年の事業は、必ずしも缺點なきにあらず、然れども内には學生の多きを得て、外には名聲の高きを致す。此くの如きの良効果は、其の未だ曾て夢寐にだも見ざりし所なるべし。蓋し渠が畢生間の光榮ある歴史と謂はざるべからず。

### 一〇 イフェルダン學校 下 其の衰運

千八百七年の末、即ちイフェルダン學校が、外には王公碩學の賞讃に歸まされ、内には各國より雲集せる學生・教師及び觀者を受け、人をして其の前途の多望なるを羨慕せしめ、其の將來の慶福を謳歌せしめたるの時に當りて、獨り此の學校を以て、恰かも其の根株を害蟲に嚼まれたる植物なりとなし、其の盛運の久しからずして傾かんことを憂へて、怏々樂しまざる者あり。

是れ果して何人ぞや、校長ベスタロッツナは實に其の人なりき。

毎歲元旦に全校員を一堂に會し、前年の出來事を詳細に吟味せし後、其が將來に於ける滿腔の希望と憂慮とを併せて之れを會衆の面前に吐露し盡して餘蘊なきは、ベスタロッツナが年々の恆例なりとす。時しも千八百八年正月朔日、己が棺槨を其の身邊に引き、泣血死を決して以て全校に告げたりし演説は果して如何なりしぞ。句調必ずしも流暢なるにあらず、抑揚必ずしも巧妙なるにあらず。而かも其の思想、其の感情、其の憂懼、其の希望悉く是れ呈露し來りて躍如たるものあるに至りては、吾人は面たり渠が口より聞くが如きの思ひなくんばあらず。渠豈に辯を好む者ならんや。吾人は其の滿腔の感慨溢れて遂にこゝに至りしものなるを疑はざるなり。嗟呼、讀者も亦縋きてこゝに至れば覺えず容を改むるものなからんや。獨り予が譯文の拙なるを憾みとするのみ。而かもなほ讀者の反覆熟讀して玩味せられんことを冀はざるを得ず。

舊年は去れり。新年は來りぬ。予はなほ依然として諸君の間にあれども、絶えて喜ばしき感なきなり。顧ふに諸君は予に喜悅あるべしと推するならんも、予は決して然らず。予はたゞ予が死期の益々切迫し來るを覺ゆるのみ。予が頭上聲あり、叫んで云ふものの如し。汝は

須らく「汝の職務に關して報告すべし。汝は速に死せざるべからざればなり」と。

噫、予は果して完全なる報告を神に上ることを得べき乎。予は果して、神に對し人に對し將た自身に對して耻づることなき信實なる忠僕たるを得たる乎。……過ぎにし年は、幸福ならざりき。予が心を定めて足を着けし所に氷は破れたり。予が生涯の事業は、意外の邊に缺點を現はしぬ。我等を一致せしめし結合力は、最も強きものと思ひしに、何ぞ圖らん、其の却つて最も弱かりしものならんとは。予は救済を求めんとして却つて全敗を取りたりき。平和を求めんとして却つて憤怒を購ひ、愛情を得んと欲して却つて冷淡を買ひ、而して予の明け暮れ望みし信用は、今や全く消えて跡だに見えずなりぬ。……  
……噫、棺槨此所にあり、希望はたゞ、墳墓の望みを残すのみ。予が精神は址き裂かれぬ。予は既に昨日の予にあらず。愛情・信用及び希望の三者は、今や予を見限りて何處にか失せ去りぬ。予將た何の甲斐ありてか世にながらへんや。怪む、予を馬足より救ひ給ひし神の眞意果して何處にかあるを。(千八百七十二年十二月、ベスタロッテはクルージーと共に闇夜に散歩しつゝありしとき、馬の蹴仆す所となりしが、幸に怪我もなくクルージーの助くる所となりた

り)……  
……貧困・薄志・下劣・卑賤、加ふるに無智無能なる、誠に言ひ甲斐なき身を以て、予は予が事業に従事したり。世人は予を目して狂者となせしも、神の御手は慥かに予と共にありしなり。予が事業は知らるゝ通り繁昌したりき。事業を愛し、併せて予をも愛せらるゝ諸君は、幸に予を助けられたり。予は實に何事をなせしかを知らず、又何事を要せしかを知らず。而かも予が事業は繁昌せり。實に予が事業は無中に有を生じたる世界の創造の如く然り。是れ豈に神の事業にあらずして何ぞや。諸友よ請ふ其の神の事業なることを會得せられよ。神の事業は再び我等を一致せしむべし。而かも惡漢同志の一致の如くならで、天使同志の一致の如くならしむべし。諸君は予が馬足より救はれたるを怪み給ふか。何ぞ予が事業の今日まで保護せられたるを怪み給はざる。予が今なほ生存するは實に不可思議なり。而かも予が事業のブルグドルフ、ムンヘンブッフゼー及びイフェルダンの諸險を越え來りて、今なほ夷然たることかくの如くなるは、亦更に大なる不可思議にあらずや。

今や新なる危難は予が事業を却かせり。然れども、若し神の加護を蒙らば、之れを超越せんこと必しも難きに非ず。然れども、予はよく果して之れを超越することを得るか。……予

は甚だ疑懼の急に堪へざるなり。予は自ら幸福を享くるの分なきを知る。而して、幸福も亦今や將さに予を見捨て去らんとす。されど予が事業に至りては必ず永續するなるべし。純金は火中に投ずるも、純粹にこそなれ、決して消滅せざるなり。神の事業豈に滅没するものならんや。……予が事業は愛情を基礎として建設せられたり。然るに愛情の紫雲は今や予等が間に翳かずなりぬ。愛情は決して留まらざるべし、何となれば愛情が予等に要求する所の需要を予等は先見せざればなり。予が事業は亦忍耐を要せしも予は之れを有せざるなり。予が光榮なりし時に於てすら予はなほ不耐なりしなり。況んや今日に於てをや。噫、神よ。予は如何なれば、かくまでに成り果てたる乎。如何なれば、かくまで下劣の境に陥りたる乎。予をして、予が過失を爾及び此所にある諸友の面前にて白状せしめよ。予が不明は予が信仰を壓倒し去りぬ。爾は不思議力を以て予が事業を建設し、又不思議力を以て之れを維持し給へり。然るに予は爾の保護を受けつゝありしことを悟らざりき。其の後予が事業の頗る大なる氣力を要することを知るや、則ち他の人をして、予の自ら怠りし所のものを償はしめんと試みたり。予は淺慮にも予の跪きて神に祈願すべきものを敢て主張し、且つ予の過失と薄弱

とのために、予等の間よりして、既に消え失せたる勢力に依りて、予が學校の生命を維持せんと企てたり。こゝに於て乎、相互の誤解は忽ちにして起り、結合の力は忽ちにして破れ、而して愛情の如きも亦空しく散失して捉ふべくもあらず。而かもこれらの諸徳は予の常に欲したる所のものならざるはなし。

噫、予が位置はかくの如し。而して棺槨此所にあり。是れ予が唯一の慰籍なり。病毒は今や方に予が事業の中心を侵しつゝあり。而して今日予等の得つゝある大方の賞讃は、益々此の病毒の蔓延を煽動するなるべし。……實にや予が事業は永續するならん。而かも予が失策の結果は遂に蔽ふべからず。是れ予の斷腸の思ひに堪へざる所なり。予が隠家はたゞ墳墓の一あるのみ。予は死すとも諸君は残らん。予は諸君の予が言語を骨髓に鏤銘せられんことを切望して止まざるなり。

諸友よ、請ふ、諸君は予よりも立ち勝りてあれ。神は諸君の手を藉りて予が事業を大成し給ふべし。諸君よ、諸君は予の覆轍を踏むこと勿れ。予が愚蒙を學ぶこと勿れ。決して外見の成功に欺かるゝこと勿れ。是れ予の切に乞ひ且つ祈る所なり。神は重且つ大なる犠牲を諸

君に求めたり。以て予が事業を完成することを得ん。

現在を楽しめ、世人が吾人の頭上に堆くせる現在の名譽を楽しめ。而かも亦それは野末の花の如く、一時は榮花を競ふも、忽ちに散りて果敢なくなるものなることを必ず記憶せられよ。……………

忽ちにして失望、忽ちにして希望、又忽ちにして血、忽ちにして涙、訴ふるが如く、痛むが如く、悔ゆるが如く、慰むるが如く、滿腔の熱血を傾瀉し來りて滔々演じ去るの所、眞に應接に遑あらざるなり。嗚呼、吾人は果して如何なる言辭を以て、之れを形容することを得べき乎。將た何れの時に、悲愴慷慨かくの如きの演説を聞くことを得べき乎。多幸を祝する新年の勞頭に於ける演説は、固より當にかくの如くなるべき乎。堂々たる一學校の長にして、其の補助者に告ぐるの演説は、固より當にかくの如くなるべき乎。誰か其の然らざるを知らざる者やある。それ然り、而して、其の言のかくの如く悲愴に、かく謙遜に、かくの如く猛烈に、而して又かく大膽なる所以のものは何ぞ。抑々また原因の止む能はざるものあればなり。蓋しベスタロッチの新年に於ける演説は全く此の理由に基づけばなり。

吾人は此の原因を分ちて二種となすことを得べし。

(一)渠は散漫ながらも痛く一事を感じたるもの如し。即ち其の事業をして學校に實現せしめんとするは、決して能はざる所なるを覺知せしこと是れなり。此の事たる、其が晩年の著書、「予が經驗」の中に左の言あるを以ても知ることを得べし。曰く、予はブルグドルフにありて既に愚昧の所爲を企て、失敗したり、と。抑々渠が教育上の計畫たるや、兒童をして極めて幼時より自然の順序によりて教育せんとするに在ることは人の知る所なり。又渠が小兒をして最初の練習に依りて得たる能力を以て爾後の困難をば自身にて乗り越えしめんと企てしことも、亦人の知る所なり。こゝに於て乎、吾人は生國を異にし、年齢を同じうせざる幾多の小兒を以て成りたる渠が學校にては、斯かる進路に依らしめんことの到底能くし難きものなるを知れり。例せば、此の校に來れる學生の中には、小兒と共に初級にあらんは、餘りに年老いたり、さりとて高級に入らんには、全く豫備教育を缺き、殆ど如何ともする能はざる者ありしは、屢々起りし所の事實なりき。斯かる事情ありしたため、其の教授上の計畫に幾分かの斟酌を加ふるの必要を生じ、知らず識らず苟且姑息の弊に陥り、ために學生の教育上にも、其の教授法の上にも

共に不幸なる結果を生ぜしことは眞に事實なりとす。是れ渠が沮喪落膽の一原因なり。

(二)ベスタロッチは、道徳及び訓練をば、家族的生活の關係に基づけたり。渠は小兒の父を以て自ら處したりき。然るに、渠が初年の經驗に於て、能く活潑且つ健全に陶冶したる家庭的の美風は、イフェルダン學校にては、其の學生の多數なると、其の風俗・習慣・言語・教育等の區々なるよりして、到底維持すべくも見えざりしなり。イフェルダン學校は毫も家庭の實相を有せずして、寧ろ社會の如き有様となれり。勢ひかくの如くなりしかば、其の失敗より免れんこと頗る難事に屬す。さればベスタロッチは此の點に關して大に恢復に力を盡したれども毫も益を收めざりき。即ち生徒を各補助者の間に分配し、なるべく自身に成り代りて萬事を處理し、其の進歩と要求とに關しては、時々報告を呈せしめしかど、是れ徒に騷擾を増すのみにして些少の効果もあらざりき。或は生徒を交はるゝ己が書齋に招きて懇談し、又渠等と會するや、善く注意勧告を與へなどしたれども、將に廢れんとせし美風は、到底挽回すること能はざりしなり。此の際に當りて、生徒はなほベスタロッチを稱して父と呼びたるは事實なりしも、渠の渠等を知ること豈に慈父の愛兒を知れる如くなるを得んや。かくして、愛情の訓練は漸次に衰ふるに

至れり。而かも多少の軍事的規律の代りて之れが處を充たすものあるにあらずや。茲に於て乎、イフェルダン學校の家庭的な生活は一轉して不規律なる一種の公共生活の如きものとなれり。因りて思ふ、渠が特に愛情と一致との存在せざるを慨し、且つ其の學校の零落の主要原因は、全くこゝに在ることを嘆ぜし所以のもの、蓋し亦止むを得ざるなり。然れども、又他の一原因とも云ふべきは、ニーデレルとシュミッドとの不和なりしこと是れなり。ベスタロッチが其の演説に於て、天をも恨みず人をも咎めず、たゞ自ら責めたる一點に至りては、其の忠恕の徳に富める、吾人は實に驚歎に堪へざるなり。蓋し彼の兩人は、ベスタロッチに取りては、共に有力必要な補助者にして、其の事業を爲すに於て一をも缺くを得ざりき。ニーデレルは哲學的・議論的の方面に長じ、シュミッドは實行的・規律的の方面に勝る。一は學者を當面に引受けて、其の主義を外に弘むるに努めんとし、他は内治の責任を双肩に負ひて、其の主義の實行、財政の整理を是れ期せんとす。前者は右に導かんとすれば、後者は左に誘はんとす。されば兩者の間に衝突の起れるは抑も亦自然の數なりと云はんか。渠等は互に相尊敬することを知らず、其の誠衷を推し、其の腹心を披き、協同一致の舉に出づることを爲さず、漸次相反目し來りて、遂に兩虎

相搏ち、骨肉相争ふ醜體を演じ來り、併せてイフェルダン學校衰頹の運を激致せるに至りては、眞に惜しむべきの事なりとす。然らば則ちベスタロッチが愛情と結合力とは我等の間に消滅したりと、聲を限りに叫びし所以のもの、抑々亦故なくんばあらず。渠が千八百八年の始めに當りて、早く既に發見せし弊害は實にかくの如くなりき。

ベスタロッチが新年に於ける演説は、太く他の教師輩の心胸を騒がしたりと雖も、而かも渠等は斯かる弊害の眞に存在せしことを悟らざりしを以て、たゞベスタロッチの妄想となし、渠に説くに學校の前途の益々隆盛なるべきを以てし、因りて以て其が精神を快活にし、其が志氣を鼓舞する所あらんとせしに、ベスタロッチも、特に本年に於ける來觀者の稱讃と云ひ、各地に公にせられたる報告書と云ひ、渾て是れ盛運の瑞兆ならざるなきを知りしかば、一時は教師輩の慰藉のため稍々心を動かさるゝことなきにあらざりしも、また忽ちに落膽に沈みたりき。こゝに於て乎、渠等は、更に別手段を以て、其が憂懼を消滅せしめんと欲し、之れに勸むるに、國會に向ひて公然イフェルダン學校の視察あらんことを請求すべきを以てせり。然るにシュミッドはなほ時機早きの故を以て、之れに不同意を表せしも、ベスタロッチは遂に之れに同意したりき。

噫、是れ果して幸か不幸か。

渠が請求書は、千八百九年七月、フライブルグに於ける國會に達せり。國會は問もなく、委員會を任命して委員を組織したりき。千八百九年十月、委員はイフェルダン古城に到着し、此所に五日を費して、教師學生と問答し、及び諸般の事物を細心調査する所ありき。

ベスタロッチは、委員會の報告の自家に取りて利益あるものにあらざるべきを信ぜしと雖も、獨りニーデレル及び其の一派の輩に於ては、決して斯くとは信ぜざりき。然るに報告書の現はるゝに及んで、果してベスタロッチの推量の如くなりしかば、ニーデレルの輩は呆然として顔色なく、深く委員の誤解する所となりたるを悔いたりき。こゝに於て乎、書を委員會に送り、之れに告ぐるに、渠等の視察を新にして、更に之れを完全ならしむべきことを以てするの議を決せり。かくて、ニーデレルと委員會長メリヤン及び報告書の起草者たるギラードとの間に極めて長文なる書簡の往復始まれり。ニーデレルは委員がイフェルダン學校の精神を領解せず、たゞ變化すべき外觀のみを觀て、其の見るべからざる本領特質に及ばざりしことを主張したるに、委員は之れに答ふるに、其の受けたる訓令は事實を觀察するにありて、理想を視察するにあら

ざるを以てせり。

ギラードの報告書は、千八百十年九月、佛文に譯して世に公にせられ、同年十月に至りてバーナード・ヒューバーは之れを獨逸語に翻譯せり。此の報告書たる、ベスタロッチに對しては、誠に此の上なき尊敬の辭を以てし、中正の評言を試みたりと雖も、獨り其の教授上の缺點に至りては、非難詰責、寸歩も假す所あらざりき。特に教授上の責をば、凡て之れをニーデレルに歸して、大に渠を非難せり。然れども、ギラードの報告書たる、公明正大にして一點の誤謬なしとすべきものにはあらず、寧ろ誤謬の大なるものありと云はざるを得ず。吾人は之れに就いて多言するの迫あらずと雖も、ベスタロッチの傳記に精通せる者は、斷じて吾人の言を疑はざるを信するなり。

イフェルダン學校に取りて、甚だ不利益なる、而かも誤謬を免れざる此の報告書は、千八百十一年に開きたる國會に提出せられぬ。國會は單にベスタロッチに謝する旨を決議したるのみにして、他に一事の施行せしものあらざりき。

これより先き、獨逸及び瑞西の種々なる新聞雜誌は、ベスタロッチの事業に激烈なる攻撃を加

へけるが、ギラードの報告書の現はるゝや、渠等が陣中にては、以て得難き新武器なりとし、雀躍歡呼して之れを迎へたりき。爾來、渠等がベスタロッチに對抗するや、銳鋒更に一段の鋭を加へ、益々活潑に、愈々激烈に、又一層の不正を極めたりき。特に教授ヘルレルの如きは、ゲッチング新聞紙上に、イフェルダン學校を目して、革命黨の巢窟なりとなし、プレミーと名乗れる一奇人は、チュウリッパ通俗新聞紙上に三十六質疑と題して、大に攻撃の矢を放てり。噫、是れ爾來引續きて猛烈を極めたる筆戰の端緒にぞありける。

イフェルダン學校の方にありて、絶えず馬を陣頭に立て、敵の攻撃の要衝に當りし者は、實にニーデレル其人なりき。爾來紙上の戰爭は此の學校の大事業となり、刻苦勉勵たゞ其の名聲を恢復せんことにのみ熱中して、内部の改良の如きはまた關心するの暇あらざりき。然れども、若しそれ内部の改良を求めなば、其の必要を告ぐるもの何ぞ限らん。蓋しベスタロッチの教授法たる、當時の學校に於けるものとは、一も同一なる點を有せず。是れ其の視察者の一驚を喫したる所以なり。故に之れが攻撃を避けんと欲せば、世の學校の教授法と相調和せしめざるべからず。従つて、其の教授法を變更せざるべからざるなり。事若しこゝに出づるあらんか、學校の運



命は、願ふに當に晏如として泰山の安きを得たるなるべし。而かも是れ豈にベスタロッヂ等の遂に能く忍ぶ所ならんや。獨りシュミッドに至りては則ち然らず、渠は學校の精神よりも、其の事業の成否に重きを置く者なれば、稍々改革の意見に傾きたり。されど衆寡固より敵せず。豈に亦其の行はるゝを必ずべけんや。果せる哉、渠は教師の常習會に於て、改革の議を提出せしも、忽ちに拒絶せられたり。こゝに於て乎、渠は遂に其の同志の士二三と共に、飄然袖を連ねて學校を退きたりき。是れ豈に筆戰の外患に加ふるに同士打の内訌を以てしたるものにあらずして何ぞや。

千八百十年に於けるイフェルダン學校の狀況は、實に以上の如くなりき。然るに、學生及び參觀者は從來の如くなほ依然としてこゝに來れり。而して新教師も更に來りて教授に従事しけるが、中には有名なる人も數人ほどありたりき。之れと同時に學課の區域も少しく擴張せられ、從來捨てゝ顧みざりし化學の如き、羅旬語の如き、又希臘語の如きも教授せらるゝに至れり。吾人はまたイフェルダン學校創立以來、教師の變動に就いて記する所なかるべからず。ベスタロッヂは以前の教師の中最も善良なる者を多く失ひたり。即ち之れを始めにしては、トブラーの

如き、プッスの如き、クヌーサートの如きあり。之れを後にしてはミラルトの如き、ミーグの如き、ホフマンの如きあり。而して是れ皆主義傳播のために四方に使ひしたる者のみなれば、敢て惜むに足らずと雖も、獨りシュミッドに至りては、其の同僚と相和せずして去りたる者、かくの如きは眞に此の校に取りての恨事と云はざるべからず。其の他尋常の助教師二三輩も亦此所を去れり。されど代りて來れる者は、概ね以前の教師よりも更に斯道に熟練なる人々なりき。其の最も有名なる者を、ラムザリア、ゲルデー、ウアイレンマン、パウムガートネル、ロイエンチンデルの五氏なりとす。中に就いて極めて感すべき經歷を有する者は、ラムザリアとウアイレンマンとす。

ラムザリアに就いては、吾人既に記する所ありき。ウアイレンマンはチュウリック縣エグリツに住居せしが、軀幹長大、筋骨逞しく、而かも隻腕を失ひたる人なりき。渠はイフェルダンにありては、生徒の最も多數なりし初歩の教授を擔任しけるが、寫しものに従事し、或は寫本を整理し、又或は小兒のためにペンを作り、又は之れを繕ひなどするに、凡て隻腕もて之れをなしたりき。渠は小兒が遊戯又は散歩などする時のみならず、如何なる時にても、如何なる場合

にても、渠の在る所小兒あらざるなく、小兒のある所渠の在らざるなく、たゞ寄宿舎にありては屢々夜半まで跪坐して諸般の注意をなし、また朝は第一に起床すること兒童と異なりしのみ。かゝりしかば、一人として渠を愛せざる者なかりき。而して渠は年少なる者或はなほ母の手を煩はす程の者には、常に注意を怠らず世話しけるが、此の點に於ては渠はクルージーと相似たるものあり。

其の他シュミッドの去れる後、イフェルダン學校に來れる教師甚だ多し。吾人は此所に其の詳細を叙するの迫なきを恨みとするなり。

千八百十一年の夏、佛國巴里の名士ジュリアン學校に來觀せり。此の人は視學官にして、多くの學會に名を連ねし人なるが、渠がイフェルダンに到着するや、其の炯眼なる早くも新教育法の必要なるを認識し、暫く此所に滯留して、刻苦忍耐、以て所謂新教授法の研究に従事したりき。渠は後年「イフェルダン學校の略記」及び「ベスタロッチ教授法の研究」と題する著書を世に公にしたるが、其の己が子を以て之れをベスタロッチに委托したると、及び一個人としての勢力と其の著書の勢力とは、遂に佛國の學生教師をしてイフェルダンに到らしむるの原因とはなりぬ。こゝ

に於て乎、從來全く獨逸人のみなりし學校も、今や大に佛國人を以て混ぜらるゝに至れり。ジュリアンが此の校に及ぼせる効果も亦鮮少に非ざるべし、知らず、此の事實は、如何なる變化を學校に與へしか、吾人、請ふ後に至りて叙する所あらむ。

千八百十一年は、ベスタロッチに取りては、幸福なりし年の如し。渠が同十二年正月一日の演説は、如何に喜悅と感謝とを以て溢れたるか、吾人は左に其の緊要なる部分を示さん。

客歳は、我等に取りては、實に祝すべきの年なりき。予が生涯の目的は此の年に於て進歩せり。困難の時代は既に過ぎて、而かも困難の鼓舞せし氣力は、明かに予等の間に存在せり。危難は既に去りて其が激勵せし勇氣は獨り旺盛を極め、爲さんと欲する所、爲さざるべからざる所、今や一として予等を遮るものあらざるなり。待ち設けたる進路は、我等が眼前に開けて、平和は我等が進路を管理し、大障碍は消滅し、而して我等が目標に到達するに必要な氣力と手段とは漸次に成就するものに似たり。……神は我等が事業をして我等が掌中に在らしめたり。渠は之れに福ひし、之れを強からしめたり。然れども、我等は如何に幸福を感じたればとて、熱心・信實及び感情を以て働きたることを深く自覺するにあ

らざれば、其の幸福の感なるもの、未だ以て純粹完全なるものとなすべからざるなり。

嗚呼、如何なる喜悅を以て、神の我等をして貴重なる使命に忠實ならしめ給ひしことを謝すべきか、將た之れに對して如何なる感謝を表すべきか、又且つ神が我等の目的遂行上に於ける諸君の勇氣と熱心とを増加せしめ給ひしことを如何に謝すべきか。

斯かる吉兆の下に始まりたる千八百二十二年は、圖らずも又直ちにベスタロッチをして一大厄難に罹らしめたりき。一日、渠は例の如くに、餘念もなく休みもせずクルージー夫人の室を上下に歩みつゝありし時、耳垢を清めんとして、縫針を取りて之れを耳に挿入したる折しもあれ、不意に高所にありし陶製の暖爐に突きあたりしものから、針は深く耳底に透入し、幸に鼓膜を外れたる骨部に及びたりき。かくて臥床に就きしも、其の経過甚だ不良なりしを以て、久しく病辱中に煩悶し、なほ且つ些少の騷擾も太く耳に感じて堪ふべからざるに至れり。かくて四箇月間は苦痛の中に空しく光陰を送りけるが、時には自ら死期の通りしを思ひて、窈かに喜ぶかと思へば、又時には叫んで、予はなほ暫ばし死するを好まざるなり、予はなほ少しく爲さざるべからざるものありと云へり。或は又熱に犯されて苦痛に堪へざる間も、なほ病を努めて、其

の教授法をば、之れを門下生に口授して止まざりきと云ふ。其の孜々屹々死に至るもなほ且つ止まざるの氣概を見つけるにつけ、志士仁人の死に處するは、固より當さにかくの如くなるべきを想はしむるなり。

然れども是れたゞベスタロッチ一人に關する災厄のみ、若しそれ顧みて此の校に於ける状態に及ば、則ち如何。憂ふべきもの何ぞ獨りベスタロッチの怪我のみならんや。別に當時に於ける財政上の危急ありしのみならず、なほ且つ之れに加ふるに、千八百十年以來は、學生の數愈々減じて教授の數のみ獨り空しく増加するを以てせり。而して教授法研究のため、なほも四方より青年の來るあれば、渠は以て將來に於ける自己の主義の傳播者なるべしと信じ、皆之れを信用して入合せしめ、敢て玉石を擇ぶことを爲さざりき。故に時としては市井無頼の青年にして、口を教授法研究に藉り、來りて學校に投じ、數月の後、負債を残して逃亡せる者すらありき。而してベスタロッチは、之れを辨償するを以て恰かも自己の義務の如くに感じ居たりと云ふ。之れに加ふるに筆戰の始まりし以來、イフェルダン古城にある出版部は非常の繁忙を極むると共に、之れが入費も亦甚だ大なるものありしなり。事情既にかくの如くなりしかば、財政上の危急は

未だ最後の破綻を見るに至らざりしと雖も、而かも其の端縮は既に己に此の時に胚胎したるや疑ひなし。

然るに千八百十三年、那破翁第一世の敗を魯西亞の野に取るや、獨逸は以て機失ふべからずとなし、一戦にして外國の羈絆を脱せんことを欲して盛んに戰鬪の準備をなせり。此の時に當りてイフェルダン學校の生徒及び教師にして、獨逸より來れる者は、概ね書冊を放擲して以て銃劍に代へ、驟然立ちて國難に赴きたり。然るにベスタロッチは、渠等を制止することを爲さずして、却つて之れを鼓舞激勵したりと云ふ。蓋し渠是那破翁の他國を壓制するを惡むよりも、寧ろ其の歐洲に及ぼせる勢力が、渠の事業に一大妨害を與ふるものと考へたればなり。

既にして那破翁に對する同盟軍は、イフェルダンに病院を建設するの要を認めて、之れを其の市に通示するや、市は其の負擔に堪へずとして、之れを辭退するに決し、乃ち委員を本營に派遣せり。ベスタロッチの事業も病院を設くるに定まらば非常の妨害を蒙るべきを以て乃ち委員に同伴せり。其の結果、委員の目的は十分に達し得て病院は他に設けらるゝこととなり、而してベスタロッチの各國の帝王より非常に厚遇せられしは、イフェルダン市民の大に驚きたる所なり。

り。則ち魯西亞皇帝は渠に贈るに、第三等聖ウラヂミール十字章を以てし、渠の學校に寄するに、フウラル山の鑛物標本を以てせり。又塙國皇帝はトウケー葡萄酒の一箱を與へたり。容貌の醜惡なる、風習の奇異なる、將た辭令に嫻はず、應接に巧ならざる、天下豈にベスタロッチの如きものあらんや。而かも各國帝王より、かくの如き厚遇を蒙りし所以のものは、蓋し其が美行懿徳の力、人をしてよく其が凡ての醜惡を忘れしむるものありて存すればなり。

平和恢復の結果として、學生・教師・參觀者は、又もや各邦よりしてイフェルダンに沓至し、再び外見の盛大を致せり。然れども、誰か圖らん。是れ實に財政上にも整理上にも、共に紛亂を惹起するの一大原因とならんとは。この時に於て、ベスタロッチが熱中しつゝありしは、來觀者歡迎の一事のみにして、財政上、整理上の事の如きは、其が顧みる所にあらざりき。ラムザーアが次の記事は、よく此の時に於けるベスタロッチの面目を描けるものと云ふを得べし。

千八百十四年、老親王エスターハアジイ此所に來れり。ベスタロッチは、「ラムザーア！ラムザーア！何處に居る、汝の優等なる學生をレッド・ハウスに連れ來れよ（老親王の滯留し給ひし旅館）客は中々勢力ある人にして、餘程富裕なり。匈牙利或は塙太利には數千の農僕

を有せり。渠もし我等の制度を了解せば、直ちに學校を建て農夫を自由にせんなどと大聲に叫びながら、城の中を駆け回りて予を探求せり。

予は、こゝに於て十五人の選拔生を引き連れて、レツド・ハウスに到りしに、渠は予を親王に紹介して云ふやう「此の人はこれなる學生の教師なるが、今より十五年前、他の貧兒と共にアツペンツェルより私の許へ來たれるものなり、爾來毫も檢束を加へず、自由に其の能力を發達せしめたるに、早くも今は教師となれり。貧民の子弟も、もし其の才智を秩序的に發達せしめたらんには、富者の子弟と同様ならしめんこと決して難事にあらざるは、此の人の例に徴するも明かならん。されば、普通學校を改良するは、眞に緊要のことなり。なほ渠は某よりも一層善く萬事を説明すべし」と云ひ一揖して其の場を立ち去れり。

こゝに於て乎、予は十分老親王を説得せんと欲し、或は説明し、或は質問し、顔色熱を帯びて痛く疲勞するまで説きたり。凡そ一時間の後、ベスタロッツチ再び來りけるに、親王は十分説明に満足したる旨を述べられたり。予等は此所にて此の場を辭し、二階の下へ行く途中、ベスタロッツチは予に云へり「渠は全く會得したり、十分に會得したり。必ず匈牙利に二三の學校

を立つるならん」と。

かくの如く、渠が財政上の事に無頓着なりし間に、學校の衰運は、日に益々近づくんとす。佛國學生の獨國學生と同じく、此の校に増加したるの結果は、教師をして、兩國の語を使用して、學生を觀察せざるを得ざらしめ、又學生をして、講義に使用せらるゝ語を知らざるの故を以て、其の最も適したる級に入る能はざるの不便を感じしめたり。且つ從來軍事的規律の下に教養せられたる佛國の學生は、其のイフェルダンに來るや、校規の寛大なるに乗じて、屢々放恣を逞しうし、或は教師を敵視して屢々之れを苦しめたるが如き、或は從來自愛の念にのみ勵まされて勉強するを習ひとしたりし渠等のこととて、此の校に賞罰の嚴重ならざるを見るや、則ち之れを利として學業に荒み初めたりしが如き、其の他佛國人の天性として、浮華文弱に流れたるが如き、從來の質素なる生活に甘んずるを以て、一の羞耻となしたりしが如き、汚俗弊風を此の學校に移したること決して少なしとせず。然れども、是れたゞ學生の一邊に於ける不規律・不整頓のみ。知らず、教師の一邊に於ては果して如何なる狀なりしぞ。此の時、有名なるボンフェースは、ジューリアンの周旋にてイフェルダン學校の佛語教師となれり。渠は質朴親切、加ふ

るに佛國文學に精通したる人にして、其の業を執るや頗る熱心に、大に學生の愛する所となりたりき。然れども、是れ寧ろ曉天の殘星のみ。他の教師は概ね縱情放逸、規律を破り、業務に荒さむ者のみなりしなり。されば、一ポニフェースありと雖も、焉ぞ能く施すに處あらむや。久しく健全なる發達を遂げ來れる學校も、今は師と弟子とを擧げてかくの如きの状態に沈淪せり。是れ豈に財政上の危急に、かてゝ加へての一大厄難にあらずして何ぞや。

噫、かくの如きの事情は、今やイフェルダン學校を襲ひて孤軍重圍の中に陥らしめたりき。家貧うして良妻を思ひ、時艱にして良相を思ふ。誰か能く宰家の職に任じ、綱紀を張り、賞罰を嚴にし、以て頹瀾を既に倒るゝに廻らす者ぞ。校長ベスタロッチ既に其の器にあらず。ニーデレルは如何。渠は哲學者にして事務家にあらず。ラムザーアは如何。渠は比較的に事務の才ある者なりと雖も、其の身を生徒との關係及び教育上の事件にのみ委ねて、校紀振刷・財政整理の如きは、其の顧みる所にあらずき。町、是れ實に惜むべきの事なりとす。見來り見去れば、一人として其の任に堪へ得る者はあらず。此の時に當りて、誰か亦鐵石の手腕を有して、果斷決行の勇あるシュミッド其人を懷はざる者あらんや。抑々此の學校が、渠を俟つもの、未だ曾て此の時より切

なるはあらずき。こゝに於て乎、再び渠を呼び戻して此の任に當らしめんとの議を先づ提出したりし者は、前に渠が反對者たりしニーデレル其人なりき。さてシュミッドは、當時、其が指揮の下に繁昌せしブレゲンツの公立學校に長たりしが、今イフェルダンよりの懇請に接して、自己の地位を棄つること弊屣も管ならず。以て再びイフェルダンに赴きたりき。これ實に千八百十五年、耶蘇更生祭の日にぞありける。ベスタロッチは、シュミッドを視るに、父の爲めに其の身を犠牲に供したる愛兒を以てし、寛待厚遇、到らざる所なかりき。シュミッドも亦直ちに必要なる改革に着手し、夜以て日に繼ぎ、孜々又屹々、渠の第一の手段として無能の教師を免黜したるが如き、他の教師の年金を減削したるが如き、其の他經費を省約し、秩序を恢復し、日課に規律を立て、生徒に賞罰を課したるが如き、眞に是れ快刀亂麻を斷つるの慨ありと謂ふべし。

千八百十五年十二月初旬、ベスタロッチ夫人病に臥し、遂に十二日を以て永眠せり。夫人は夙に貞淑の聞え高く、艱苦失敗の内に在りて、常に良人を或は慰め或は勵まし、數十年間宛も一日の如くなりき。さればベスタロッチの落膽悲哀は察するに餘りあり。渠は此の年嚴酷なる補助者シュミッドを得たれども、今や永く溫良誠實なる内助者を失へり。其の不幸頗る大りと謂ふべ

し。況んやシュミッドは眞に渠の補助者たらずして渠の事業の破壊者たりしに於てをや。

敗れるば則ち懲り、勝てば則ち驕る。人情豈に固よりかくの如き乎。シュミッド今は此の校に在りて最上の推力を占め、言として聽かれざるなく、事として用ひられざるなく、威望赫々、優に儕輩を凌ぐに至りしかば、忽ちに慢心を生じ、力行に次ぐに壓制を以てし、壓制に次ぐに専横を以てせり。且つベスタロッチの名義を以て、命令を亂發したるが如き、昂然特立、濶歩縦横、恰かも自ら校長を以て處るの風ありき。嗚乎、渠果して始めよりかくの如くなりし乎。渠が千八百五年、初めて學校に來りし時に當りては、粗野朴訥、容儀に顧念せず、衣服に注意せず、決して後のシュミッドの如くならざりしなり。一日、ミューラルト渠が教授を見んと欲して、其の教場に入りたるに、机上、汚穢にして殆ど用ふべからざる一帽子あるを見たり。乃ち取りて以て之れを城の壁下に流るゝ河へと投げ捨てたりき。這はこれ實にシュミッドの有なりしも、渠は毫も怒れる色を顯はざざりきと云ふ。之れを後のシュミッドに比するに、其の差異豈に管に天淵のみならんや。

シュミッドの跋扈跳梁すること、かくの如きの度に至れるも、ベスタロッチは飽くまで渠を信任

し、視て以て無二の補助者となし、萬事を犠牲にするも、渠には代へじとの決心を示し、かば、多年、利害を外にして、純一無雜の精神を以て、ベスタロッチと留まり、其の主義を傳ふるがために、四方に使用するの時の外は、如何なることありとも斷じて渠に離叛せじと決心せし信實なる補助者も、こゝに至りて勢ひ堪へ得ざりしにや、去る者陸續として踵を接せり。之れを始めにしてはラムザーアあり、之れを半ばにしては十六人の獨逸教師の總辭職あり、悲風慘澹實に目も當てられざる光景を現出したリ。獨りニーデレルに至りては、身自らシュミッドを推薦せし者、事甚だ平ならざるものありしとするも、焉ぞそく其の趨舍去就を輕忽にするに忍びんや。渠はなほ未だベスタロッチを去らざりき。

然るに、財政上の危急は日に愈々甚だしく、今にして挽回の策を立てずんば、遂に收拾すべからざるに至らんとす。こゝに於て乎、シュミッドはベスタロッチに勸むるに其の著作を公にし、以て財源を作らんことを以てし、忽にして其の同意を得たりき。然れども、ベスタロッチは、之れを以て一は財政の急を救ひ、一は以て其が多年の宿望なる貧民の學校設立の資本を作らんことを欲せしかど、シュミッドは則ち然らず。渠はベスタロッチの志望には毫も同情を表する者には

あらずして、たゞ學校の基礎を鞏固にし、ベスタロッチの死後に至るも、なほ之れを安全ならしめんとの野心を抱きたり。而かも、兩者相一致するに至りたる所以のものは、蓋し貨財の必要を感ずるの一點に於て、共に目的を同じくしたればなり。かくて、千八百十七年三月を以て、ベスタロッチは、其が著作の豫約募集の趣意書を公にしたりき。然るに、ニーデレルとクルージとは、其の趣意書の發布せらるゝに先だち、之れに異議を挾んで曰く、此の趣意書は、ベスタロッチの署名を以てせざるこそ善けれ。何となれば、是れベスタロッチの自ら草したるにあらずして、シュミッドの手になれるものなれば、或は高尚なるベスタロッチの名譽を汚漬するの恐れあるべければなり、と。議容れられず。こゝに於て乎、二人は袖を連ねて、遂に其の職を辭したりき。然れども、獨りクルージの辭職に至りては、なほ他に一の原因なくんばあらず。蓋し渠は其の以前に結婚せしを以て、イフェルダン學校の年金の些少なる、以て其が家族の生計を維持するに足らざればなり。學校の衰運も、こゝに至りて極まれりと謂ふべし矣。

イフェルダン學校の創立ありしよりこゝに至るまで、正に十有三年、其の行路の多難なる、時に或は一望萬頃の波瀾あり。時に或は韶光踰蕩たる惠風あり。一高一低、一起一伏、以てこゝに至る。其の運命の變化も亦極まれりと謂ふべし。今や其の名獨り存して、其の實殆ど空し。されど其の名實共に泯滅するに至るまでには、なほ十星霜を餘すありと雖も、此の間氣息奄々僅かに一縷の命脈を保持するのみ。而して其の遂に没落に至るの順序は如何。吾人請ふ之れを略敘せん。

これより先き、千八百十六年、獨逸教師十六人辭職し、次いで善良の教師踵を接して去るや、其の後任に擧げられたる者は、不適任なる者のみなりき。獨りランゲのみは教育あり風采あり、親切にして溫良に、加ふるに意志鐵石の如く、能くベスタロッチを補佐せり。然るに千八百十七年、ニーデレルとクルージの去るに及んで、渠も亦久しからずして其の掣に倣ひたりき。是れ實にイフェルダン學校のために深く惜しむべきの事なりとす。

千八百十七年七月五日、イフェルダン市廳は、ベスタロッチに許すに、其の死後五年の間は其の定むる繼續者に、従前の如く古城の無賃使用を許すべきを以てせり。越えて數日、渠は又城外附近の地四五エーカーをば、耕作のために貸與せられんことを乞ひ、且つ古城の如く其の死後に恩惠の及ばんことを請ひけるに、これ亦監督廳の許す所となれり。



渠既にニーデレルに棄てられ、クルージーに棄てられ、次いでまたランゲに去らる。豈に雙翼を奪はれたる飛禽の感なきを得んや。この時に當りて、渠は前件の許容をイフェルダン市廳より得るの幸運に際せり。以て聊か其の失望を慰むるに足るべきか。然るに、渠をして、落膽沮喪、殆ど狂氣の如くならしめたるものは、實にニーデレルの渠に送れる手紙なりとす。ニーデレルは、激烈寧ろ深刻なる言辭を以て、ベスタロッチに告げて曰く、足下がシュミッドと共にある間は、假令如何なる事の起るあるとも、予等一輩の者は一人として足下の急に赴く者あらざるべし。と。蓋しベスタロッチはクルージー、ニーデレルの辭職を以て、渠等の全く棄つる所となりたりとは信ぜざりしを以てなり。性來、多血多感なる渠は、こゝに至りて、豈によく自ら堪へんや。憂愁懊惱、殆ど狂氣の如く然り。こゝに於て乎、シュミッド其の精神に異狀を呈せんことを恐れ、之れに勸めてジューラ山に轉地療養をなさしめたりき。居ること數週間にして病漸く癒え、氣力も回復し、心意も靜平に歸せしかば、再びイフェルダンに歸りき。

ベスタロッチの友人、フェルレンベルグ、ジューリアン、チャールス、リッター等は、此の機に乗じて憐れむ可き老翁と及び其の學校とを、如何にもして、シュミッドの手より救はんものを

と計畫せり。其の結果、千八百十七年十月十七日、フェルレンベルグとベスタロッチとは、商議すること久しき後、遂に十八條より成れる協定に一致するに至れり。其の要旨はイフェルダン學校は全くベスタロッチの指揮に屬し、別に即ち貧民學校を設立し、フェルレンベルグとベスタロッチと相携へて改革に従事し、復シュミッドの手を要せざるに至らば、渠は貧民學校に來りて、ベスタロッチの下に働くべく、且つ此の兩校の安全を保せんがために、之れを同志の士、ツェルウェゲル、ド・ルーゲモント等數輩より成る所の委員會の保護の下に置き、以てシュミッドをしてベスタロッチの名を以て專横を極むるを得ざらしむるの精神なりき。善い哉此の畫策や。然れども、ベスタロッチは曾てシュミッドに約するに、萬事渠と相談の上ならでは如何なることをも斷行せざるべきを以てしたれば、一たび此の條約に一致せしと雖も、容易に之れに捺印するに至らざりき。果せる哉、シュミッドは其の己れに不利なるものあるを知りしかば、口を他の理由に藉りて以て之れを拒絶せしが故に、親友の盡力も空しく畫餅に屬し、可憐の老翁も亦自ら死地に陥らざるを得ざるに至れり。フェルレンベルグ等意甚だ切なるものありしとするも、また何ぞ手を下すに處あらむや、爾來、渠等がベスタロッチを放任して毫も顧みざりし所以のもの、固より其の

所なりとす。

然れども、ベスタロッチが多年人道のために粉骨碎身せし積威の餘烈は、なほ天地の間に赫灼たるものあり。其の著書の豫約に應ずる者意外に多く、即ち魯西亞皇帝の如き、普魯亞王の如き、將たバ、リヤ王の如き、皆巨額の金員を寄贈し、以て大に其の事業を助けんとしたるが如き、亦以て歐洲各國が渠に表せし同情の如何に盛んなりしかを見るべきなり。かくて、印刷費等を差引き、二千ポンドの金額は此の一舉にして造り出されぬ。失意に落膽する者は、成功に鼓舞せらる。今ベスタロッチは、斯かる成功に遭遇して豈に雀躍せざらんや。久しく衰へし勇氣もこゝに至りて復大に昂がれり。乃ちノイホフにある其の愛孫ゴットリーブに書を送り、頻りに前途の有望を説きて嬉々たりしが如きは、寧ろ小兒の樂しく彼方を眺めて、脚下に陥穽あることを知らざるもの如しと雖も、渠が胸中の歡喜以て察すべきにあらずや。

千八百十八年正月十二日、其が七十二回の誕生日に於て、渠は有益なる演説を試みたり。渠は初めに教育上の意見を最も明確に又最も熱心に述べ、次に其が將來の希望・計畫に及び、最後に其の諸友に關する感情を吐露したりき。要するに、其の生涯の演説中、かくの如くに趣味あり、

かくの如くに緊要なるものは、未だ曾てあらざる所なり。吾人は今其の教育上に關する部分のみを左に示さんとす。

予はなほ死に瀕する老父の如きか、渠は死期の近づきたるを知るが故に、俄かに家政の整理に忙はしく、且つ其が傍らに其の子女を招き寄せ、容儀を正しくし、嚴然として之れに告ぐるに、其が家政の現状、及び其が生涯の希望と計畫とを以てし、又渠等に對して、其が宿望の實行に盡力すべきこと、及び其が負托の意を空しうせざらんことを切望するなるべし。今諸子に對して一言せんとする予が位置も亦殆ど之れに類するものあり。

諸友よ、予は今日確乎として抜く可からざるの自信を以て斷言せざるべからざるものあり。抑々貧民の教育、及び其の状態に關しては、我々の社會は久しく五里霧中に彷徨せしものと云はざるべからず。而して貧民の改良を以て自ら處るの人も、人巧的・不自然的方法を以て其の目的を達せんと欲し、却つて益々反對の結果に到着したるものなりと云はざるべからず。此の迷誤たるや深く人類の精神・感情及び習慣の中に浸潤して、眞及び愛の勢力の之れに對して毫も力なきこと、恰かも太陽の光線の濃霧に於けるが如きものあり。予豈に予が所説の社會

多數の誤解する所となるを知らざらんや。然れども、其の誤解せらるゝ所以は、即ち社會多數の迷誤が、因襲の久しく、遂に第二の天性となりたるを證する所以にあらずや。斯かる頑固なる誤解は、貧民救助を以て自ら任ずる人の意見と方法とを誤らしむるものなりと同時に、又被救助者たる貧民の意見・感情及び志望も誤らしむるものと云ふべし。

然れども、予は現在を見ざるなり。現在の社會は予に取りては何の用もなきなり。予はたゞ空想の奴隸たり。虚偽不自然の毫も存せざる世界に於ける、人間の教育は如何にあるべき乎、貧民の教育は如何にあるべき乎の思想は、即ち予が空想なり。而して、予は今此の空想に沈むが故に、又大に自ら鼓舞激勵する所あり。予の所見を以てすれば、精神の高尙なる教育は、なほ水邊に植ゑられたる木の如きものか。請ふ、其の根を見よ、其の幹を見よ、其の枝を見よ、而して又其の果實を見よ。渠等は果して何處より來る乎。諸君よ、請ふ一個の核を取りて、試に之れを地に置け。其の核の中には、其の精神あることを知らずや、其の特質あることを知らずや。將た又其の生活あることを知らずや。抑、此の核の父にして又創造者なるものは、實に是れ神にして沃土そのものも亦神の創造する所なり。而して種子をして成長せしむる

も、また神の所爲なりとす。

種子は木の精神なり。而して其の形體を造るものも亦種子自身なり。請ふ、其が母たる土地を離るゝ時を見よ、此の時既に其が第一の根を發出するにあらずや。蓋し其の内部の特質の發達するに隨ひ、其の外部の包圍は消滅せざるべからざればなり。其が内部の有機的生活は、今や一進歩して根となりぬ。而して樹心や、木質や、樹皮や、果實や、一として根より來らざるものはあらず。木は枝に於ても、幹に於ても、又梢に於ても、常に其の樹心、木質及び樹皮を同じうす。而して、かく枝・幹・梢と區別せられ、樹心・木質・樹皮と區別せらるゝと雖も、然れども、亦互に相連續關係するものなるが故に、渠等は互に保護し互に維持し、又互に繁榮し、以て同一なる有機的生活を營み、以て天然と木の特質と相應せる發達を遂ぐることを得るなり。

人の生長發達するも亦然り。小兒の未だ生れざるの時に當りて、其の生活が發達せしむべき傾向・特質の萌芽は、早く既に其の内に具有せらるゝなり。渠が行動及び生活の種々なる能力は、恰かも木に於けるが如く、其が全生涯を通じて、互に結合せられ、又互に區別せられ

つゝ發達するものなりとす。

而して、恰かも木の特殊の諸部分が、其の物質的機關の見るべからざる精神に鼓舞せられて相共同するが如く、換言すれば、渠等が能力の最後の産物、即ち果實を形成せんがために、確實にして先天的なる調和の中にて同中異なる生活を營むが如く、人類に於ても亦然るものとす。人類機關の見るべからざる精神に依りて、其の智識・感情・意志の諸能力が、信仰及び愛情の神聖なる調和の中に、同中異なる生活を營み、因りて以て肉體より區別せられたる、かの精神的人格を形成するものなりとす。

人をして發動せしむるものは精神なり。肉體の如きは取るに足らず。人類の精神は或る特殊の能力の中にあるものにあらず。吾人の所謂氣力なるものの中にもなければ、固より手にもなく、腦にもあらず、否、其の眞實にして有效なる氣力即ち人類諸勢力の集合する所は、其の信仰と愛情との中にあるなり。……斯かる心情の勢力、即ち信仰と愛情とが不滅の人に於けるは、なほ根の木に於けるが如きものなり。……然れども、繁榮せる木をのみ見ること勿れ。又宜しく其の堅硬なる岩石、燃燒せる乾地、或は又

停滯せる沼池に置く所の木をも見よ。而して後、其の根の乾枯凋殘せるを見ると同時に、其の木の全體の如何に之れがため萎靡振はざるの状態にあるかを見よ。而して更に自ら吟味せよ、諸君に生活を與ふる所の有機的勢力が、果して衰頹しつゝあらざるや否や、又果して諸君を萎靡不振の危険に陥れつゝあらざるや否やを。

更に上來の意見を敷衍し、且つ人類の機關は其の自由と良心とを所有する點に於て、動物の機關と異なる所あることを説き、而して、渠は小兒の最良なる勢力を鼓舞且つ指揮するは、是れ實に教育の任務にして、なほ園丁が樹木成長を助長支配するが如くなることを説明し、更に語を加へて曰く、

吾人が道徳上・智識上及び肉體上の諸能力の發達は、皆各々其の物自身の上に依るべきものにして、決して之れを外部の人巧的影響に依頼すべきものにあらざるなり。例せば、信仰より進まざるべからず。決して何物かよく信ぜらるべき、又何物かよく信すべからざるものぞとの智識より進むべきにあらざるなり。思想は思想より進まざるべからず。決して何物か考へらるべきか、或は思想の法則は如何との智識より進むべきものにあらざるなり。愛情は愛

情より進まざるべからず。而して愛情とは何ぞや、又は如何せば愛情を受くべきかとの智識より進むべきものにあらざるなり。技術と雖も亦然り。實際上の技藝と熟練とより進まざるべからず。之れに關する無限の議論の如きは、決して奏功の秘訣にあらず。而して、これら諸能力の發達のために、自然の方法に還らんと欲せば、教育の操作を以て、これら諸能力を支配する所の種々なる法則の智識の下に服従せしめざるべからず。

初等教育とは、教育術の中にて最も眞實にして又最も簡單なる形狀に基づくもの、即ち家庭教育に還るの外なきものなり。是れ實に最上の技術にして、其の方法たるや、智識及び熟練の如き特殊なる才能にあらざるなり。斯かる才能はなほ灌水器の如きもののみ。その園丁が之れを枯渴せる土地に水を注ぐや、忽ち又乾燥して再び注がざるを得ざるなり。初等教育の方法なるもの豈に此くの如くなるべけんや。亭ろ混々として盡きざる源泉の如く、從晝至夜地をして毫も枯渴することなからしむるものなり。否、否、眞の初等教育の結果は決して一時のものにあらざるなり。蓋し凡ての智識及び熟練の因りて基づくの所の人性の諸能力をして活動せしむるものは、また實に初等教育に外ならざるなり。

諸友及び兄弟よ、予が我が家の整理に忙はしき此の神聖なる臨終の際に於て、予が敢て諸君に望む所のものは、諸君が予の生涯の弱點を以て予を判断せず、たゞ、予が言を記せられんこと即ち是れなり。諸君は、予が如何なる感想を抱きて、諸君の此の學校に會したるかを領せらるゝなるべし。請ふ基督の如き愛を以て互に相愛せよ、愛は久しきに堪へ得るものなり。又甚だ親切なるものなり。愛あるものは人をも妬まず、己をも誇らず、倨傲もあらず、又祕密に事をなすが如きことあらざるなり。己がためにすることなく、怒ることなく、悪言を吐かず、不正を憎み、正義を喜び、萬事を負擔し、萬事を信仰し、萬事を希望し、而して又萬事を忍耐する、是れ皆愛の力なりとす。諸友及び兄弟よ、汝を憎む者には善を爲せ、汝を害する者には幸ひせよ。

諸君にして、若し祭壇に物を捧げんと欲する乎、請ふ先づ諸君が兄弟と和平し來り、而して後、之れを爲せよ。諸君の間より無情を滅却せよ、諸君に害をなす者と雖も、無情に之れを遇すること勿れ。請ふ、吾等基督教徒の面前には無情の影すら現はるゝこと勿らしめよ。誰か基督は不義者と悪人とを愛し給はざりきと云ふ者ぞ。渠は神聖な愛を以て渠等を愛し給へ

り。渠の死し給ひしは果して誰がためぞや。またたゞ渠等のためにあらずや。渠は正人よりも罪人のために心勞し給ひしなり。罪人をして後悔せしめんがために、渠は幾多の心勞を取り給ひしぞ。渠は初めに罪人の忠實謙遜ならざるを見給へり。然れども、己の忠實と謙遜とを以て、渠等を改心せしめ給へり。渠は最も卑賤なる地位にありながら、其の神聖なる盡力を以て、罪人の傲慢に打ち勝ち給ひぬ。而して、又渠が溢れんばかりの愛と信とを以て渠等に鼓吹し給へり。ア、諸友及び兄弟よ、予等にして基督の行爲に倣ひ、渠が吾人を愛し給ふ如く、我等も亦相互に愛したらんには、予等をして互に相分離せしむるが如き不和の障礙は決して起らざるべし、又假令ひ起ることありとするも、之れを乗り越ゆること決して難きにあらざるなり。果して然らんには、吾等の幸福は永久不滅なるを得べきなり。

此の歳を以てベスタロッチは、イフェルダンの外方なる一小村クレンデーに一貧民學校を設立せり。當初に於ては、其の生徒男女を合せて僅かに十二人にして、概ね是れ孤兒にあらざれば則ち兩親に棄てられたるものならざるはなし。ベスタロッチ時に年正に七十有二、而かも其の渠等に對する熱心・活潑・愛情の如きに至りては、其の熾盛なる、毫も壯時に讓る所なく、特にノ

イホフ、スタンツ、ブルグドルフに於て渠が最初に得たる如き驚くべき成功を、此所に收むるに至りては、殆ど怪むべきの事なりとす。かくの如きは固より教授法其のもの如何に依るべしと雖も、抑も亦ベスタロッチが其の本領特質とも云ふべき熱心誠實の大勢力の然らしむる所ならずんばあらず。

數月にして十二人の小兒は、其の數を増して三十人とはなりぬ。而して、其の生徒の進歩も亦大に見るべきものありしかば、其の聲譽は頓に遠近に喧しく、之れを參觀せんとて各邦より來る者頗る多く、中にも英國人は特に熱心にして、大にベスタロッチを煽動鼓舞する所ありしを以て、渠は自身の教育制度が早晩英國に傳播すべきを信じたりき。加ふるに英國人は渠に乞ふに、其の教授法を英國に傳へんがため、富家の子弟にして自費自辨の生徒兩三名の入學を許されんことを以てしたるに、渠は欣喜の餘り輕卒にも之れを許容したりしかば、學校の性質はこゝに於て乎一變し、教授は一層高尚に、又科學的となり、加ふるに英語も研究せらるゝに至れり。即ち内部の裝置に幾分かの變動を來し、ために其が本來の質素簡便を失ふに至りぬ。

然るに此の變化に乗じて之れを廢せんことを企てたる者は、前に貧民學校創立の舉に反對せ

しシュミッドなり。渠はベスタロッツに忠告するに、貧民學校を變じて師範學校となし、且つ之れをイフェルダン學校に移されんことを以てしたりき。而して、之れをイフェルダン古城に合併せんとの見解は、ベスタロッツの夙に懷抱する所なり。果せる哉、千八百十九年六月に至りて、クレンデーの學校は遂にイフェルダン古城の學校と合併せられたりき。同年同月二十三日に至りて、イフェルダン市廳は、學校の修繕に關してベスタロッツと協議する所ありしかば、市廳は二校の合同を後悔すること、及び一般の見解も男女を一校の下に教育するの不可なるを認めしに在ることを渠に告げたりき。

かくてベスタロッツは男女貧富の差別なく、皆之れをイフェルダン古城に合併し、且つ幼稚なる初級の生徒と師範學校とを此所に集合したりき。かく混合的學校を設立するに就きては、シュミッドは經濟上の便宜よりして之れに賛成したるに過ぎざるも、ベスタロッツは則ち然らず。渠は斯かる混合的學校を以て其が事業の成功上必要缺く可からざるものなることを信ぜり。故に渠は之れに關する意見を大方に示さんとて一冊子を公にし、或は社會上よりし、或は道徳上よりし、凡ての方面に對して精到周密なる觀察を遂げ、以て斯かる學校の眞に必要なことを説け

り。然るに良家の父兄は、之れがために毫も動かさるゝことなく、飽くまで男女混合の學校を以て不可なりとなし、漸次、其の子女を退校せしめしかば、ベスタロッツは、再び財政上の困難に遭遇したりき。

災厄は獨りこれのみならず。千八百二十一年には、ベスタロッツ、否、寧ろシュミッドとイフェルダン市廳との間に爭論を生ぜり。其の原因たるや、ベスタロッツが市廳に書を送り、政府が學校修繕の義務を怠りたるがために、大に其の衰頹を促しつゝありとて、太く之れを詰責し、同時に修繕費として、二百ポンドの金額の支給を乞ひ、若し此の請ひにして容れられずんば、法廷にまでも訴へ出づべしとの嚴談を申し込みたるに基づき、爾來相互の間に往復交渉ありしこと幾回なるを知らず、而かも議遂に諧はずして、結局法廷に相ひ見ゆるに至りしが、同年十一月十五日に至り、ベスタロッツの自ら之れを取戻したるに依りて事漸く止みぬ。蓋し是れ倨傲鮮腆のシュミッドが、濫りにベスタロッツの名義を使用して事を起したるに依るものとす。實に渠は内政上の詳細の事件は、凡てシュミッドの手に一任して顧みざりとしと雖も、人民の改良及び其の主義を初等教育に適用すること等に關しては、専心從事することを得たりしなり。

噫、イフェルダン學校の末路は、何ぞ其れ争論の多きや、かの曾てベスタロッチと分離せしニードレル等との争論は、早くも千八百十八年頃、即ちニードレルの學校を辭してより間もなく起りたりき。是れ亦甲論乙駁、互に奮戦したりしかば、イフェルダン市廳は其の醜陋を見るに忍びず、且つ其の兩者の有害にして無益の事なるを認め、遂に兩者の間に投じて仲裁の勞を試みたりき。こゝに於て乎、激烈なる争論も僅かに其の局を收むるに至りぬ。是れ實に千八百二十三年十二月二十三日の事なりとす。以上の争論の顛末を記して詳細を傳へんと欲せば、恐らくはなほ數多の紙面を要すべし。されば吾人は之れを割愛して、直ちにイフェルダン學校の没落の狀を略叙すべし。

シュミッドの専横驕恣は、遂に公衆の怨恨を以て報はれたり。イフェルダンの人民は、ベスタロッチをして無益の事業を企てしめ、且つ著書の豫約金をば、概ね之れを訴訟入費に使用せしめたること、皆是れシュミッドの所業なるを論難し、シュミッドは獨りベスタロッチ及び其の一學校に對するのみならず、なほイフェルダン市に對しても其の責を引かさるべからずと論詰したりき。且つシュミッドは或る不道德的の行爲をなさしめたりとの風説すら流傳するに至れり。茲に於て

シュミッドはイフェルダン市を立ち退くべきの宣告を受けつ、ベスタロッチに勸めて、共に手を携へてノイホフにあるベスタロッチが愛孫ゴトリーブの住所に遁れしめぬ。かくてイフェルダン學校は其の主を失へり。形骸空しく存して、其の魂魄已に亡せり矣。噫是れ創立以來二十有年の生命を保ち、一時歐洲各國に喧傳したるイフェルダン學校の没落なり。

## 一一 晩年の生涯

人生蹉跎たり易し。浮沈苦樂の變、また何ぞ極まりあらんや。故に功過は一時にして定むべからず。得失も亦一處にして決すべからず。所謂棺を蓋ふて名定まるの一語は、以て品評の矩矱と爲すに足らんか。吾人は既にベスタロッチの幼時を記し、壯時を敘し、而して、其が従來の志望と事業も亦既に略敘し了りて餘す所は僅かに其が晩年の生涯あるのみ。土俵の端は力士の重んずる所、晩年の生涯、豈に人生主要の時期にあらずや。

ベスタロッチ、今や殆ど八十歳。其の壽や短なりと謂ふべからずして、其の公共のために粉骨齧身したるも亦久しと謂ふべし。而かも其が畢生の大目的に至りては、愈々企て、益々敗れ、未



だ曾て完全圓滿なる成功を見しことあらざるなり。然れども、渠は敢て之れが爲め痛傷する所  
あらざりき。多感渠が如く、性急渠が如く、生きて志を得ざること亦渠が如くにして、而して  
靜平沈着却つてかくの如くなる所以のもの、また豈に故なからんや。蓋し渠は再び筆硯に従事  
して其の積鬱を洩すことを得たればなり。始めに、「鶴の歌」の稿を起して、以て教育事業に就  
き、大に後世子孫に警告する所あらんと欲し、次に「予が生涯の經驗」を著はして、以て失敗  
の所由を敘し、且つ其の責を己れに歸し、時に或はシュミッドを揚げて、ニーデレルを抑ゆる等  
の事ありき。渠は其の他に「レヲナルドとゲルトロード」の第五篇を著はしたりき。

然れども、操觚の業、豈に其の志す所ならんや。其の志にあらずして、而して事にこゝに従  
ふ。又勢の止むを得ざるものあればなり。ベスタロッチのノイホフに歸來するや、直ちに貧民學校  
設立の計をなし、因りて家屋の建築を始めしと雖も、其の性急なる、之れが竣工の期を待つ能  
はず。乃ち一村立學校に往き、此所に教授の勞を取ること日毎に數時、以て自ら慰むるを得た  
りと云ふ。然れども、ノイホフに於ける渠が晩年の愉快は、時々、舊知の農夫を其の伏せ屋に  
訪ひ、共に歡話談笑し、或は農業上の談話を試み、之れを獎勵し、又之れに忠告する等の事に

ありき。一方には、かく、閑日月を消して、趣味あり、變化ある淡々たる生涯を送りしと雖も、  
渠が心頭、豈に一日も其の主義の傳播弘布に離るゝの時あらんや。渠は佛・英・西・葡等の諸國に  
其の主義を傳播するの目的を以て、先づシュミッドを巴里と倫敦とに遣はし、加之、更に佛國に  
於て定期刊行の一雜誌を發行せんことを企てたりき。其の熱心、其の氣力、豈に驚歎すべきに  
あらずや。噫、駿馬は固より天下に多し。而かも老いて能く驚馬に劣らざる者、果して幾何ぞ。  
壯心勃々、自ら其の老を忘るゝことゝに至れるは、蓋し渠が獨擅の精力と云はざるべからず。  
千八百二十五年五月三日、ベスタロッチはシンツナッハに開かれたる「ヘルベチヤン・ソサイエテ  
ー」に出席せしに、會員は歡呼して渠を迎へ、且つ渠を推して次年の會長とはなしぬ。翌年四月  
二十六日を以て、同會は又もヤランゲンタールに開かれたり。ベスタロッチ時に年八十一、一の  
演説を草しけるが、シュレル代りて之れを朗讀したりき。渠は此の演説にて、現時なほ世上に  
喧しかりし社會問題に關して大に氣焔を吐きたり。

千八百二十六年の夏にはベスタロッチはシュミッドを携へてラインフェルデンの近傍なるボイゲ  
ンの孤兒院を訪へり。これツェレルの創立せし所にして、其の教授法は概ねベスタロッチ主義を採

用したり。たゞ、氏は基督教徒の一人なるを以て、人性の悪なるを主唱し、ペスタロッチが教育を以て人類自然の善性を發達せしむるものなりとなすの一點に至りては、大に之れを攻撃せり。意見のかく異なるに拘はらず、ツェレルは渠を歓迎して懇篤丁寧を極めたり。孤兒は特に此の嘉賓に適當なる唱歌を奏して其の心情を慰めたりき。次で渠等は櫛の冠を取りて之れを恭しくペスタロッチに捧げるたるに、渠は涙を以て之れを辭して云はく、予豈に此の冠を戴くの分あらむや。請ふ之れを措きて予をして罪なきを得しめよ。と。功の少なきに賞の多からんことを欲し、實の乏しきに名の満ちんことを希ふは、すべての人情なり。獨りペスタロッチに至りては其の然らざるを見る。否、眞正の教育家たるもの、皆宜しく斯くの如くなるべきなり。

讀者はなほ記憶せるならん。ペスタロッチの始めて貧民に同情を寄せしは、實に其の九歳の時なりしことを。爾來、粉骨盡身の勞を累ね、梅風沐雨の苦を忍び、或は農業者となり、或は革命家となり、教育家となり、慈善家となりしもの、また唯初一念の然らしむる所ならずんばあらず。然り、而して今や死を距る僅かに數月の前に於て、渠が如何に貧民のために憂慮したるかを知るも、また頗る興味ある事ならずや。

渠は冬期の近づき來り炭薪の價の昇騰し、ために貧民の寒に苦むべきを知るや、之れを救はんと欲して、拱手熟考、漸く其の方法を發見せり、思へらく、貧民の家屋には床板なきも、若し之れを蓋ふに砂石を以てし、因りて以て濕氣を防ぎ、更に藁席二三層を以て之れを蓋ひたらんには、以て健康なる境遇の下に嚴冬の苦を凌ぐことを得べけん、と。蓋しかくの如き方法は、極めて簡易なるが故に費用の多きを要するにあらず。随つて又如何なる貧者と雖も、之れを実施することを得べければなり。然れども渠は單に之れを忠告するのみを以て満足する者にあらず、又自ら之れを實用して其の模範を示さんと欲し、床板のなほ未だ架せられざる家屋の中に一室を選び、己が袖に砂石を充し來りて、其の室内に投入しつゝ役々として止まざりしかば、其が愛孫ゴットリーブは之れを傍觀坐視するに忍びず、自ら砂石を窓前に運び來りて、以て老翁を助けんことを申し出でたり。然るに氣丈なる老翁は其の助けを得ることを欲せずして之れを固辭したりき。而して、時正に十二月の寒冬なるに係はらず、脛も露はに雪を踏み、をのゝく手腕を揮ひつゝ、砂石を家の前に運び來りて、投げては運び、運びては投げ、撓まず屈せず、勞働を續けたり。

されど金銭にあらざる身は、日に彌やまさる老餘の衰弱と、嚴冬の襲撃とに堪へ兼ねて、遂にこゝに從來する能はずなりぬ。渠が死後久しきが間は、此の家の窓前、なほ砂石の堆く残りて、人をして坐るに感謝の涙に咽ばしめたりと云ふ。是れ豈に渠が貧民に寄せたる、最後の同情の紀念にあらずして何ぞや。

然れども渠にして煩悶焦慮措く能はざらしめたるものは、其が衰弱にあらず、又其が病苦にあらずして、他に一事の渠が頭上に致死の大打撃を與へたるものありしなり。想ふに多少渠が死期を早めたる原因ありとせば、則ち此の事の如きは、即ち其の原因にあらざるなきを得んや。全然、シュミッドに甦れたるベスタロッチは、「予が生涯の經驗」を草するに當りて、シュミッドを辯護せんとするの餘り、不幸にも知らず識らず針小棒大の筆を弄して、以て之が反對者の名譽を傷けたりき。殊にニーデレルに至りては、痛く其の不正の鋭鋒に惱まされしものから、焉ぞ能く緘黙して止まんや。渠は其の特殊の勇氣を奮つて、其の憤怒と不平とを洩らしたりき。然るにウルテンベルグのエドワード・ビーバーなる者、其の後、一書を著はし、以て八十有餘歳の生涯を擧げて、之れを教育の犠牲に供せし、眞に尊崇すべき老翁、ベスタロッチを攻撃して餘力を

遺さず。其の品性より宗教及び學說に至るまで、逐一論駁して次々に冷嘲熱罵を以てせり。而して其の所論のニーデレルの言と符合するものありしかば、人皆之れを以てニーデレルの煽動に出でたりとなすに至れり。然れども、ニーデレルは、或る點に於てはベスタロッチと和せざるものなきにあらざりしも、常に渠を尊敬して止まさりし者なれば、焉んぞ爾かく陋劣の擧に出づるを是れ爲さんや。

チェウリック新聞紙上にビーバーの著書に關する記事あり。其の中に曰く、ベスタロッチは、なほ棍棒を見て其の身を隠す動物の如きか。然らずんば、何ぞ此の攻撃に對して一言の答辯を與へざる、と。之れを讀みたるベスタロッチ、豈によく其の憤激に堪ふことを得んや。此の時渠はさながら狂人の如く激したり。爾來、其の病勢は頓に危篤に赴き、人をして焦慮措く能はざらしめたる程なるにも係はらず、渠は醫師に向つて云へり。予は今自ら垂死の境にあるを覺ゆ、されど耻辱極まる、これらの妄説を反駁せんがために、なほ六週日の光陰を要す、と。醫師は之れを制せしかど、渠は容易に之れを肯ふべくもあらず、乃ち直ちに答辯の起草に取り掛かりしと雖も、熱情空しく燃えて、氣力已に盡き、筆は覺えず手頭より落ちて、また書くこと能はずなりぬ。

左の數行は、斯かる苦痛の日の筆に成りし所に於て卓上に散亂しつゝありしものなりと云ふ。

予が苦悶は筆紙のよく盡す所にあらず。誰か予が胸中の苦悶を了解する者ぞ。人はみな予を以て老衰せる一野翁なりとして賤めり。渠等は今や予を以て毫も爲すなきものとなすなり。予は空しく渠等が嘲笑を勵ますに過ぎざるのみ。然れども、予の斯く苦しめらるゝ所以のものは、予自身のためにあらずして、寧ろ予と死生を同じうする予が理想のためなりとす。予が神聖なる所有物、即ち予が慘憺たる全生涯の永きに亘りて、予を鼓舞策興せし信念は、今や無下に渠等が足下に蹂躪せられ了んぬ。吁予が死何ぞ恐るゝに足らんや。否、寧ろ喜んで之れを迎へんと欲す。予已に疲憊す。永眠は予の喜んで就かんと欲する所なり。然れども、獻身的の生涯を送りて空しく之れに失敗し、加ふるに破壊されたる事業を面たりに目撃し、且つ之れと共に地下に往かざるべからざるを見ては、予の腸豈に九廻せざらんや。吁泣かんと欲すれど涙は寧ろ出でざるなり。

次に、壓制せられ、輕蔑せられ、而して又浮世より排斥せられたる、予が可憐の貧民よ、汝等も亦哀れのものぞかし。汝等は予と同じく度外に置かるゝならん、又嘲笑せらるゝなら

ん。富者は其の富を恃んで汝等を顧慮せざるべし。渠等或は麵麴の一片を汝等に投ずることもあらん。然れども、更に一事をも汝等のために爲すことあらざるべし。蓋し渠等は金錢の外、他に一物をも有せざる極めて貧しき者なればなり。汝等を招きて精神的の饗應に飽かしめ、以て汝等をして眞正の人たらしむることに關しては、曾て考慮を費したる者、又將さに費さんとする者、滔々たる天下、果して幾人かある。然れども、汝等之れを憂ふことを休めよ、神は常に天に在すなり、小さき雀をすら注意し給ふ神は、決して汝等を忘れ給はざるべし。予も亦神の忘るゝ所とならざるべし。否、管に忘るゝ所とならざるのみにあらず、我等は又神の慰むる所となるべきなり。

或は泣き、或は怒り、死の岸頭に臨んで、なほ貧民の事を顧慮す。垂死の親が、其の子を憂慮するの切情も、また何ぞ之れに過ぎん。貧民に寄する同情の萬里一條鐵の如くなるに非ざるよりは、焉ぞよくこゝに至らんや。渠は又死に先だつこと纔に七時間、語りて曰く、

予が兒童よ。汝等は予が事業を實行する能はざるべし。然れども、汝等が近傍の人に對して善を行ふことに至りては、汝等が能くする所なり。實に汝等は耕すべき土地を貧民に與ふ

ることを得べし。若しそれ予に至りては、今や隣時にして黄泉の客たらんのみ。予は予が敵を救せり。渠等は今や枕を高うして眠るを得べし。予も亦將に永眠に就かんとす。予が答辯の草稿を終らんがために、なほ六週の生活を望めり。然れども、今神は此の浮世の生活より予を取り去り給はんとせらる。是れ予の正に感謝する所なり。汝等、予が兒童よ。請ふ、安穩にノイホフに永住せよ。而して汝が和樂を家庭の間に求めよ。と。

鳥の將に死なんとするや、其の鳴くこと悲し。人の將に死なんとするや、其の言ふこと善し。之れを渠が病床に呻吟し、ビーバーの攻撃に激怒して、奮然病褥を蹴りて一氣呵成、以て胸中の鬱塊を吐露せし前の述懐に比して將た如何の感かある。渠は前にはなほ貧者を憐れみ、富者に憤り、人の己を知らざるを憂へ、己の世に容れられざるを嘆ぜり。即ちなほ未だ天道を歩行する能はずして、地上の行路に彷徨し、煩惱の火焰は熾んに胸中に炎えて、眞如の清月はなほ未だ天空に沖らざるもの如くなりき。然るに、危機一髪、三寸息絶ゆるの期に臨んでは、我なく、他なく、敵なく、友なく、將に閉ぢんとする渠が眼中に映する所のもの、獨りノイホフの兒童あるのみ。渠はこゝに至りて安心立命せり。天をも怨みず、人をも咎めず、たゞ周囲の小

兒を訓戒して、從容莞爾以て天使の來迎に接したりき。當時、渠が枕頭に侍せし者の言に曰く、渠は渠を迎へんとて來れる天使の手に莞爾として接せるもの如し。と。ベスタロッチが最後のさまは、實にかくの如くなりき。

大慈善家、大哲學家なる渠が遺骸は、千八百二十七年二月十九日を以て、空しくノイホフの近村ゼルに葬られたり。其の未だ死せざるや、人の渠に問ふに、如何なる石碑の渠がために立てらるべきを以てせしに、渠は答へて曰く、予の粗野なりしが如くに、石碑も亦粗造にして彫刻の巧を施さざるものにて可なり。と。たゞ渠が最後の願望は、ビルの學校の近傍に於て、小兒及び農夫に扈伴せられて質素に葬られんこと即ち是れなり。此の願望は少なくとも果されたり。渠が墳墓はビル村の會堂と學校の間とに挟まれたる小庭の上に築かれぬ。されど、墳墓と云ふも名のみにして、其の後十九年間は、單に薔薇樹を以て標されたのみなりしが、後に學校改築の必要起るに及び、アーゴの議會は國家が渠に負ふ所の鮮少ならざるを感じ、此の機を幸とし、相當なる紀念碑を渠のために立て、以て永く其の芳名を傳へんことを決議したりき。遂に千八百四十六年二月十六日、即ち其の百年祭の舉行に際して、質素にして又相當なる

一 紀念碑は、新に同じ會堂の境内に築かれぬ。此の儀に列せし者は、公私の團體、學者・教育家及び近傍の農夫等にして、頗る盛大なりきと云ふ。生きて志を得ざるも死して餘榮あり。渠亦以て瞑するを得ん。

ヘンリー・ベスタロッチが有形的生涯は決して短きにあらず。更に其の精神に至りては今なほ炳焉として光輝あり。即ち其の無形的生涯に至りては、豈に天地を窮め、萬世に亙るものにあらずや。豈に不滅不朽のものにあらずや。

## 一一一 著 作

人を知るは須く其の言動に跡ぬべし。若しそれ然らずんば、其の著作に依るも可ならんか。吾人はベスタロッチを知るに切なる者、管に之れを知るに切なるのみならず、及ぶべくんば、其の心情の健全にして且つ偉大なる感化力に鼓吹せられんことを希ふ者なり。而かも渠と吾人と幽冥界を異にし、呼べども應ぜず、招けども來らず、止むなくんば、それたゞ渠の著作乎。乃ち讀者と共に寒窓破机に憑りて、遙かに故人ベスタロッチが跡を求め、氣を逐ひ香を尋ねて以

て聊か吾人の心情に資する所あらんとす。

彼が思想の深且つ遠なる、其の人性の奥祕を開發したるもの決して鮮少にあらず。吾人もし眼を渠の著作に注ぎたらんには、其の吾人を啓發するの頗る大なるものなからんや。

渠が修學時代に於ける文字の遺跡は、其が法律學の研究を廢止するに當りて、悉く攪りて之れを火中に投じたるが故に、其の後世に傳はりしものは、此の際秦火を免れたる「アジス」と題する一書のみ。アジスとは誰ぞ。身は奢侈淫逸の中央に人となりしにも係はらず、一生を通じて質素儉約の生涯を送り、以て當時滔々として天下に瀰漫せし驕奢の大潮流に逆抗して、之れを支へんと企てたる希臘のスパルタ王其の人なり。ベスタロッチの時に於ける瑞西も亦古昔希臘の覆轍を蹈むに垂んとしたりき。此の時に當りて未だ丁年にも満たざる若輩の身を以て、奮然筆を呵して、其の理想的人物なるスパルタ王アジスの傳をもつて天下に訴へ、以て大膽にも大勢を挽回せんと試みたるベスタロッチ當年の意氣亦壯んなりと謂ふべし。

次には渠がノイホフに於ける慈善事業に失敗の餘、暫時、著作家として閑日月を送れる時に成りしものに就きて少しく語る所あらんとす。渠は五年の間ノイホフに幾多の小兒を養ひつゝ、

之れと接觸して生活せしかば、其の救済せんと欲せし小兒の果して如何なるものなるかを理解したりき。且つ其の着實なる事業に由りて屢々經驗を累ね、勤勞を積みしを以て、會て解すべからざる問題たりしものも、今は釋然として心に會するに至りぬ。渠は此の時に於て自ら語りて曰く。

予は深き感謝を以て、固窮が予をしてよく人民の痛苦と其の原因とを了解せしめたるを神に謝せざるべからず。是れ蓋し親しく痛苦を嘗めたるの人にあらざるよりは、到底得る能はざるの事なりとす。予は親しく人民の苦しみし所を苦しみたれば、渠等に關しては餘人の未だ見る能はざる所を見たりき。而して予の予が企業の因りて基づきし所の根本的眞理を自覺するの深かりしことは、未だ會て予の失敗せし時より甚だしきはあらず。豈に亦奇と云はざるべけんや。と。

渠は實に一敗を経る毎に一倍の勇氣を増し來るの概あるものと謂ふべし。渠が自身の失敗に對する感想も以て見るべきなり。

然れども、渠は此の時に於ては、また一事をもなし能はざる程に零落したんぬ。故に勢ひ筆硯の力を藉りて其の理想を天下に弘布するの一方ありしのみ。こゝに於て乎、渠は千九百七十年「隱遁者の夕」を著して之れをイゼリンの發行に係る「エッフエメリデス」紙上に載せたりき。渠が教育上の著作は、實に之れを以て嚆矢となす。此の書は簡潔にして遒勁なる箴言を蒐集せしものなるが、著者は教育に依りて人民の位置を高むることに關しては、充分に其の意見を吐露したりき。箴言の數は總じて一百八個あれども、吾人は其の緊要にして且つ興味ある部分を引かんと欲す。

### 隱遁者の夕

(一) 王侯と匹夫との別こそあれ、苟くも人たらん限りは、其の性質に至りては則ち一なり。然れども、人は果して如何なるものなる乎。賢者は何ぞ吾人に告ぐる所あらざる。哲人何ぞ人性の直ちに如何なるものなるかを發見せざる。牝牛を使用する農夫は、豈に其の性質を了解せずして可ならんや。畜羊に従事する牧人は、豈に其の性質を熟知せずして可ならんや。

(二) 世の人を支配し、且つ之れを使用し、之れを誘導すと自ら稱する者よ。汝は何ぞ牝牛に於ける農夫、畜羊に於ける牧人の苦辛を人民のために取らざる。汝が人民に就きて知る所あるは、即ち汝が智なる所以にあらずや。汝が人民の良牧人たるは、即ち汝が善なる所以にあらずや。

(三) 人とは何ぞ。其の要する所は何ぞ。將た其の浮沈苦樂する所以は如何。其の優劣強弱ある所以は如何。是れ豈に人民の司牧者。貧民の朋友の等しく知らざるべからざる事ならずや。

(一〇) 飢ゑを飽かしめられたる幼兒は、自然に其の母と自身との間の關係を知るなり。愛情と感謝との念は、其の名稱の未だ渠の鼓膜を打たざるの前に當りて、早くも其が心上に發動せらる。父の食餌に養はれ、父の火爐に温まる子も、また此の自然的方法に於て健全なる孝心を起すことを得るなり。

(二二) 自然が人類の諸勢力を發達せしむるは、之れを練習せしむるに依りてなり。人類の諸勢力は、之れを使用するに隨ひて、益々増大するものなり。

(六一) 人は衣食の必要に迫られて働くものなり。かくして渠は家庭の靜謐なる快樂を享有せんがために、また公共の責務の一部分を負擔する者なり。

(六二) この故に人をして國家に於ける渠が職業及び位置に適せしめんがために施すべき教育は、渠が家庭の幸福を享有するがために必要なる教育の下に従屬せしめざるべからず。

(六三) 人類教育の眞基礎は實に家庭なり。

(七二) 人の性質の薄弱にして多感なる、神を信するにあらずんば、抑壓苦痛及び死に遭遇して之れに堪ふる能はず。

要するに「隱遁者の夕」は、公衆の喝采を博したりとも見えざりき。實に人民の大多數はなほ未だ其の眞價を評議するの眼識を有せざりしなり。大聲固より俚耳に入らず、大作豈に俗眼の甄別する所とならんや。ペスタロッチをして初めて文界に名聲を轟かしめ、且つノイホフの仙窟より再び人界に現出するの止むを得ざるに至らしめたるものは、實に其の後の著にして、此の書よりも更に通俗に更に平易に、又更に愉快なる句調を以てものされたるものなりき。

此の時に當りて、チュウリック議政會は、萬事開明風を模擬するの餘り、市街の安寧を維持す



る巡査の制服に關して一定の規則を制定せしに、深く古風の質素簡朴を欽仰せるベスタロッツチの眼中には、此の事寧ろ片腹痛く感ぜられたるにや、渠は一日之れに關して一篇の諷刺詩を作りき。渠は此の詩を其の友人なるチュウリックの書肆フェツスリーなる者に送りしに、其の弟に畫師某なる者あり。偶ミフェツスリーの寓居を音づれて此の詩を見るや、一讀再讀の餘、讚嘆措く能はず。乃ち大息して曰く、かく立派に書き能ふ人には、其の筆こそ直ちに財産なれ。と。又他の眼識ある者も、之れと同一の意見を吐露せしかば、フェツスリーは欣喜雀躍禁する能はず、ベスタロッツチに告ぐるに、ありのまゝを以てし、且つ之れに忠告して大に著作に従事すべきを勧めにき。然るに渠は自ら著作家たるに適せずとて、此の忠告を容るべくも見えざりしが、後には遂に首肯して曰く、請ふ。予が妻孥の衣食のために、暫く假面を装はん。と。暫時著作家たらんとするの心頭は、こゝに於て乎、初めて決しき。

是れを以て、渠は俄かにマールモンテルの「道德小話」を讀み始めぬ。渠は此の文體に模擬して七たび稿を起しけるが、一も自ら満足するに至らざりき。此の際偶々一大願望は突如として起りぬ。即ち自ら善く熟知せし農夫の状態を描きて見んとの決心是れなり。渠は農夫の貧困及

び惡徳を細かに描かんことを欲せしのみならず、なほ且つ渠等が腐敗墮落の斯くまで甚だしきにも係はらず、渠等が道德上、及び身體上の元素は、なほ改善すべき望みの全く盡き果てたるにもあらざること併せて描かんことを願ひき。乃ち此の目的を以て筆を執るや、造作もなく、間斷もなく、一大雄篇は一氣呵成の下に渠が筆尖より滴り成りぬ。「レヲナルドとゲルトルー」の第一卷即ち是れなり。渠が此の著作に従事するや、時を費すこと僅かに數週、貧窶殊に甚だしくして、用紙を購ふの資すら乏しく、止むを得ず舊き出納帳の餘白を用ひて之れに充てたりと云ふ。

かくて、此の書は千七百八十一年に現はれけるが、幸にして世上の好評を博しき。即ち新聞紙の之れを稱揚せざるもの至つて少なく、殊にベルンの農會の如きは、著者に謝詞を發し、且つ之れに贈るに若干の賞金と金牌とを以てしたりき。此の書の眞價、著者の榮譽、亦以て察すべきにあらずや。吾人は此の書の梗概に就きて少しく記する所あらんとす。

「レヲナルドとゲルトルー」は、ベスタロッツチが熟知せし村落生活の状態を、簡單に又明晰に敘述したる一の物語なり。レヲナルドは、正直にして志の善き人なるが、其の缺點とすべきは

酒を嗜むことは是れなり。渠は之れがため妻子をして屢々饑渴と痛苦とに泣かしたり。然れども、一時は妻子に對する切なる愛情よりして、斷然改心することあれども、時立てばまた悪友の誘惑に由りて悪魔の手に導かるゝに至る。ゲルトルードは即ち其の妻にして、婉柔に且つ精勤なる良婦なりしなり。レヲナルドの一家は、たゞ此の良婦が辛苦と忍耐とに依りて救はれたり。然るに茲に村落酒舗の主人にて、兼ねて執達吏を業とするフンメルなる者あり。渠は愚夫を己が家に導きて酒を飲ましめ、之れに借錢を負はしめ、遂には其の財産を掠奪せんと企つる程の惡漢なり。而して此の惡漢に反對なる善人は、新に村長に任じたるアルナー其の人なりとす。渠は高尚なる思想と寛大なる心情とを有し、困苦の中にゲルトルードを保護し、かねて惡執達吏の禍心をして水泡に歸せしめたり。

ベスタロッチは、よく村落の事情に通ぜり。是れを以て其の村落の状態を描くや、精緻周到、讀者をして卷を掩ふの後も、なほ身書中の人物と共に生活するが如き心地あらしめたりき。是れ實に此の書の特色なりとす。然れども、其の眞價は焉んぞかくの如きの邊にあらんや。ベスタロッチの心よりして見れば、此の書の如きも、またたゞ教育に依りて人民を高尚にし、且つ之れを

幸福ならしむる所以を示さんがため、其の懷抱せる意見を弘布するの手段たるに過ぎざるなり。而かも著者の眞意は當時讀者の知りし所にあらず。渠等は單に健全にして興味ある小説として之れを読みき。ベスタロッチたる者、假令讚辭の頭上に堆かきを感じる程なりしとするも、豈に胸中竊かに一片の遺憾なきを得んや。渠は其の目的のなほ未だ達せざることを慨し、別に一書を著はし、以て「レヲナルドとゲルトルード」の中に暗示せられたる小兒教育の方法を表示せんことを企てたりき、此の書題して「家庭に於ける小兒の教育」と云ふ。然るに、渠は此の書の世に歡迎せられざるを豫知せしにや、又は自ら満足せざりし故にや、遂に之れを梓に上さざりき。後ニードレルは、其の著「ベスタロッチに就きて」の中に其の一部分を公にしたりき。

こゝに於て渠は「レヲナルドとゲルトルード」の續篇を出さんことに熱中したりき。即ち千七百八十三年には、其の第三卷を、而して同じき八十七年には、其の第四卷を公にしたり。

渠は此の四卷の一書をば、題して「人民用の一書、レヲナルドとゲルトルード」と呼びしも、人民は秋毫も之れに注意する所あらざりき。蓋し讀者の第一卷を愛讀せし所以のものは、單に其の小説的なるに在りて、其の言外に包藏せる教課をば、遺憾にも輕々看過したる程なれば、小

説的・脚本的臭味の更に減少したる代りに、教育的・社会的・經濟的問題の其が大部分を占めたる他の三卷をば、第一卷の如くに歓迎せざりしは、理に於て固より怪むに足らず、然れども、これらの著作が獨り小數識者の留意を引きたること、及び其の識者すら、大部分に至りてはなほ且つ之れを理解するに苦しみしことより察すれば、著者が當代の思想界に特立して、其の先驅者たりし所以のものも、また以て見るべきにあらずや。

奥國大藏大臣たりしチンツェンドルフ伯は、此の書の第四卷を讀みて後一書を著者に寄せて曰く、

予は二回ほど第四卷を讀みたり。其の百六十四ページ以後は、予の深く興味を覺えし所にして、其の人民に影響すべき諸立法に對して眞個に緊要なる意見を發揮するものと云ふべし。足下が意見を實行せんがために主要なるは殆ど土地の唯一の所有者とも云ふべき貴族の全體が、先づアルナー（小説中の人物、前に見えたり）の如き意見を持し、且つアルナーの精神を以て、渠等の小兒と田舎の小兒とを一所に教育せんとする勇氣を有することこれなり。と。

ベスタロッチの之れに答へたる書に曰く、

二三の政治家・行政家は實に第四卷を賞讃せり。然れども讀者の多數は、百六十四ページ以後を以て、極めて難解にして且つ乾燥無味なりとなしたり、と。（下略）  
以て此の書の如何なるものなるかを知るに足れり。

渠が此の書に於て墮落せる人民の惡徳を描くや、頗る其の詳密を極めたり。然れども獨り其の人民の猥褻不潔なるの一事に至りては、一語も之れに及ぶものなかりき。是れを以て書中の一句一語たりとも、公衆の面前にて讀むに憚るべき程のものにあらず。然れども著者がかく心を用ひしは、獨り第四卷に於てのみ然るにあらず。第一卷に於ても凡そ數行の間黒點を以て文字に代へたる所あるが、著者は之れが理由を附記して曰く、十歳の小兒に聲明かに此の數行を讀み聞かせたるに、渠は之れを聞き了りて其は極めて野卑なりと叫びたれば、かくは省きつ、と。それ一幼童の評言をもなほ之れを納るゝに吝ならざりしこと此くの如し。著者の無邪氣なる寧ろ眞に愛すべきなり。

渠はかく「レヲナルドとゲルトロールド」の著作に従事しつゝありし間に、なほ千七百八十一

年より千七百八十三年の間に四個の著作を世に公にせり。

千七百七十九年、バゼルの某會は「商業を國本とせる自由小國にて個人の私費を節限するは如何なる處までを可とすべきものなるか」と題する懸賞論文を募りき。之れに應ぜし者は凡て二十八人、而して選者はベスタロッチの論文とマイスター教授のとを以て最上なるものと認定したりしかば、賞は遂に此の兩人に分たれぬ。然るに此の受賞者二人共にチュウリックの人にして、又舊時の學友たりしは奇中の奇と云はざるべからず。

渠は此の論文にて如何なることをか論ぜし。教育が人の心に於ける高尚なる慾望を満たし、以て物質的生活の華美なるに樂しむ能はざらしむること、教育が富者をして貧者の到底得らるべくもあらざる愉快をば、獨り壇に樂しみつゝ、之れを其の面前に街ふことを敢てせしめざる迄に貧者を愛恤したること、及び治者及び官吏が虚飾のため無用の費金を耗して、惡例を世に示さざるやう爲したること、是れは實に渠が此の論文に於て世人に切望せし所のものなりき。噫、渠が此の忠言を要とするもの、何ぞ獨り當時の瑞西のみならんや。物質的文明の潮流の駭々乎として没入し來れる我が邦今日の現状の如きは、また豈に其の一たるなからんや。

千七百八十二年に於ては、渠は「クリストフワールとエリッザ」を公にしたりき。然れどもこれ又不幸にして好評を得ずして止みぬ。抑、此の書たる其の包含せる眞理の當時人民に理解し難かりしがためこゝに至れるのみならず、今日に於てすらなほ有益なる教育上及び他の社會上の問題に關する意見を含有することは、或は「レヲナルドとゲルトールド」の上にあるべし、なほ且つ其の書の當時教育ある人士の間に容れられざりし所以のものは、一には其の所論の當時上流社會の憤怒を惹起したるに是れ因らずんばあらざるなり。例せば、被治者の腐敗は一般に治者の腐敗より來ることを指摘せるが如き、貧者の惡徳は、往々富者の惡徳より挑起せらるゝことを論斷したるが如き、皆以て上流人士の憤怒を買ふに足るべきものとす。白眼以て富貴の輩を睨み、挺身以て風潮の大勢に抗し、讜言正論、毫も憚る所なかりしベスタロッチが當年の意氣に倣ふ者、九十年後の今日果して何處にかある。

千七百八十年には、渠は「立法と嬰兒殺し」と題する一書を公にしたりき。此の書論する所は分ちて五部となす。

(一) 緒論

著作

- (一) 法律及び社會上の關係より來る嬰兒殺しの一般の原因
- (二) 特別なる原因研究 八個の場合
- (三) 嬰兒殺しの糾問の公報を引證して此の研究の結果を證す
- (四) 豫防の手段

渠が嬰兒殺しの問題を攻究せんとの志を起したるは、其のなほチュウリックに法律學生たりし頃、二人の小娘が嬰兒殺しの罪を以て死に處せられたることを聞きし時にあり。ベスタロッチは、斯かる不自然的の罪惡は到底なし得べからざるものと信じけるが、之れを研究するに及んで、其の實になし得べきものなるのみならず、なほ且つ其の屢々行はるゝを發見するや、文明なる基督教國に於て、犢畜野蠻の國にすら殆ど見るべくもあらざる此の毒惡至極の犯罪の因りて行はるゝ原因を探究せんところは企てけれ。爾來十有餘年の久しき、銳意専心以て此の問題を討究し、こゝに至りて遂に之れを世に公にするに至りぬ。

渠は千七百八十二年正月三日、始めて「瑞西新聞」と稱する週刊新聞を發行せり。是れ其の主義の弘布を謀らんがために、イゼリンの忠告を容れて特に企てたる新事業なりとす。其の第

二卷の世に現はるゝや、早くも嬰兒殺しに關する一論文は紙上に掲載せられて、渠が他の文章と共に當時著名の國王をして其の所論に耳を傾けしめき。即ち皇帝ジョセフ二世及びタスカニイの大侯爵レヲポールドの如きは、共にベスタロッチの意見を適用して、以て其の臣民の境遇を改めんとし、特に刑法及び監獄規則の改良に資する所あらんとし、各々其の公使に訓令して「レヲナルドとゲルトロード」の著者と交渉せしむる所ありき。文章の勢力もこゝに至りて重且つ大なりと謂ふべし。所謂文章は經國の大業、不朽の盛事なるもの、吾人はベスタロッチに於て其の眞に然るを見るなり。

然れども「瑞西新聞」紙上に大部分を占めたるものは教育上の所論にして、此の新聞は殆ど一年間永續し、遂に二大卷を成せり。吾人は今、其の第二卷より少しく摘譯する所あるべし。

それ愛なるものは、人類が天帝に捧げ得べき所の此の上なき眞の禮拜にして、又其の信仰の此の上なき淵源なり、人の生涯を送るも愛ありてこそ然るなれ。若しそれ愛なからんか、地上は宛も是れ死灰枯木の如くならんのみ。愛なき人は即ち希望なき人なり。嫉妬・憎惡及び憤怒の奴隸たる人は、畢竟失望より免るゝこと能はざるなり、人にして若し其の兄弟を愛する

ことなからんか、其の最上の能力は遂に發達せざるなり。又若し人にして神に對する敬虔の念なからんか、渠は決して其の兄弟を愛する能はざるなり。果して然らば、即ち神を忘却するは、即ち薄弱と死滅との原因なり。

王侯にまれ、匹夫にまれ、苟くも人たらん者は、等しく宗教を必要とするものなり。若しそれ人にして神を忘却することあらんか、渠は地上に於ける最も憫れむべきものならざるべからず。

小兒が其の母の懷に抱かるゝに當りてや、渠は人類中の最も薄弱にして又最も獨立ならざるものなりとす。而して此の時早く己に渠は愛情及び感謝の道德的感觸を受け入れつゝあるなり。

道德なるものは、これらの愛情及び感謝の情操の發達せるものの結果に過ぎざるなり。

小兒の能力の初めて發達するは、渠が家庭の操作を負擔するより起る。何となれば、家庭の操作は其の兩親の最もよく了解し、最もよく注意し、又最も教ふるに堪能なる所のものなればなり。

小兒の注意力を鼓舞し、其の判斷力を練習せしめ、其の高尙なる情操を可成的速に啓發せしむるは、蓋し教育の主要なる目的なりとす。而して如何にせば此の目的を達することを得べきか。他なし、家庭的生活に於ける種々なる日常の業務に従事せしむるに依りて即ち達することを得るなり。人をして健全なる判斷力を得しむるも、また幼時に於て、あらゆる操作に従事せしむるに依りて得らるゝなり。何となれば、渠が操作をして成功せしめんがためには、之れを種々なる境遇の下に試みざるを得ざればなり。この故にあらゆる境遇は、是非共に充分に了解せざるを得ざるなり。若し又失敗せんか、小兒は之れに依りて其の失敗は判斷の誤謬より來れることを悟らざるなり。

最後に、操作は亦人の精神を高尙にし、且つ凡ての家庭的及び社會的道德を準備するの最上方法と云はざるべからず。何となれば、小兒に服従・克己及び忍耐を教ふるには、小兒をして、家族の餘の者と共に、規則正しく操作に従事せしむるより善きはあらざればなり。

一般の規則として、此の操作に代ふるに人工及び書籍を以てするは甚だ不可なり。小兒は書物中にて、最も感動すべき好き物語を發見するを得べし。然れども是れなほ小兒に取りて

は、單に夢想の種類にして、或る意味に於ては、不眞の事と云はざるべからず。然るに小兒が自身の家にて眼前に現はるゝの事に至りては則ち然らず。是れ其のあらゆる自身の経験、兩親の経験及び隣人の経験とに關係したる、幾多の一樣なる出來事なればなり。而して渠をして人間の如何なるものなるかを知らしめ、且つ充分なる觀察的精神を發達せしむるものも、また實に是れなりとす。

吾人が瑞西新聞より抄譯する處は暫く以上を以て足れりとせん。たゞ頗る趣味あり、又適切なる左の數行に至つては、之れを看過する能はず。人あり、渠を非難するに、其のなほ小兒らしゝとの故を以てしたるに、渠は之れに答へて曰く、

予は成るべく墳冢に入るまで小兒らしからんことを望む。予が小兒らしくして、汝に誤謬と愚蒙とあるも、なほ之れを信じ、之れを愛し、又之れを悲しむは予の愉快とする所なり………汝が見聞する如く、人間に不善ありとするも、たゞ善の外に何物をも見ざらんことは、兎に角、愉快の事にして、汝が日々人に欺かるゝことあるも、なほ人の心情に信賴して疑はざるは亦愉快の事にあらずや。此の世界の賢者と愚者とが、各々思ひ／＼

に汝を迷路に導きたりとするも、之れを赦して咎めざるは亦更に愉快の事にあらずや。と。紛々たる世評をもともせず、其の所信を有體に表白して、從容自適、毫も心を動かさざるの所、髣髴として渠を面あたりに見るが如し。

かくて、渠は以上吾人の記載せし書籍を公にしたる後、即ち千七百八十七年以後、十年が間は一も書籍を出版せしことあらざりき。蓋し其の主なる理由は「レヲナルドとゲルトロルド」の第一卷の大成功ありしにも係はらず、其の収入は以て妻孥を養ふに足らざりしかば、他に生計を維持する方法を發見するの必要に逼られ、止むなく再び身を農業界に投じたるによれり。而して、其の著作に依りて得たる収益の多からざりし所以のものは、其の一は渠が時好に投じて筆を取らず、單に自身の思想を天下に表白するがためにしたると、其の二は苟くも資財を作らんと欲せば、著作家と雖も、多少の商才を有すべき筈なるに、渠は全く之れを缺きたるとによれり。

然るに、佛國革命は、恰も此の時を以て突如大波瀾を捲き起し來りて、端なく社會の惰眠を警醒しければ、渠が注意も亦此の大問題のために奪はれぬ。生計のために久しく専心農業に従事せ

しペスタロッチも、豈に空しく手を拱して止まんや。乃ち筆を揮つて、佛國革命の原因に就き簡短なる論文を著はしたり。然れども、此の論文は千八百七十二年までは、世に公にせられしことなく、脱稿のまゝにニードレル夫人の手に渡り、後セイフワースの出版する所となれり。初め夫人は千八百四十六年に自ら之れを出版せんことを企て、一篇の緒論をものしぬ。中に左の言あり、以て聊か此の書に就きて知ることを得べきか。

此の有名なる人の遺骸は、今や殆ど二十年の間、地下に埋れにき。即ち渠が此の論文にて其の懐抱せる意見を吐露せしより以來、半世紀以上を経過し了んぬ。

渠が此の論文を其の生時に公にせざりし所以のものは、疑ひもなく、其の議論のあまりに大膽なるがために、或は危険を招く恐れありたるが故にして、之れがために、其の身を犠牲に供して従事せる教育事業に聊かたりとも危害を及ぼさんことを恐れしが故ならずんばあらず。と。

渠は身を農業に委ねつゝありし間も、なほ閑を偷みては筆硯に従事したりき。即ち千七百九十七年には、「寓話」及び「人類の發達に於ける自然の順序」の二書を公にしたり。前者は、極め

て短き二百三十九個の寓話より成りたるものなるが、一として道德・教育・社會・政治等に關せざるものはあらず。吾人之れを読むに、轉た著者が想像力の偉大なると、觀察力の深遠なるとに敬服せずんばあざるなり。請ふ少しく之れを抄譯せん。

(八) 草と菌

菌あり、草に語りて云ふ、予は即刻にして生長すれども、足下は一年の全きを費さざれば生長を終らずと。草之れに答ふるやう、然り、足下が言誠に然り。然れども、予は全年を費しながらも、生長するに當りては一步は一步より眞價を得つゝあるに、之れに反して、用もなく來りて、用もなく去り、一年に數百回も生死するものは、即ち足下にあらずや、と。

(二六) 二匹の駒

茲に生れたるばかりの二匹の駒あり。一は之れを可成的速に農業上に使用せんとの考を有せる農夫の手に買はれけるが、後果して善からぬ馬とはなりぬ。他の一は善く之れに注意し、又善く之れを教練する人の手に歸しけるに、遂に強壯なる馬とはなれり。

世の父母達よ。若し汝等の小兒が注意して教育せられ、正しく指揮せらるゝにあらざれば、



渠等はたゞ無用のものとなるのみならず、又其の能力の大なるに比例して其の危険も亦大なるべし。

## (七一) 樫と草

樫の蔭に生長する草あり。樫の木に向ひて云ひけるは、予の繁茂するは、汝が蔭の下よりも寧ろ廣野を善しとす、と。樫は之れを聞いて怒り且つ叫んで云はく、恩知らず者よ、！汝は予が毎冬期に予の葉を以て汝を庇ふことをば忘れたるか、と。之れを聞いて草も叫んで云はく、さても異な言を聞くものかな！汝の傲慢なる枝は、予を防げて、露・日及び雨に浴せしめず、又汝の根は土壤の養分を獨り吸収して予に之れを分たす。然るに汝は予の繁茂を助くるよりも、寧ろ汝自身の生長を益するの用をなす、僅かばかりの凋める葉を予に強ひ施し、以て予をして其の恩に謝する所あらしめんとするは、眞に奇怪と云ふべし。と。

## (七四) 崩るゝ岩

岩あり、數世紀の久しき、家畜を庇護し、之れをして酷熱と雨露とを凌がしめけるが、此の岩年と共に崩壊しつゝ、日々岩の數片は碎け落ちて、岩下なる家畜の背ともなく、頭とも

なく、したゝかに降りかゝりければ、渠等は遂に堪へずやありけん、久しく住み馴れし此の場所を去りて何處ともなく遁れ去りぬ。さるを老耄せる半盲半聾の牧翁は、其の何の故なるかを知る能はず。思へらく、是れ必ず敵の蠱惑する所となりしがためならん。と。

従來の庇護物が零落して危険に逼りつゝあるを見るは、眞に悲しむべきの事なりと雖も、人民の支配者たる者が、此の危険に心付かざるを見るに至りては、また更に悲しむべきの事ならずや。

## (一〇) 俚諺の悪影響の一

人が本意ならずも、其の馬に不親切なるの止むを得ざる場合に遭遇することあるは悲しまざるを得ずとは、或る日、親切なる御者が、重荷を負へる其の野獸を急驅せしむるの止むを得ざるに當りて、心底より叫びし一言なり。然るに、渠が漸次に此の言を繰り返へすの習ひをなし、果ては恰も早朝今晚などの言の如く、無造作に之れを口にするに至りしかば、此の語は遂に其の國の御者間に於ける俚諺とはなりぬ。而して、今は其が馬や牝牛を虐待する惡漢までが、此の好辭柄を口に藉きて自身を寛ふするに至りぬ。渠等は、公々然として曰く、

御者は其の心に背きても不親切ならざるべからず、是れ亦止むを得ざる所なり。と。

## (一一七) 平等の制限

侏儒あり、巨人に向ひて云ひけらく、予も汝と同等の権利ありと。巨人之れに答へて曰く、眞に然り。然れども我が友よ。汝は遂に予が靴を穿ちて歩行すること能はざるなり。と。

## (一六〇) 貴族と其の臣下

大貴族あり。其の臣下に對して云ひけるは、予は汝等を満足且つ愉快ならしめんがために大に盡す所あり。と。臣下の者異口同音に答へて曰く、洵に然り。臣等は大に閣下に謝し奉る。と。傍らに一農夫あり。口に一語をも吐かず暫し黙然たりしが、良きありて口を開き、大貴族に云ひけるは、予は閣下に一間を試みるを得べきか。と。貴族は遠慮に及ばずと答へぬ。

農夫 予は二ヶ所に畑を所有し、其の一には肥料を豊かに施せども、耕鋤を力めず、雜草などは蔓々として生ふるがまゝに棄ておきぬ。又他の一には肥料は吝みて施せども、草などは力めて芟除し、善く注意したり。知らず、閣下には孰れが多く收穫ありと思召すや。

貴族 そのは、勿論第二の畑なり。何となれば汝は穀物の成長を自由ならしめられたればなり。

農夫 さればなり。閣下よ。閣下は、夥多の賜を以て予等が頭上に堆くするよりも、予等をして自由に予等が業務を處理すべきやう放任し給はば、予等は之れを以て彼に勝りたる幸福と存するなり。

次に「人類の發達に於ける自然の順序」に至りては、渠が出版せる著作の中にて最も緊要なるものなれども、之れと同時に又最も不満足なるものなりしなり。此の書の如き哲學上の著作には無くて叶はぬ方法順序をば之れを缺きて載する所なく、且つ其の所論の冗長にして讀者の倦怠を促すものあるのみならず、其の終始を通じ、議論の模糊として明快ならざりしが如きは、其の主なる缺點と云はざるべからず。渠が三年間の日子を費して苦辛經營の餘に成したるにも係はらず、其の満足なる結果を得ざりしもの亦由あるかな。然れども、ニーデレルのみは、此の書を評して左の如く云へり。

予は足下の此の書を以て、足下が得意なる心理的直覺の粗野なれども又堅硬なる産物として、之れを賞嘆せざるを得ず。而して、此の書たる予に於ては價值なきものと認むるを得ざ

るなり。予は最も價値ある發見、即ち予の呼んで足下の教育上の方法の萌芽となす所のものをも含有するものとして之れを見んと欲す。と。

思ふに、ニーデルの評は、頗る其の當を得たるものならん。渠は此の書に於て、人に三個の異りたる性質、云はゞ、動物的・社會的及び道德的の三個の異なりたる人格あることを承認するもの如し。其の説に曰く、

動物的人とは、自然の作る所のものにして、肉體的快樂の奴隷となり、明日の事には注意せずして、其の思想は單に今日にのみ限らるゝなり。然れども渠は親切なり、質朴なり、而して其の行爲は率直なり。動物的人は、之れを一個人にしては、其の幼時を支配し、之れを人類にしては、其の初世を支配するものなり。

然れども、動物的人の弱點とも云ふべきは、人を導きて實業に従事せしむること即ち是れなり。而して實業は財産を生じ、財産は競争を生ず。又勢力と能力とに於けるの差は、漸次に位置に於けるの差を生ずるものにして、薄福なる人は、保護せば有力なる人に、先導をば智力ある人に、而して衣食をば富裕なる人に、仰がざるを得ざるなり。社會的狀態こゝに於て

則ち始まる。

社會的人は單に自然の作る所のものにあらず。渠は寧ろ社會の作る所なり。何となれば、渠をして其の自由を制限し、又規則・習慣及び輿論に隨從して、以て其の本分を盡さしむるものは社會なればなり。若し人の幼時を以て動物的人の精確なる肖像と見做すを得べくんば、人の若年は則ち精確なる社會的人の肖像として考ふるを得べし。何となれば、教師・教授、小學及び大學が、其の好む所に從つて陶冶せんとするは、之れを若年に於てすればなり。

然れども、動物的人は社會的人の制御の下に於て靜止するものにあらず。各人皆他人に許さざるの自由と愉快とを以て、之れを自己のために占有せんとす。かくて競争を絶滅せんことを望みし社會は、之れを絶滅する能はずして、單に之れが形狀を變じ、且つ更に之れを普通のものになししに過ぎざるのみ。暴力の使用の禁ぜられたる代りに、攻撃の種々なる方法は發明せられ、相抗論することは今や文明國に於ける常事の如くになりて、各人皆自家防衛の具として之れを使用す。動物的人の親切と率直とは、遂に其の影を隠くして惡意狡猾に偽せる社會的人は、遂に動物的人に代りて立つに至れり。

社會は法律と政府とを必要とす。故に社會は個人に許さざる強制力の權を其の主治者に附與せざるべからず。かくして社會的狀態は一方には支配の精神を喚び起すと同時に、他方には又服従の狀態を喚び起し、人類の自然的不同等を増し、且つ其の功名心及び自負心を大にして、而して全社會を通じて行はるゝ所の競争の原因は、今や眞正の需要を充たさんとの單純なる欲望のみにあらずして、別に幾多の人爲的快樂を無窮に追求するの情念も、また原因其の一とはなれり。

然らば則ち社會的狀態は、秩序・安全・實業・科學及び美術の進歩のためには、大なる利便を與ふるも、人の情操を高むるの一段に至りては、極めて無力なるものならずんばあらず。否、宗教と雖も、已に社會組織の一部分なる限りは、單に表面を形成する所の模型の如きものに過ぎざるなり。故に云ふ。道德的人は社會の作る所にあらず。と。

動物的人は自然の作る所、社會的人は社會の作る所、獨り道德的人に至りては、則ち渠自らの作る所ならずんばあらず。即ち造物主が賦與したる慈悲・正義・愛情・感謝及び信仰の感情の發達と練習との結果ならずんばあざるなり。各人皆人より高く、人より貴く、又人より善

かれかしとの欲望なくんばあらず。而して此の欲望を遂げんと欲せば、渠が自己の性情を鼓舞煽動して以て其の目的のために着々努むる所なかるべからず。所謂道德的人とは、即ち斯かる奮勵努力の結果を是れ云ふなり。而して、社會が斯かる人を以て組織せらるゝ時にこそ、始めて眞實にして且つ完全に幸福なるを得べけれ。

眞の宗教は獨り道德的人のために存在するものなり。何となれば、人はたゞ渠自身の心情を搜索するに依りて、又渠自身の心中に神の面影を存する時にのみ神を發見することを得べければなり。若し此の面影の人の心裡に存せざる時は、渠は自身の面影に依りて神ならぬ神を作るに至るべし。されば動物的人の宗教は偶像教にして、社會的人の宗教は詐謀なり。獨り道德的人の宗教に至りては眞理是れなり。主義是れなり。あらゆる道德の安座する所是れなり。而して渠に間斷なく、自己を進めんと志望と、之れを實行する所の方法とを與ふるもの亦是れなり。

人の進歩するは事實なり。而して、渠自身と、渠の家族と、及び社會とに對して其の價值ある活動は、たゞ渠が他の制御を蒙らずして自ら養成したるの時を然りとす。何となれば、渠

が自ら有する所のものを駁かと所有することは、たゞ此の時にあればなり。渠が動物的本能にも、社會の偏見にも共に奴隸とならず、能く自家の精神心情と共に其の個人性を有するも、亦たゞ此の時にあればなり。

以上は僅かに此の書の一般の規模を指摘したるに過ぎず、而して、著者が最も吾人の耳を驚かすの奇想を吐露せしは、却つて多く其の題意以外、議論の多岐に亘りたるの邊に於て發見することを得べし。且つ渠が其の感情と想像とに誘かれて、當代の制度文物を諷刺し、又は其の多年の宿志なる智徳の進歩を描きて、言々活動し、句々聲音あるが如きの邊に至りては、謂つべし、哲學者たる著者は、既に一化して詩人の境に進み入れり。と。たゞ然り。故に吾人は毎頁、其が氣韻ある雄辯を聞くことを得るなり。渠は此の著作を終るに臨んで、左の如き趣味ある言をなせり。

千人が千人まで(自然の作る所の人)肉體的快樂の腐敗に従ふなり。而して、渠等は此の外更に一物をも願望することなし。萬人が萬人までは、肉體的快樂の奴隸たるものなり。而して、渠等は此の外更に一物をも願望することなし。

然れども、予はかくの如きに満足せざるの人を知る。此の人や、幼時の無邪氣を以て其の樂しみとし、其の人を信するや甚だ固く、其の心操は美事に造られて友愛の情抱すべく、其の性質は渾て是れ愛にして、其の恆久不變の心は即ち其の樂しみの主なるものなり。

然るに、渠は浮世に依りて造られたる者にあらざるが故に、浮世は渠に一の位置をも與へざるなり。渠は浮世よりかくの如き待遇を受くるを以て、萬一過失あれば、浮世は其の果して渠のなるか、又は他人のなるかを問ふを待たず、恰かも壁工の用なき石を砕くが如く、浮世は其の鐵槌を以て渠を砕きたりき。

渠は假令碎かれしと雖も、なほ渠自身のためよりも更に人道のために顧慮したりき。而して、渠は一事業に着手し以て苦辛經營するの間に、他人の概ね知らざる所のものを知ることを得たり。而して後、渠は其の常に愛せし人より正しき評を得んことを望みけるに、圖らざりき、渠は太く失望に遭遇せり。何となれば、渠を評せし人は、毫も渠の言に耳を傾けず、且つ渠を以て用ふるに足らざるものとして擯斥したればなり。

噫、是れ渠が其の運命を轉覆せし所以にして、抑々亦其の零落を招きし所以なり。

渠は今や亡し。渠の失敗せる生活の形見は二三錯雜せる痕跡あるのみ。恰も樹木の枝が涼冽たる朔風に吹き惱まされたるか、又は害虫に其の心髓を嚙まれたる時、生ま青き果實の、其の枝より落ちんとするが如くに渠は仆れたり。然して、渠は其の仆るゝ時、なほ頭を木の幹に憑せ掛けて、呟きて云はく、予は予が朽ちなん屍を以て汝の根を肥やすべし。と。行路の人は、渠が往時を追想して萬斛の涙を其の襟に滿たしつゝ、渠が短生涯の間にも、三伏の夏日を此の木の枝に消せしものから、之れを肥やさんとし落ちたる果實を其の儘になしおきぬ。

諷刺の痛切なる、譬喩の巧妙なる、吾人は一讀して覺えず、拍案嘆稱せずんばあらざるなり。特に最後の一節の如きは、詩情津々として湧き出で來り、愈々味へば愈々甘きの感なくんばあらず。著者が斯かる文學を借り來りて、胸間に鬱勃たる憤慨を漏らしたるの痕跡、以て追憶することを得べきにあらずや。

以上に擧げたる著作は、渠が最初の教育事業に失敗せし後、著作家として暫時閑日月を送りし間に自ら筆を執りて出版したるものなりとす。後ブグドルフ及びイフェルダンに於ても、ベス

タロッテの出版物は頗る多かりしと雖も、多くはクルージーやシュミッドの手に成りたるものにして、ニーデレルの校訂改竄を経て上梓したるものも亦少なからず。故に直ちに渠が老餘の勇氣を鼓して其の健筆を揮ひたる晩年の著作、即ち「鵠の歌」及び「予が經驗」等に就きて少しく讀者に紹介する所あらんとす。請ふ先づ「鵠の歌」よりせん。此の書はなほ貴金屬を多量に含有する鑛山の如く然り。吾人は讀者が其の中に入りて之れを採掘するに吝ならざらんことを望む。

## 鵠の歌

### 其の一 總 說

人間の性質は果して如何なるものぞ。思ふに人性は人を動物より區別し、又その動物と通有する所のものをば、支配し又制御するものたらすんばあらず。かるが故に初等教育は、情・智・體の三者を發達せしめ、以て人の肉體を精神に服従せしむるを目的とせざるべからず。

此の發達は或る一定の行路に依らざるべからざること、此の行路は自然的ならざるべからざること、及び一定不變の法則に依りて支配されざるべからざるものなることは固より明白

たり。

實に人々の相異は如何に大なりとするも、人性の單一にして、其の發達を支配する所の法則の普治なるを動かすこと能はざるなり。

これらの法則は人性の全體に適用し得べく、且つ心情・智能及び體力の間に必要な調和を維持するの用をなす。如何なる教育と雖も、若しこれらの三能力の一を輕視したらんには、これたゞ偏頗の發達を促すに過ぎざるなり。これ既に自然に背戻するが故に、決して眞實にして永存する結果を生ずるものにあらず。遂に自然的發達の調和上に恢復すべからざる有害の結果を及ぼさずんば止まざるなり。

總べて吾人の能力は單に之れを用ふるのみにて發達せしむることを得るなり。かくして、人が愛と信との道德的生涯の基礎を立つるには、これら諸徳の實行に依らざるべからず。其の思想上に於ける智力的生涯は思想するに依りて、其の實業的生涯は體力を使用するに依りて、共に其の基礎を立つるなり。

實に人は其の具有する能力其のものの性質に依りて刺衝せられ、以て其の能力を練習使用

し、又少なくとも其の能力が發達及び進歩を容るゝの性あらん限りは、かくの如くにして以て發達進歩せしむることを得るなり。これら諸能力は最初たゞ萌芽として存在すれども、之れを使用して好結果を得る毎に、之れを使用せんとする慾望は増加するものなり。之れに反し使用の上成功せざるとき、特に失敗が苦痛を惹起するの時に於ては、此の慾望は減縮し、又時としては消滅するものなり。

自然の方法は其の主義に於て神聖非凡のものなれども、若し其のまゝに之れを放任し置かば、遂に動物的本能の制御する所となりて、擾亂せられ、又破壊せらるゝに至るべし。吾人の義務、吾人の滿腔の志望、吾人の信仰及び眞智の目的は、吾人の内に含有する神的元素の手段に依りて、よく此の自然の方法を鼓舞し、之れを維持して以て眞に人類のたらしむべきなり。

請ふ。吾人をして道德的生活・智力的生活及び實業的生活の三面より、人類發達の自然的にして又根本的なる手段を吟味せしめよ。

## 其二 道德的生活

著 作

母たる者其の小兒のために取るべき第一の注意は、小兒の體力的需要に關せざるべからず。母は周到にして柔和なる注意を以て此の需要を満たしめ、以て小兒の満足を樂しみ、之れに對して愛の笑みを漏し、小兒も亦愛情・信用及び感謝の笑みを以て其の母に報ゆるなり。かくの如きは即ち宗教的・道德的發達の最初の表現なり。

然れども、小兒は亦其の需要を満たしたるより生ずる所の平和を感じざるべからず。精神に於ける此の平和は、道德の發達上實に緊急缺くべからざるの要件に屬す。それ心配・困難の平和に代りて起ることあらんか、愛情・信用及び感謝の念は、忽ちに道を自儘・傲慢及び其の他の惡感情に譲りて去らんのみ。

小兒の精神に於ける平和の缺乏は、往々其の速に満たされざるより來る。此の場合に於て、小兒は待ち兼ねて苦痛を生じ、ために怒り激するに至るべし。故に遂に其の需要を満たされたりとて、遲つこと久しきの故を以て、愛情・信用及び感謝の淵源なる靜謐の愉快を呼び起さず、たゞ激烈なる動物的本能に訴ふるあるのみ。

小兒に於ける此の不満足は、往々又之れと全く反對せる原因即ち注意の過ぎたるよりして

起ることあり。吾人は蛇足に屬する注意をなして、小兒の要する凡てを豫想し、及び其の傲慢、及び動物的嗜好を鼓舞して、以て小兒に快樂を與へんとすることあり。かくて吾人は單に小兒の眞の需要を満足せしむるのみならず、其の貪慾心を喚起し、而して貪慾心は常に満足さるべきものにあらざるが故に、小兒は必ず拒絶に遭遇して失望せざるを得ざるなり。而して拒絶と失望とは共に其の性情を傷くるのみならず、又其の心操に於ける善の發達を停むるものなり。

### 其の三 智力的生活

思想の出立點は感覺即ち外界が吾人の官能の上に生ずる直接印象即ち是れなり。かくして思想力は道德官能上に於ける道德界の印象、肉體官能の上に於ける物質界の印象に依りて發達せらるゝものなり。

これらの印象が小兒の理解力の上に働き、以て最初の觀念を與へ、同時に始めは符號に依り、次には言語に依りて、其の觀念を表はさんと志望を生ぜしむるなり。

かるが故に、言語を小兒に教ふるに當り、吾人は先づ夥多の事物を小兒に見聞せしめ、又



之れに觸接せしめ、特に其の好む所の事物に觸接せしめざるべからず。是れを以て渠は容易に事物に注意を與ふることを得るなり。吾人は又小兒をして順序的に事物を觀察せしめ、一事を充分に觀察したる後ならでは、他事に移らしむべからず。同時に渠は其の具有する印象を絶えず言語に表はすことを實行せざるべからず。以上の如きは凡て賢母が其の小兒の語り始むるに至れる頃、之れがために盡す所のものならざるべからず。

然れども、小兒は亦事物を比較し、及び判斷することをよくするの前に當りて、人智の二個の他の元素、即ち數と形とに於て其の思想を運用せざるべからず。

然らば則ち思想の力を發達せしむるの用をなす所の根本的元素は、語・數・形の三者ならざるべからず。而して極めて簡單なる方法に於て、又心理的及び進歩的順序に於て、小兒の心上にこれらの元素を現出せしむること、是れ實に教育の要務とする所なり。

#### 其の四 實業的生活

藝術、實用的智識、四肢の熟練、即ち一言以て之れを蔽はゞ、人をして其の心に自覺したる所のものを實行せしめ得るものならんには、其の如何なるものたるに拘はず、吾人は之れ

を呼んで實業的生活となすなり。其の根本的元素果して如何、及び其の發達の狀態は果して如何。

其の根本的元素に二あり。一を内界に屬する思想の力となし、一を外界に屬する五官及び四肢の實用的熟練なりとす。實業的生活をして極めて有用ならしむるは、情・智・體の調和發達の結果ならずんばあらず。吾人は已に智と情とに就きて語りき。又體の發達の根本的元素に就きて考ふる所あらむ。

數と形とに於ける初等の練習が、智力的生活を訓練するに必要なが如く、技術及び實用的動作は實業的生活の成功に缺くべからざる所の身體訓練の必要なる部分なりとす。修藝の年期奉公なるものは、またたゞ此の訓練の一種に外ならざるなり。

なほ吾人が智力的及び道德的能力の自然に活動的に傾くが如く、又これらの諸能力を練習するに於ける如何なる物も吾人を引き付けるが如く、吾人の實業的能力は恰も之れと一樣なる自然的傾向を有し、又此の能力を練習發達せしむるための如何なる物にも吾人を引き付けるなり。

吾人を導きて吾人が覺官及び四肢を使用せしむる所の肉體的本能なるものは、概ね吾人の動物の性質と相關するものにして、吾人は又特に之れを維持し又は鼓舞するを要せざるなり。然れども、此の本能は智力的及び道德的の元素に從屬せしめざるべからず、而して此の服從を招致するは、是れ即ち教育の本業なり。智力的及び道德的諸能力に適當に服從せる肉體の諸能力の練習は、規則正しく又勤勉なる家族的生活の訓練より生ずるや必せり。

#### 其の五 初等教育に關する予の意見

生活は教育者なり。實にこれ初等教育に於ける予が幾多の事業に於て、常に予を先導案内する一大主義なりき。吾人は今智・徳・體の三個の見點よりして、此の主義の結果が如何なるものなるかを考究せんと欲す。

道德の方面に於ても初等教育は家庭と相關するものなり。何となれば、其の主なる方法の如きは、之れを家庭的愛情の間に發見することを得なければなり。而してこれらの家庭的愛情なるものは、神の愛及び信の出立點、即ち換言せば道德及び宗教の出立點として、人心に賦與せる自然的本能的の情操に外ならざるなり。予等の學校にて、予等の經驗が、小兒のな

ほ搖籃中にありし頃より始まらざりしは、固より事實なるも、予等が教授法の簡單なる、之れを予等に委托されたる小兒よりなほ年若き小兒の道德教育に施すも、敢て不都合なかるべし。凡そ小兒の愛と信とは、渠が考へ、又働く以前に始まるものなり。小兒は家庭の影響のために、其の道德力の感覺を發達す。予等は經驗に依りて一の確實なる結果を得たり。此の結果たるや、幾多識者の歡迎する所となれり。何ぞや。曰く、初等教育の方法是れなり。此の方法は、小兒をして各自所修の智識を他に分與することを得しむるものなるが、其の道德發達上に於ける良好の影響は著しく信用と友愛とを鼓舞せり。而して、斯かる愛と信とは現今世にありふれたる人爲的・不自然的教育の方法のよく鼓舞する所にあらざるなり。

智力の方面に於ても亦生活は其の教育者なり。何となれば、印象を領受し、注意力及び思想力を順次に發達せしむるものは生活なればなり。觀察及び經驗に依りて印象を受くる能力は觀念及び感情を生ず。説話の能力は之れを使用するに依りて發達するものなり。自身を人に了解せしめ、又自身に人を了解するを得るは實に説話の力なりとす。此の力は決して言語の智識より産出すべきものにあらずして、言語の智識は寧ろ此の力より産出すべきものなり

とす。

説話は單に生活の結果のみならずして、又生活の條件なり。是れ即ち其の發達が社會上の位置と共に變ずる所以なりとす。かるが故に教授の方法も亦隨つて變ぜざるを得ず。而して又生活の資財及び需要に依りて決定せざるべからざるなり。然れども、なほ他に一層高き發達を要する需要物こそあれ。人は單に衣食のみを以て生活するものにあらず。小兒は各々宗教的發達を要するものなり。信と愛とを以て、將た其の素朴の心操を以て、如何に神に祈禱すべきかを知らんと欲するものなり。最も卑汚なるものをして高尙ならしむる所のものは實に此の需要なり。而して、此の需要は言語と思想との手段に依りて満足すべきが故に、又道德的并に智力的に言語と思想とを發達するものなり。

實業或は美術的方面に於ても、また生活は教育者なり。實業的能力は二個の元素を含む。即ち一は智力的・内部的のものにして、語・數・形の實地の練修に依りて發達したる思想の能力是れなり。二は即ち體力的・外部的のものにして、使用に依りて發達されたる五官及び四肢の能力是れなり。かく種々なる發達は初等教育の觀念即ち自然の方法を以てして始めて遂ぐる

を得べく、而して小兒の性癖・需要及び自然の嗜好に基づきて、相互の聯絡あり、又注意深く順序を立てたる練習よりして生ぜずんばあらず。

然らば、美術若しくは實業に關して、小兒が最初に其の能力を如何に使用し又進歩せしむるかを知らんには、之れを實際的生活の需要及び境遇に於て、將た其の一家の内に於てせざるべからず。かくて、初等教育の觀念は善く智・徳・體の諸能力に等しく適用せらるゝなり。此の觀念は最初より小兒の活動を鼓舞し、小兒をして眞に其の自力より出づる結果を生ぜしめ、且つ之れと同時に小兒に與ふるに、奴隸的に他人を模擬するの擧をなさずして、自然的に發動する所の能力并に意志を以てす。

幾多の人が全く熟練・嗜好若しくは獨創に缺けたるを見れば、以て斯かる教育の主義がなほ甚だしく無視せられたることを知るなり。是れ實に世の百人中の九十九人までが、自ら事物を創作することなく、單に習慣若しくは時流の傾向に隨ふ所以なりとす。而して上流社會に於ては、其の嗜好のためよりも、寧ろ倨傲のために奢侈的快樂を取る所以も亦此の理由に外ならざるなり。

以上は、たゞ此の書の中より極めて興味ありと考ふる部分を抄出したるに過ぎずして、固より其の一斑を示すに止まれり。若しそれ渠が此の書の最後の頁に於て説ける所のものを聞かば、以て此の書が如何なる目的に依り著述されたるかを知るに足るべし。

あらゆる事物を吟味せよ。苟くも善からんものには、飽くまで固執せよ。若し諸君にして善なるものを發見したらんには、請ふ、予が今愛情と眞理とのために諸君に附與せんと企てつゝある教育説に之れを添加し給へ。如何なる場合に於ても、予が生涯の事業を以て、既に非難せられて再び研究するの價値なきものとして擯斥し給ふことなかれ。予が事業はなほ未だ非難せられざるなり。而してなほ熱心に注意するの價値あるなり。抑々之れに注意するは、豈に予がためならんや。またたゞ其の事業のためなるのみ。

渠が老餘の勇氣を鼓して椽大の筆を此の書に揮ひしもの、また由なくんばあらざるなり。「予が生涯の経験」に就きては前章既に之れを一言し置けるが、渠は此の書に於て其の事業及び計畫の屢々蹉跌せし所由を明かにし、而して、其の責をば一切に自己に歸し、以て其の事業の價値なきがためにもあらず。又其の基づきたる根本的理想の誤謬にもあらざること示さん

とせり。吾人は此の書に就きては復多く云はざるべし。たゞ、千八百十年より同十六年に至るの間、ベスタロッチの補助たりし、プロツツマンの此の書に關する評言を記して足れりとせん。

渠は其の「経験」に於て幾多の偉大なる眞理を説明したりき。渠と共に生活して其の事業を觀察したらん者は、必ずや此の書が二個の大誤謬を有せるにも係はらず、其の觀察と判斷との概して確實なることを認め得べけん。二個の誤謬とは何ぞ。即ち一は渠自身とイフェルダン學校の價値及び結果とに對する謬見にして、他はシュミッドの事業を過重し、且つ此の人の信實と仁愛との假面の下に潜める眞性質を誤謬せしことなり。

以上舉ぐる所の外、渠は千八百二十六年四月二十六日ランゲンタールの演説にて、社會問題に關し大に氣焰を吐きしことありき。渠は始めに瑞西が其の獨立戰爭後に享有したる幸福の狀を描きて曰く、此の時に於て瑞西は内には平和を樂しみ、外には名譽を輝かし、其の需要は其の資産に比例し、宗教・愛國・親切及び節制の念は、各人の心を支配したりき。而して、封建制度より遺傳せる權利の不同等なるにも拘はらず、其の人民の生活の境遇・風俗及び習慣等に至りては、實際上みな平等一様なりき。且つ此の時代に於ては人民の大部分みな各々多少の土地所有

者にして、格外に富める者、格外に貧しき者の如きは甚だ稀れなりき。

渠はかく往時の幸福を描き置き、次に改革及び外國との密接なる關係、特に瑞西に實業的生活の輸入せられたる等の影響のため、狀勢全く一變したることを示せり。

大工業の盛大なる所には、富及び普通娛樂の増加の起るは必然の事なり。然れども、之れに伴ふ普通需要の増加に至りては更に甚だしきものあり。且つ富の分配に於ける不平等の如きも、また之れに伴ひて頗る大なり。

一方に於ては二三巨大の財産家があるがために、大都會の豪奢なる例は直ちに示され、他方には之れと同時に、雙腕の外、智識なく先見なく、又節儉ならざる輩のみ駭々として増加するは免れざるなり。之れがため、日頃はさしも多數なりし小地主の多くは、今や工業より得べき黄金の光りに眩惑して、田圃の勞働を打捨て、遂には無一物の人となり了れり。

渠は、かく時事の日に益々非に趣くこと、及び之れがために社會的秩序と文明とに對して、危険の倏忽にして釀成せらるべきを説き、且つ社會の此の禍害と戦ひ之れを救済する唯一の方法として、初等教育が如何なる人にも施し得らるゝに至らんことを切望したりき。

之れを要するに、渠が著作は種々ありと雖も、概して其が眞心の發動にあらざるはなし。蓋しこれ渠が意志の名利に左右せられざるの致す所ならずんばあらず。故に其の激動的天才を不秩序的に吐露し來りて、論理の作法に拘泥せざるが如き、其の滿腔の熱血を披瀝し去りてまた前後を顧みず、左右を憚らざるが如き、眞に光芒陸離、文氣當るべからざるの概なくんばあらず、渠が人性を觀察して深且つ遠なるを得たるも、其の同情と教育に熱心なるとに由らずんばあらず。渠は世の所謂著作家として立てるものにあらず。然れども、眞正の著作家は須らく渠の如くなるべきなからんや。

### 一三 逸 事

ベスタロッチの生涯及び事業に就きては、吾人既に詳叙する所ありき。渠は極めて不可思議なる人にして、大人の如く、小兒の如く、奇人なるが如く、狂人なるが如くなりき。其の生時にありて、公衆の誤解を招きしもの蓋し偶然にあらざるなり。若しそれ渠を知るの最も詳ならんを欲せば、其の遺聞逸事の如きも亦之れを忽にすべきにあらざるなり。

それ虎を描きて猫に類するものは、世固より其の例に乏しとなさず、世の偉人を學ぶ者、概ね其の殘滓餘瀝を嘗めて其の眞相骨髓を得ず、其の外形皮相を模して、其の本領特質に及ばず。是れ甚だ惜しむべき事にあらずや、世のベスタロッツの逸事を讀む者、また深くこゝに留意する所なかるべからず。

ベスタロッツの「レヲナルドとゲルトルード」の第一卷を公にして、好評噴々たるの時に當りては、名士識者の渠をノイホフの寓に訪ふ者甚だ多かりき。然れども、渠は毫も誇る色なく、其の簡朴質素の精神は依然として變ぜざりきと云ふ。一日、人の渠を晝飯の饗應に招く者ありけるが、渠を迎へんとて、馬車を送りたるに、渠は之れに乗りし時、馬丁をして己が傍に坐せしめたりと云ふ。又チャールス・ドボンステランは、渠の來りて其の別荘に滞在せんことを勧め、其の他幾多の有力家もまた之れに等しき招待をなせしも、渠は斷じて其の住み馴れし寒村ノイホフを去らざりき。其の質素簡朴、概ね此の類なり。未だ半面の識をも得ざるに、叨りに知を權門勢家に需むる今世の人に比するに、其の差管に宵壤のみならざるなり。渠がブルグドルフの古城に在りし時、其の一部分は當時なほ獄舎として使用せられしが、此の時に於ける渠に

就きて、頗る興味ある物語あり。これラムザリアの吾人に告ぐる所なり。

此の獄舎にはベルンハードと呼びて、巨人の如くに魁梧剛強なる有名の一罪人ありき。渠は幾回となく、脱獄して其の都度捕へ戻されたれども、一回は一回より益々奥深き獄舎に押し込められ、今は極めて奥深き一室に繋がれたり。ベスタロッツは、折り／＼渠を獄舎に訪ひ、若干の金を渠が手に握らしめて、之れに云ひけるやう、若し、汝にしても善良なる教育を受け、以て善良なる目的のために汝の能力を使用したらんには、今は極めて有用なる社會の一人物となりたるべし。而して、獄舎に投ぜられて犬を扱ふ如くに束縛せらるゝに引き換へ、厚く人々の恭敬尊重を受けしなるべし。と。

諄々乎として罪人に訓誡し更に餘念なきの所、實に聞く者をして憫々の感に堪へざらしむるものあり。富貴に交あるを誇り、貧賤に友たるを愧ぢ、苟くも高帽美髯の徒と見れば、之れに語を交はすを以て無上の榮となし、意氣揚々、晏子の御者たるを喜ぶ者、世固より其の人に乏しからず。世と人との捨てられ、人類中の最悪人を以て視らるゝ囹圄中の人と語りて平然怪まらず、且つこれに憐愍の語を加へて訓誡せるベスタロッツの如きに至りては、知らず、滿天下果し

て幾人かある。

渠がブルグドルフに在りし時、一日痛くりユーマチスに惱みて病床に横たはりたるに、會々佛國大使レーンハート學校を參觀せんとて來れり。ベスタロッチ之れを聞くや、醫師及び友人の切なる忠告あるにも係はらず、病を力めて起たんことを主張して止まざりき。頓がて纒かに立つことを得て、着衣も非常の困難を以て漸くに整へたるほどなれば、傍にある人々皆言を齊うして、到底應接談話に堪へざるべきを告げ、囚りて再び臥床に復せんことを勸めて止まざりけるが、渠は之れを耳にだに留めず、辛くも友人の手に憑れて病室より出で來れり。然るに一たび佛國大使を見るや否や、忽にして其の身體を自由に扱ひ、熱心に其の學説を辯説し初めたり。かくて、談論歩を進むるに隨ひ、益々氣力を回復し、快活の狀態に加はれり。而して、其の談論の終るや、リユーマチスは何處に失せたるか、全く消えて影だに留めずなりぬ。

満身の元氣、以て病難を驅り、痛苦を壓す。此の間の消息、豈に醫藥の萬能を信仰する者の得てよく解する所ならんや。

此の頃の事なりけん。ベスタロッチの友人なるフェルレンベルグは、ホフウキルに一の實業學

校を設けて之れを管理しつゝありしが、一日其の學生の二三輩、一の憐れむべき風體の人をフェルレンベルグの前に連れ來りて之れに云ひけるは、予等は此の人の飢と疲れとに由り半死半生の體なりしを田圃の間に發見せりと。誰か圖らん、這是れベスタロッチ其の人ならんとは。渠は如何にしてこゝに至れる乎。渠は鑛物採集の熱情に驅られて、其の手中と衣囊とに溢れんばかりに鑛物を充たし、斯かる程遠きあたりまで彷徨し來りて歸路を失ひ、遂には疲れて死人の如くに、とある溝の側に倒れ臥し居たるなり。又同じ頃の事なりけん。渠が石を以て其の手中を充たし、痛く疲れて其の脚を曳きつゝ歩み居たるに、一巡查あり、渠を認めて胡亂なる乞食とし、之れを警察署に拘引し、頓がて之れを法官の前に立たしめたり。然るに法官は折りしも外に出で、不在なりしかば、渠はやゝ暫くの間、前堂にて看守人と共に待ち居たりき。頓がて法官の歸り來るや、其のベスタロッチなるを知りしかば、鄭重に之れを待遇し、且つ之れを招きて晚餐を供したり。始終を傍觀せし看守人の驚愕は實に大方ならざりきと云ふ。鑛物採集の熱情に驅られて奇禍を買ふこと前後二回、奇行渠の如きは世多く其の儔を見ざる所なり。

イフェルダン學校の初年の頃なりき。常に放念して胸中又餘裕なきベスタロッチは、毫も其の

身を休息せしめず、又久しく一所に座せしことなし。否、渠は決して一所に座すること能はざりしなり。渠は隻手を背後に回すか、或は上衣の胸部に置き、他の隻手を以て、齒間に襟飾の端を弄しつゝ此の古城の廊下に往來するを例としき。斯くして渠は毎日課業の中程に教場に現はれ來るを習ひとしけるが、若し教授に満足するときは、喜色満面に溢れ、小兒の頭を撫で靡り、且つ之れに向ひて愉々然語をかくるを常とすれども、之れに反して、教授に懽らざるの時は、後ろさまに戸を排して腹立たしく教場を立ち出づるを常とせりとぞ。高標清致、以て自ら重んずるの風なしと雖も、其の天真爛漫にして毫も邊幅を飾らざるの所、小兒らし、くも又愛すべきにあらずや。

ラムザーアは渠に就きて又吾人に告げて曰く、

千八百十二年より同十四年に至る三年の間は、ベスタロッツの予に於ける信用及び友愛の最も著しく表せられたる時なるが、渠は此の期に於て毎日晝飯後ベスタロッツ夫人の室か、又は其の信實なる家宰クルージー夫人の室にて珈琲若しくは酒を饗せんとて、人をして予を呼ばしめたり。かゝる折りには、渠は甚だ快活の色あり、又機智を弄して人の願を解かしめ、其の滑

稽は頗る光彩あるものなりき。蓋し渠は全く時の感情のまにまに意を虚しうせるを以て、其が口より出づる所のものは、一として巧且つ妙ならざるなし。又僅々半時間の間にも、渠は倏ちにして非常に愉快に、又倏ちにして非常に憂鬱に、柔和にして忸怩たるかと思へば、又眞面目にして嚴格なることあり。一言一行、凡て是れ熱誠の溢れたるものならざるはなし。

多感多血なるベスタロッツが面影を描き得て盡せりと謂ふべし。

千八百十四年正月九日、イフェルダン市にては、其の頃起りたる那破翁に對する同盟軍の病傷兵のため、病院を市内に建設すべきの命を受けたりき。然るに此の病院に來るべき兵士は多く傳染病に犯されたる者なりしかば、若し命のまゝに實行したらんには、其のイフェルダンに及ぼすべき影響の甚だ危険なるは固より論を待たず。是れを以て市民は其の處置に就き日夜憂慮して措く能はず。遂に市民の代表者二人を大本營地に遣して前の命令の撤去を乞ふことに決しき。而してベスタロッツも病院を設くるに至れば其の學校に尠なからざる妨害を蒙るべきを以て、例の代表者に伴ひて共にバゼルに於ける大本營指してぞ出立しける。此の時市の代表者が、ベスタロッツの眞價に就きて殆ど知る所なかりしは眞に事實なりとす。されば渠等はベスタロッツが其



の一行に加はるを以て、却つて不名譽なりと感ぜしは疑ふべきなし。而して、是亦怪むに足らざるの事なり。何となれば凡俗の眼には粗服を装ひて毫も容儀に顧念せざる渠が如き者は、一種奇異なる老人の如くに見ゆべければなり。然れども、バゼルに到着した後、ベスタロッチが同盟國諸王の歓迎する所となりしを目撃するに及びて、渠等の驚駭は果して如何なりしぞ。渠等は正月二十一日を以てイフェルダン市に歸りぬ。渠等は其の翌日市廳に復命して曰く、予等の使命は完全なる成功を得たり。而して、ベスタロッチ君は非常なる歓迎を受けられたり。と。

吁、此の老翁は何處に在りても奇態なりしが如く、大本營にても亦甚だ奇態なりき。渠は露國皇帝及び其の臣下の面前にありし時、好機失ふべからずとなし、直ちに教育改革と奴隸の解放とに關して辯論を開きたり。かくて渠は熱衷の餘り、竟には己れの位置をも忘却し、一言は一言より一句は一句より益々皇帝の前に接近し來りしかば、皇帝は止むなく自ら其の位置を退き給へり。然るに渠はなほ未だ悟らず、益々辯論の歩を進めて自身は畢に壁際まで詰め寄り、飽くまで其の蘊蓄を吐露したる後、始めて身の不謹慎なりしことを悟りき。こゝに於て乎、渠は直ちに謝辭を述べて皇帝に接吻せんことを求めたるに、皇帝アレキサンダーは懇篤に渠を抱

き給へり。

同年、普魯西王は再び其の有に歸したるヌーシャテルの領地に行幸ありけるが、此の地の人民は歡呼鼓噪して王を迎へたりき。王の此所に滞在せし時、ベスタロッチは其の病痼甚だ重きにも係はらず、往きて王が幾多の留學生を渠に送られしを謝する所あらんと熱望し、これら留學生が他年歸國の後、企つべき事業の緊要なることを王に告ぐることを忘れざりき。此の行、渠に伴ひたるラムザニアは左の如く云へり。

此の旅の間、ベスタロッチは屢々消え失せんばかりに病氣を發作したれば、予は止むを得ず渠を車より下して近隣の家に伴ひたり。予は絶えず家に歸らんことを渠に勧めたるに、渠は云ふ、再び言ふ勿れ！、予は生命を賭しても王に會見せざるべからず。若し予にしてたゞ一人の普魯西兒童のために善良なる教育を施すことを得ば、予は即ち充分に報酬を受けたるものなり。と。

かくの如きの熱心、かくの如きの氣力、若しそれを渠に求めなば、豈にたゞ二三にして止まんや。

ベスタロッチの愛好せる目的は、貧民學校設立の計畫にありき。渠は之れよりも更に有用なる計畫を打ち忘れ、時々貧民學校設立の宿望を實行せんと務めたり。

シュミッドはなほ此の外幾多の爲さざるべからざるものあるを感ぜしかば、之れに對して常に頑硬なる反對をなせり。然るにベスタロッチは其の持論を主張して、曾て撓むことなかりき、此の争論に就きて笑ふべき一話あり。ベスタロッチ一日其の貧民學校の設立に關して、シュミッドに對し熱心に論ずる所ありしが、シュミッドは聽くだに厭ひて、獨りベスタロッチを残し、外方さして馳せ去りぬ。こゝに於てベスタロッチは渠を捕へんとて、暫しの間逐ひかけたれど、遂に及ばざりしかば腹立たしさの餘り、シュミッドを目掛けて其の靴を投げ付けたりきとぞ。白髮の老翁なほ此の稚氣あり、眞に愛すべきにあらずや。

珍聞奇話已にかくの如きあり。其の奇人を以て目せられし所以のもの、抑もまた山なくんばあらず。而して奇行の底裡に眞面目の存在することは、吾人の看過する能はざる所にして、固より世の所謂放達者流と日を同じうして論すべきに非ざるなり。

それ公平無私の心を以て、有のまゝに渠を讀者に紹介するは、吾人の本務なりと雖も、抑も

またベスタロッチの吾人に望む所ならずんばあらず。吾人は既に讀者に材料を供しき。其の渠に對する判断の如きは、請ふ、之れを讀者の方寸に一任せん。

附 録

ペスタロッチ年譜

- 一七四六年 一月十二日瑞西チュウリックに生る。
- 一七五〇年 五歳にして父を喪ふ。
- 一七六〇年 チュウリック大學に入り神學を修む。
- 一七六三年 神學を廢して法學を修む。
- 一七六五年 「アヂス」を著す。
- 一七六七年 法學の研修を廢し從來草したる論文を火にす。
- 同 年 より農學に心を寄す。
- 同 年 アンナ・シュルテスと結婚を約す。

- 一七六九年 九月三十日アンナとの結婚式を舉ぐ。
- 同 年 より農業改良事業に着手す。
- 一七七〇年 子ジャコブ生る。
- 一七七四年 冬初めて教育事業に着手す。
- 一七七五年 農業改良事業全く失敗に終る。是れより専ら貧民教育に従事す。
- 一七七六年 貧兒教育に關し、大方の仁人君子に訴ふる趣意書を公にす。
- 一七七七年 貧兒教育に關する三論文を草す。
- 一七七八年 ノイホフ貧兒教育所の説明を公にす。
- 一七八〇年 財政及び其の他の障碍の爲め貧兒教育所を閉づ。
- 同 年 「隱遁者の夕」を著はす。
- 一七八一年 「レオナルドとゲルトロルド」第一卷を著はす。
- 一七八二年 「クリストファとエリザ」 「家庭に於ける小兒の教育」を著はす。
- 同 年 週刊新聞を發行す。

- 一七八三年 「レオナルドとゲルトロード」第二卷及び「立法と嬰兒殺し」を著はす。
- 一七八五年 「レオナルドとゲルトロード」第三卷を著はす。
- 一七八七年 「レオナルドとゲルトロード」第四卷を著はす。
- 一七九一年 子ジャコップ、アンナ・マデリン・フレリーンを娶る。
- 一七九二年 「佛蘭西革命原因論」を著はす。
- 一七九七年 「人類の發達に於ける自然の順序」を著はす。
- 同 年 孫ゴットリーブ生る。
- 一七九八年 政治上の小冊子を著はすこと數部。
- 同 年 十二月スタンツ孤兒院長となる。
- 一七九九年 六月スタンツ孤兒院を閉づ。
- 同 年 七月ブルグドルフ公立小學校教員となる。
- 一八〇〇年 ブルグドルフに私立小學校を設立す。
- 同 年 クルーヂーを得て補助者となす。

同 年 子ジャコップ逝く。

- 一八〇一年 「綴字、讀方教授法」「時代」「宗教教育」を著はす。
- 一八〇二年 代表者として佛國巴里に開きたる議會に列す。
- 同 年 那破翁第一世に調す。
- 一八〇三年 クルーヂー、ブス等と共に、數多の著述をなす。
- 一八〇四年 學校をブルグドルフよりムンヘンブッフゼーに移す。
- 一八〇五年 學校をイフェルダンに移す。
- 一八〇七年 ニーデレルを助手として、數多の著書を公にす。
- 同 年 より十一年に至るまで、教育毎週雜誌を發刊す。ニーデレル其の他のもの之れを助く。
- 一八一四年 那破翁に對する同盟國帝王に謁し、大に其の厚遇を受く。
- 一八一五年 十二月十二日夫人アンナ逝く。
- 同 年 「我が國の有志者に告ぐ」を公にす。

- 一八二〇年 「數の練習」「大さ及び形の練習」を著はす。シュミッド之れに與る。
  - 一八二二年 「實業・教育及び政治に關する意見」を著はす。
  - 一八二五年 イフェルダン學校廢す。
  - 同 年 シュミッドと共にイフェルダンを去つてノイホフに至る。
  - 一八二六年 「鶴の歌」「予の經驗」を著はす。
  - 一八二七年 二月十七日没す。
  - 一八六三年 孫ゴットリーブ死す。
- 「曾孫大佐ベスタロッチはチユウリク工部大學教授たり」

ペスタロッチ終

大正十五年十一月十日印刷  
大正十五年十一月十五日發行

版權  
所有

ペスタロッチ

定價貳圓四拾錢

著 者 澤 柳 政 太 郎

發 行 者 東 京 市 外 中 野 町 中 野 三 六 三 一

三 浦 藤 作

印 刷 者 東 京 市 神 田 區 旭 町 七 番 地

大 沼 勝 藏

東京市外中野町中野三六三四

發行所 帝國教育會出版部

振替東京六八二八六

【次取大】

東京堂 益文堂 北隆館  
 東海堂 大東館 上田屋  
 柳原書店 川瀬書店 菊竹金文堂

帝國教育會  
出版部

# 發行書目

カントの道德哲學	松永 材氏著	一圓三十錢	送料八錢
新カント實踐理性批判	松永 材氏譯	二圓二十錢	送料八錢
カント哲學への道	越川彌榮氏著	二圓二十錢	送料八錢
奮闘五十年	市川新松氏著	二圓二十錢	送料八錢
學校職員新恩給法解義	門田重雄氏著	二圓	送料八錢
精神科學派の哲學及教育學說	三浦藤作氏著	一圓五十錢	送料八錢
解明哲學概論	三浦藤作氏著	一圓五十錢	送料八錢
西洋哲學小史	三浦藤作氏著	一圓五十錢	送料八錢
倫理學研究者のために	三浦藤作氏著	一圓八十錢	送料八錢
エレン・ケイ	原田 實氏譯	一圓六十錢	送料八錢

附近の書店になければ發行所へ直接御申込下さい

發行所 東京市中野町中野三六三四 振替東京六八二八六

帝國教育會出版部

早稻田高等學院教授 文學士 松永材氏著

## カントの道德哲學

四六判百七十頁  
定價一圓三十錢  
送料八錢

難解なカントの道德哲學を最も明晰に叙述したるもの、最近に出たカント研究上の文献として永久に残る名著であります。カントの倫理學說を本書によつてはじめて徹底的に理解することを得たといつて居る人も尠なくない。本書の如きは既に學界に定評あるもの、徒らに多くの辭を列ねて紹介するまでもない。殘部僅少未だ本書を手に入らざる人々は至急購讀ありたし。附近の書店になければ、直接左記發行所へ申込まれたい。直に送附します。

目次

一、倫理學と實踐道德	六、命令性	三、目的
二、批判的方法	七、二元性	四、自由人格及び物件
三、道德と自然	八、無上命法と條件的命合	五、理性的信念
四、論理學と倫理學及先天性	九、義務	六、道德的感情
五、人格性(實踐理性)	一〇、自律と他律	七、靈の不滅と神の存在
	一一、行為	八、結論

### 發行所

東京市中野町中野三六三四  
振替東京六八二八六

帝國教育會出版部

三浦藤作氏著 「教育講座」 第二一篇

四六判二百十頁  
定價一圓五十錢  
送料八錢

# 明解 哲學概論

哲學概論は其の數が、非常に多く出て居りますが、本書ほど、明瞭に哲學の全體に亘る諸問題を述べ盡したものはありません。從來の哲學概論は、どれを見てもわからないと云ふ嘆聲をよく聞きました。が、本書が出づるに及んで、またかくの如き嘆聲を發する必要はなくなりました。該博な研究に加へて、非常なる能文の人でなければ、斷じて出來ない名作であります。是非一讀を希望いたします。(附近の書店になければ直接發行所へ御申込み下さい)

## 目次

### 第一章 序説

- 一 哲學とは何ぞや
- 二 哲學の語義

### 第二章 哲學の起原

- 一 哲學の心理的起原
- 二 哲學の歴史的起原
- 三 哲學と他の文化

- 一 哲學と科學
- 二 哲學と宗教
- 三 哲學と藝術
- 四 哲學と道德

### 第三章 哲學の内容

- 一 哲學の目的
- 二 認識論
- 三 倫理學
- 四 政治學
- 五 經濟學
- 六 社會學
- 七 教育學
- 八 宗教哲學
- 九 自然哲學
- 十 科學哲學

### 第二章 認識論

- 一 認識及び認識論の意義
- 二 認識論の性質
- 三 認識論の問題
- 四 認識の可能
- 一 獨斷論
- 二 懷疑論
- 三 批判論
- 四 其の他の諸説
- 一 純理論
- 二 經驗論
- 三 批判論
- 四 カント以後の諸説
- 一 實在論
- 二 現象論
- 三 觀念論
- 四 現象論

### 第三章 實在論(本體論)

- 一 實在論とは何ぞや
- 二 實在及び實在論の意義
- 三 形而上學の概念
- 四 實在論の問題
- 一 實在の本質
- 二 一元論(唯物論・唯心論・同一論)
- 三 二元論
- 四 多元論
- 一 實在の生成
- 二 機械論
- 三 目的論
- 四 調和論
- 一 實在の窮竟
- 二 有神論(一神論・多神論・無神論)
- 三 價值論
- 四 價值論とは何ぞや

### 第四章 價值論

- 一 價值及び價值論の意義
- 二 文化哲學の概念
- 三 價值論の諸問題
- 一 價值の本質
- 二 價值判斷の根據
- 三 理想の構成
- 一 眞理的價值
- 二 倫理的價值
- 三 美的價值
- 四 宗教的價值
- 一 價值の統一
- 二 形式上の統一
- 三 内容上の統一
- 一 人生觀
- 二 職世觀
- 三 樂天觀
- 四 調和説

## 發行所

東京市、中野町、中野、三三四  
振替東京六八二八六

帝國教育會出版部

三浦藤作氏著 「教育講座」 第三篇 四月十日發行

# 西洋哲學小史

四六版二百二十頁  
定價壹圓五十錢  
送料八錢

上下三千餘年に亘れる西洋哲學の變遷を最も明述に叙述したるもの、哲學史を命名せる書、多き中にも、未だ嘗て本書の如く要領を得たものはない。難解の哲學史、僅々數時間に於て、充分に消化され、我が知識となる。内容の精選、叙述の名文、二つながら堂に入れるものである。

## 目次

### 第一篇 古代哲學史

- 第一章 創始時代の哲學
- 第一節 ミレトス學派
- タレリス
- アナキシマンドロス
- アナキシメネトス
- ヘーラクリイトス
- 第二節 エレアネトス
- クセノフアネトス

### 第二章 組織時代の哲學

- バルメニデース
- ツエノーン
- メリツソス
- 第三節 ビタゴラス學派
- ビタゴラス
- 第四節 元子論者
- エムベドクレトス
- アナキサゴラス
- アイモクソトス
- ロイモクソトス

### 第一節 ソフィスト

- プロタゴラス
- ゴルギアス
- ソフィストの功罪
- 第二節 ソクラテス
- 倫理論
- ソクラテス學派(ヘメテラ學派・キニク學派・クレネ學派)
- 第三節 プラトーン
- イデア論

### 第二節 新プラトーン學

- プロテイノスの哲學
- 新プラトーン學派の變遷

### 第二篇 中世哲學史

- 第一章 教父哲學
- 第一節 前期の教父哲學
- 正統派
- 異教派
- アレキサンドリアの教
- 第二節 後期の教父哲學
- 教權確立の三大問題
- アウグスティヌスの哲學
- 第二章 スコラ哲學の發
- 第一節 スコラ哲學の發
- エリゲナ
- アンセルムス
- アバラールトウス
- アラビヤ及び猶太の哲學
- トーマス・アキナス
- 第三節 スコラ哲學の衰
- 類の原因

### 第三篇 近世哲學史

- 第一章 近世哲學發生の原因
- 第一節 近世哲學の發生
- 文藝復興
- 宗教改革
- 自然研究の傾向
- 近世哲學の發生
- 第二章 近世哲學の二大系統
- 純經驗論
- 第一節 經驗哲學の發達
- 學問の理想
- 第二節 學問の研究法
- 唯物論
- ホッブズの學說に對する反對論
- 第三節 ロック
- 倫理論
- 第四節 ヒューム
- 第五節 佛國の經驗哲學

### 第四節 プラトーン學派

- 國家論
- 道徳論
- 心理學
- 形而上學
- 倫理學
- 心理學
- 國家論
- 第三章 アリストテレス學派
- 第一節 倫理時代の哲學
- 克己說
- 世界主義
- 第二章 エピクロス學派
- 快楽主義
- 個人主義
- 第三節 懐疑學派との比較
- 古懐疑學派
- 新懐疑學派
- 第四章 宗教時代の哲學
- 第一節 新時代の哲學
- 新ビタゴラス學派
- 新ビタゴラスのプラトーン學派
- アレキサンドリアの宗教哲學派

### 第二章 後期の教父哲學

- 教權確立の三大問題
- アウグスティヌスの哲學

### 第二章 スコラ哲學の發

- 第一節 スコラ哲學の發
- エリゲナ
- アンセルムス
- アバラールトウス
- アラビヤ及び猶太の哲學
- トーマス・アキナス
- 第三節 スコラ哲學の衰
- 類の原因

### 第二章 近世哲學の二大系統

- 純經驗論
- 第一節 經驗哲學の發達
- 學問の理想
- 第二節 學問の研究法
- 唯物論
- ホッブズの學說に對する反對論
- 第三節 ロック
- 倫理論
- 第四節 ヒューム
- 第五節 佛國の經驗哲學



第三章 佛國の經驗論の移入 第一節 純理的哲學の發達 第二節 カルト	第二章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第一章 心理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第三章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第二章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第一章 心理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第四章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第三章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第二章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第一章 心理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第五章 カントの哲學の功績 第一節 シュエーリテ 第二節 シュエーリテ	第四章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第三章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第二章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第一章 心理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第六章 實證哲學の發達 第一節 英國功利說の發 第二節 英國功利說の發	第五章 實證哲學の發達 第一節 英國功利說の發 第二節 英國功利說の發	第四章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第三章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第二章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第一章 心理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第七章 進化論の要旨 第一節 實證哲學の反對說 第二節 實證哲學の反對說	第六章 實證哲學の發達 第一節 英國功利說の發 第二節 英國功利說の發	第五章 實證哲學の發達 第一節 英國功利說の發 第二節 英國功利說の發	第四章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第三章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第二章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第一章 心理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第八章 新カント學派の起原 第一節 新カント學派の起原 第二節 新カント學派の起原	第七章 進化論の要旨 第一節 實證哲學の反對說 第二節 實證哲學の反對說	第六章 實證哲學の發達 第一節 英國功利說の發 第二節 英國功利說の發	第五章 實證哲學の發達 第一節 英國功利說の發 第二節 英國功利說の發	第四章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第三章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第二章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第一章 心理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第九章 現代の哲學 第一節 現代の哲學 第二節 現代の哲學	第八章 新カント學派の起原 第一節 新カント學派の起原 第二節 新カント學派の起原	第七章 進化論の要旨 第一節 實證哲學の反對說 第二節 實證哲學の反對說	第六章 實證哲學の發達 第一節 英國功利說の發 第二節 英國功利說の發	第五章 實證哲學の發達 第一節 英國功利說の發 第二節 英國功利說の發	第四章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第三章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第二章 倫理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ	第一章 心理學 第一節 カルト 第二節 スピノーザ
--	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---	---	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--	---	---	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---	--	---	---	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------	---	--	---	---	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

附近の書店に  
直接申込下  
さい

### 發行所

東京市、中野町、中野三丁目  
振替（東京六八二八六）

### 帝國教育會出版部

255
7
24

終

